

平成16年度

**宮城県学習状況調査結果報告書**

平成17年3月

**宮城県教育委員会**

#### 【本報告書の趣旨】

本報告書は、宮城県教育委員会が平成16年度に実施した本県小中学校児童生徒の学習状況調査の結果をまとめたものである。

右の目次のように、本報告書には、調査のあらまし、各教科調査結果、学習意識調査結果をそれぞれ掲載し、併せて、各教科の指導改善事項や各教科問題ごと地域・市町村別結果状況についても参考表として付した。

なお、本年度は宮城・岩手・和歌山・福岡各県が参画する地方分権研究会の取組の一環として実施したため、その結果概況も示した。

各市町村等教育委員会及び各学校はじめ関係各位において本県児童生徒の一層の学力向上に向け広く活用いただければ幸いである。

## 目 次

I	調査のあらまし	2
1	調査の目的	2
2	調査の内容	2
3	調査月日	2
4	調査対象学年・教科	2
5	結果評価にあたっての基本的な考え方	3
II	各教科調査結果	
1	小学校国語関係	
	○ 調査問題	4
	○ 正答と正答率	8
	○ 結果と考察	9
2	小学校社会関係	
	○ 調査問題	15
	○ 正答と正答率	19
	○ 結果と考察	20
3	小学校算数関係	
	○ 調査問題	26
	○ 正答と正答率	30
	○ 結果と考察	31
4	小学校理科関係	
	○ 調査問題	37
	○ 正答と正答率	42
	○ 結果と考察	43
6	中学校国語関係	
	○ 調査問題	49
	○ 正答と正答率	53
	○ 結果と考察	54
7	中学校社会関係	
	○ 調査問題	60
	○ 正答と正答率	65
	○ 結果と考察	66
8	中学校数学関係	
	○ 調査問題	72
	○ 正答と正答率	76
	○ 結果と考察	77
9	中学校理科関係	
	○ 調査問題	83
	○ 正答と正答率	88
	○ 結果と考察	89
10	中学校英語関係	
	○ 調査問題	95
	○ 正答と正答率	100
	○ 結果と考察	101
	【参考表1：各教科の今後の指導改善事項】	107
	【参考表2：各教科・問題ごと地域・市町村別結果状況】	110
	【参考表3：地方分権研究会結果概況】	128
III	学習意識調査結果	
1	小・中学校「学習意識調査」調査票	130
2	小・中学校「学習意識調査」結果と考察	132
	【参考表4：学習意識調査の地域・市町村別結果状況】	144

## I 調査のあらまし

### 1 調査の目的

県内小・中学校の児童生徒の教育課程における学習の定着状況を調査し、学習指導の改善・充実と今後の教育施策の企画・展開に活用しようとするもの。

### 2 調査の内容

上記の目的に基づき、小学校においては、国語、社会、算数、理科、中学校においては、国語、社会、数学、理科、英語に関する学習状況調査を実施した。

併せて、児童生徒の学習に対する意識及び取組状況等について把握するため、児童生徒を対象とする学習意識調査を実施した。

なお、今回の調査は、宮城県、岩手県、和歌山県、福岡県が共同して参画する地方分権研究会の一環として同一問題で実施した。

### 3 調査月日 平成16年11月25日(木)

### 4 調査対象学年・教科及び対象校数・対象者数

#### (1) 各教科調査

校種	学年	教科	校数(校)	人数(人)
小学校	5学年	国語	447	21,274
		社会		21,287
		算数		21,282
		理科		21,286
中学校	2学年	国語	222	21,640
		社会		21,647
		数学		21,645
		理科		21,636
		英語		21,623

#### (2) 学習意識調査

校種	学年	校数(校)	人数(人)
小学校	5学年	447	21,299
中学校	2学年	222	21,636

## 5 結果評価に当たっての基本的な考え方

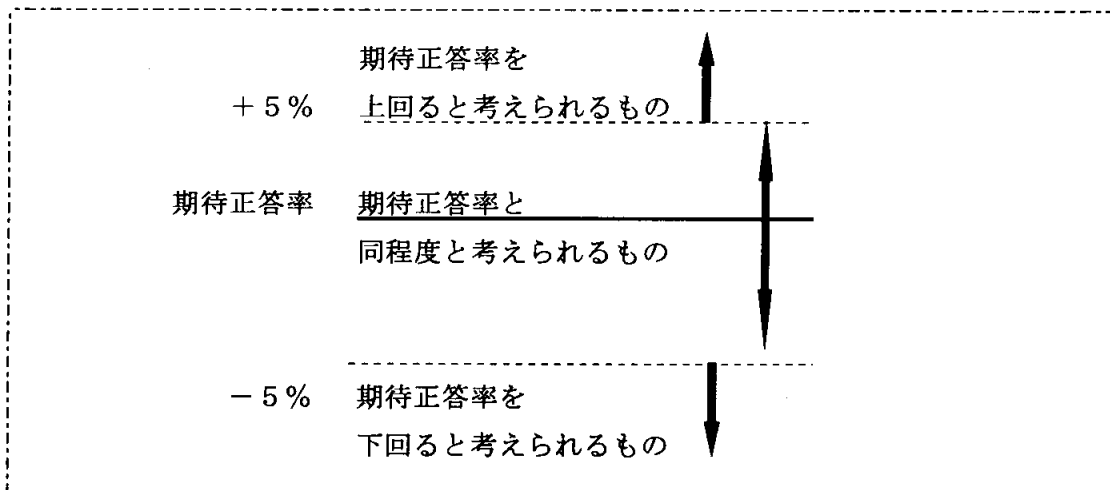
宮城県としての平成14年度からの調査の分析・評価手法（通過率60%以上段階の問題シェア等）を継続しつつ、新たに地方分権研究会における以下の手法も採り入れ分析及び評価等を行った。

[説明]

「期待正答率」を新たに用いた。

「期待正答率」とは、地方分権研究会が調査実施に際して掲げた全体的な学習の目標（全体として正答率70%程度を目標）に沿って、個々の問題ごとに正答を期待する児童・生徒の割合を%で表したものであり、各用語等の定義は以下のとおり。

- ア 「正答率」とは、問題ごとに、実際に正答した児童・生徒数を調査者数の合計で割った数値。
- イ 正答率が「期待正答率を上回ると考えられるもの」とは、正答率が期待正答率から5%を超えて上回っているもの。
- ウ 正答率が「期待正答率と同程度と考えられるもの」とは、正答率が期待正答率の±5%の幅に収まっているもの。
- エ 正答率が「期待正答率を下回ると考えられるもの」とは、正答率が期待正答率から5%を超えて下回っているもの。



- オ 正答率が「期待正答率を上回ると考えられるもの」または「期待正答率と同程度と考えられるもの」は、この問題に対する達成度は「おおむね良好」として（地方分権研究会の取扱いによる）。
- カ 「上回ると考えられる」調査問題と「同程度と考えられる」調査問題との数の合計が全調査問題数の半数以上になった場合には、学習の実現状況を「おおむね良好」として（同上）。

小学5年「国語」正答と正答率

問題番号	領域	問題内容	正答	正答率	期待正答率	4県正答率		
1		話すこと・聞くこと	聞き取り	(1)	4	97.6	70.0	98.0
				(2)	2	97.5	80.0	97.9
				(3)	3	80.8	60.0	81.8
2	言語事項	漢字の読み	(1) ①	いんしょう	89.2	70.0	89.3	
			(1) ②	す	98.1	90.0	98.6	
			(1) ③	あた	82.8	60.0	83.9	
		(2)	漢字の書き	(2) ①	結果	61.9	90.0	67.0
				(2) ②	底	75.8	70.0	76.2
				(2) ③	建てる	54.1	60.0	59.1
3	言語事項	(1)	国語辞典の使い方	(3) ①	2	43.1	60.0	46.6
				(3) ②	4	66.6	70.0	64.8
		(2)	同音異義語	4	75.0	90.0	77.3	
		(3)	語彙	(例)美	79.3	80.0	80.7	
		(4)	慣用句	1	77.7	60.0	79.3	
		(5)	主語・述語	大声で話している人が兄です。	71.1	80.0	70.3	
		(6)	修飾語	3	63.4	70.0	68.8	
		(7)	ローマ字の読み	きって	51.5	70.0	54.8	
(8)	ローマ字の書き	tanuki	55.2	70.0	56.5			
4	読むこと	文学的な文章(物語)	(1)	3	73.7	70.0	73.6	
			(2)	4	63.7	60.0	63.9	
			(3)	馬	83.8	90.0	84.3	
			(4)	2	79.2	70.0	79.8	
			(5)	暗い黒	11.5	50.0	12.8	
5	読むこと	説明的な文章(説明文)	(1)	4	60.1	80.0	60.2	
			(2)	(例)食べ物のおいしさを作りだすため(15字)	51.8	80.0	52.8	
			(3)	2	44.3	60.0	45.1	
			(4)	3	71.7	70.0	72.3	
			(5)	1	81.9	70.0	82.9	
6	書くこと	作文	(1)	(解答例)(紹介するクラブまたは委員会名を書く) 美化委員会 (解答例)(7行～9行＝121字～180字以内で書く)(2段落構成で書く)	87.4	90.0	88.6	
			(2) ②	(第1段落に「クラブまたは委員会の活動内容」を書く) (第2段落に「クラブまたは委員会の活動内容に対して感じていることや考えていること」を書く) わたしの入っている美化委員会は、そうじ道具の管理や、校内をきれいにするのが主な仕事です。また月に一回、ボランティア活動で、学校の周辺のごみ拾いをしています。 学校以外の場所で活動する委員会は、ほかにあまりないので、近所の人にお礼を言われると、とてもほかに思います。校内での活動はあまり目立ちませんが、えんの下の力持ちとしてがんばっています。	47.0	70.0	53.2	
				56.4	60.0	61.1		

## 第5学年「国語」結果と考察

### 1 出題のねらいと内容

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語についての知識・理解・技能」の観点に基づき、基礎的・基本的な事項を確かに理解する能力を育成する言語の教育としての立場を重視し、国語を正確に理解し、適切に表現する力や応用する力をみることを出題のねらいとして問題を作成した。

①では、あるクラスで行われた話し合いの様子を聞いて、話し手の意図を考えながら、話の内容を聞き取ることができるかをみようとした。

②では、第4学年の漢字の読み・書きから言語についての知識・理解をみようとした。

③では、国語辞典の使い方や同音異義語、語彙、慣用句、主語・述語による文の構成、修飾語、ローマ字の読み・書きを含む言語事項の幅広い知識・理解・技能をみようとした。

④では、文学的な文章において文中の登場人物の心情や場面の描写など、優れた叙述を味わいながら読むことや、叙述を基に情景を想像しながら読む力をみようとした。

⑤は、説明的な文章において目的や意図に応じて内容を的確に押さえながら読むことや、書かれている内容の事象と意見の関係や要旨、段落相互の関係、接続語の使い方などによる文章の構成をとらえる力をみようとした。

⑥では、必要のある事柄を選択し、自分の考えが明確になるように段落相互の関係に注意して書く力をみようとした。

### 2 結果と考察

#### ① 話し手の意図を考えながら、話の内容を聞くことができるかをみる問題

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向			
①	(1)	97.6	2.0	0.4	70.0	98.0	1 (0.4%)	2 (0.8%)	3 (0.7%) その他(0.1%)
	(2)	97.5	2.1	0.4	80.0	97.9	1 (0.5%)	3 (0.8%)	4 (0.7%) その他(0.1%)
	(3)	80.8	18.5	0.7	60.0	81.8	1 (1.8%)	2 (8.6%)	4 (7.9%) その他(0.2%)

#### 【考察】

(1)は、提案理由を正確に聞き取る問題である。正答率は97.6%で、期待正答率を大きく上回っている。誤答で最も多かった2については、提案者の発言と反対意見を取り違えたためと考えられる。また、次に多かった3については、全く述べられていないことを選んでいることから、全体的に話が聞き取れていないものと考えられる。

(2)は、提案者の意見に対する反対理由を正確に聞き取る問題である。正答率は97.5%で、期待正答率を大きく上回っている。誤答で最も多かった3については、反対意見の発言者による対案の提案理由と、提案者の提案に対する反対の理由とを混同したためと考えられる。また、次に多かった4については、反対理由である「ソフトボールをしたことがない人がある」という部分を「ソフトボールを嫌いな人」と誤解したためと考えられる。

(3)は、自分の意見を相手に分かりやすく伝えるための話し方の工夫として、初めにいちばん伝えたい事柄を述べ、次にその理由を述べているということをとらえる問題である。正答率は80.8%で、期待正答率を大きく上回っている。誤答で最も多かった2については、いちばん伝えたい事柄とその根拠となる事柄を正しく理解していないためと考えられる。また、次に多かった4については、話し手自身の意見なのか他の人の意見なのか、注意して聞き分けていないためと考えられる。

結論と理由を区別した話し方や意見と引用の違い、結論を初めに話す「頭括式」や結論を最後に出す「尾括式」の違いなどについてさらに理解を深め、それらを言語能力として確実に身に付けさせていくことが必要である。

② 第4学年配当漢字を読んだり、書いたりすることができるかをみる問題

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向	
(1)	①	89.2	6.3	4.5	70.0	89.3	「いんぞう」と解答 (2.5%) その他(3.8%)
	②	98.1	1.1	0.8	90.0	98.6	「たん」と解答 (0.1%) その他(1.0%)
	③	82.8	16.0	1.2	60.0	83.9	「へん」と解答 (0.2%) 「まわ(り)」と解答 (13.6%) その他(2.2%)
②	①	61.9	22.4	15.7	90.0	67.0	「結」が誤答 (11.1%) 「果」が誤答 (3.3%) その他(8.0%)
	②	75.8	12.7	11.5	70.0	76.2	「低」と解答 (2.1%) その他(10.6%)
	③	54.1	34.6	11.3	60.0	59.1	「立てる」と解答 (1.5%) 「健てる」と解答 (11.2%) 「建る」と解答 (14.2%) その他(7.7%)

【考察】

(1)は、第4学年の配当漢字から出題された漢字を読む問題である。

①の正答率は89.2%で、期待正答率を大きく上回っている。「いんぞう」と読み違えた児童は、用例による「象」の読み方の違いを理解していなかったためと考えられる。

②の正答率は98.1%で、期待正答率を上回っている。「たん」と読み違えた児童は、「巢」と「単」を混同したためと考えられる。

③の正答率は82.8%で、期待正答率を大きく上回っている。「まわ(り)」と読み違えた児童が最も多かったが、これは問題文の「辺りを見回す」の文意を類推したためと考えられる。

(2)は、第4学年の配当漢字から出題された漢字を書く問題である。

①の正答率は61.9%で、期待正答率を大きく下回っている。誤答で多かったのは、「結果」の二つの漢字のうちどちらか一つを正しく書けなかったもので、両方合わせて14.4%である。

②の正答率は75.8%で、期待正答率を上回っている。「低」と書き間違えた児童は、正答の「底」と混同したものと考えられる。

③の正答率は54.1%で、期待正答率を下回っている。誤答では、「建る」と表し、送りがなを間違えた児童が最も多かった。

これらのことから、単に漢字の書き取りをドリル的に練習するだけではなく、短文作りなど、文や文章に書き表す学習を繰り返す中で、日常の言語生活に密着させながら漢字力を高めていくことが必要である。

③ 国語辞典の使い方、同音異義語、語彙、慣用句、主語・述語、修飾語の理解、ローマ字の読み書きの力をみる問題

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向	
(1)	①	43.1	55.4	1.5	60.0	46.6	1 (20.4%) 3 (19.4%) 4 (14.8%) その他(0.8%)
	②	66.6	29.3	4.1	70.0	64.8	1 (13.4%) 2 (10.3%) 3 (5.3%) その他(0.3%)
(2)		75.0	24.3	0.7	90.0	77.3	1 (6.1%) 2 (10.1%) 3 (1.0%) その他(7.1%)
(3)		79.3	14.3	6.4	80.0	80.7	・「美」(「美しい」も許容), 「麗」(「麗しい」も許容) 以外の解答 (14.3%)
③	(4)	77.7	21.6	0.7	60.0	79.3	2 (10.4%) 3 (0.6%) 4 (0.4%) その他(10.2%)
	(5)	71.1	26.5	2.4	80.0	70.3	「人が大声で話している兄です」と解答 (13.7%) その他(12.8%)
	(6)	63.4	34.7	1.9	70.0	68.8	1 (5.6%) 2 (23.7%) 4 (2.7%) その他(2.7%)
	(7)	51.5	23.5	25.0	70.0	54.8	「きて」または「きてて」と解答 (0.7%) その他(22.8%)
	(8)	55.2	20.9	23.9	70.0	56.5	tamuki 等, スペルミスが1箇所だけあった場合 (10.0%) その他(10.9%)



【考察】

(1)は、国語辞典の使い方に関する問題である。

①は、終止形以外の活用形で表されている動詞の意味を調べる場合、終止形に直して調べるという基本を理解しているかをみる問題である。正答率は 43.1 %で、期待正答率を大きく下回っている。

②は、①で出題された終止形「ふさぐ」の意味をとらえる問題である。正答率は 66.6 %で、期待正答率と同程度である。①より正答率が高かったのは、例文の文脈から類推して言葉の意味をとらえることができたためと考えられる。

(2)は、同音異義語についての理解をみる問題である。正答率は 75.0 %で、期待正答率を大きく下回っている。誤答では、正答の「自信」と混同して、「自身」と答えた児童が最も多かった。

(3)は、語彙力をみる問題である。送りななを手がかりに、形容動詞「きれいだ」と同義の形容詞から「美」(または「麗」)を選ぶ問題であるが、正答率は 79.3 %で期待正答率と同程度である。

(4)は、慣用句についての理解をみる問題である。正答率は 77.7 %で、期待正答率を上回っている。誤答で最も多かった2については、「小耳にはさむ」という表現と混同したためと考えられる。

(5)は、主語・述語を正しく並べて、意味が通じる文に表せるかをみる問題である。正答率は 71.1 %で、期待正答率を下回った。誤答では、「人が大声で話している兄です」と答えた児童が最も多かったが、これは修飾・被修飾の関係を正しくとらえていないためと考えられる。

(6)は、修飾・被修飾の関係を正しくとらえているかをみる問題である。正答率は 63.4 %で、期待正答率を下回った。誤答で最も多かった2については、形容詞の連体形は名詞を修飾するという文法的なきまりを理解していないためと考えられる。

(7)は、ローマ字の読み方の問題である。正答率は 51.5 %で、期待正答率を大きく下回った。誤答の「きて」や「きてて」については、促音の混じったローマ字の読み方を正しく理解していないためと考えられる。

(8)は、ローマ字の書き取りの問題である。正答率は 55.2 %と、期待正答率を下回った。「tanuki」が正答であるが、「n」を「m」と書くなどの単純なスペルミスが1箇所あったための誤答が 10.0 %ほどみられた。

これらのことから、特に国語辞典や漢和辞典の積極的な利用、同音異義語や同義語・対義語についての理解、主語・述語や修飾・被修飾の関係についての理解、ローマ字の正しい読み書きなど、他の3領域の指導と関連させながら、言語事項全般にわたってより意図的計画的な指導が望まれる。

4 物語の情景を想像しながら、心情や場面についての描写など優れた叙述を味わい読む力をみる問題

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向
(1)	73.7	24.9	1.4	70.0	73.6	1 (2.3 %) 2 (14.5 %) 3 (4.4 %) その他 (3.7 %)
(2)	63.7	34.9	1.4	60.0	63.9	1 (15.6 %) 2 (13.4 %) 3 (5.2 %) その他 (0.7 %)
4 (3)	83.8	9.9	6.3	90.0	84.3	「うま」と解答 (0.3 %) その他 (9.6 %)
(4)	79.2	19.2	1.6	70.0	79.8	1 (6.0 %) 3 (10.8 %) 4 (1.8 %) その他 (0.6 %)
(5)	11.5	60.0	28.5	50.0	12.8	「くらい、暗、暗い」と解答 (0.5%) 「巨大な」と解答(7.9%) その他 (51.6 %)

【考察】

(1)は、心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいながら読むことができるかを把握する問題である。正答率は 73.7 %で期待正答率と同程度である。誤答率は 24.9 %で、砂丘を見る前後の父の気持ちの変化を読み取ることができないためと考えられる。

(2)のねらいも(1)と同様であり、正答率は 63.7 %で期待正答率と同程度である。

一方、叙述を基にして漢字1字で解答する(3)については、正答率が、83.8 %で期待正答率を下回っている。内容を理解していながら設問の指示を守らなかったためなどの誤答が 9.9 %みられた。

(4)は、(1)(2)とねらいを同じくした選択肢の問題である。正答率が 79.2 %で期待正答率を上回っている。誤答率は 19.2 %で、「胸をはった」「胸を借りた」という慣用句の意味を理解していないためと考えられる。

(5)は正答率が11.5%と著しく期待正答率を下回っている。誤答率が60.0%、無答率が28.5%と、本文の表記通りに答えを抜き出すことや、定められた文字数で抜き出すこと、「文の初め」を抜き出すことなど、設問通りの解答を導くことができず、叙述に即して読み取る力が十分でない面や記述による解答形式に慣れていない面がみられた。

国語学習において、文学的な文章を読むことに一層力を注ぐことが望まれる。具体的には、情景などの表現に着目し物語の展開や登場人物の気持ちの変化を読み取り、自分の感想を深めることが必要である。そのためには、文章の必要な部分を詳しく読んだり優れた表現を視写したりするなど、言葉との関連を意識できるように指導を工夫したい。また、読書発表会などのように感想を明確にする場面や、書くために読むといった目的意識に裏付けられた活動が児童の読みを深めることなどに着目したい。

**5 説明的な文章において、目的や意図に応じて文章の内容を的確に押さえながら読むことができるかをみる問題**

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向	
5	(1)	60.1	37.7	2.2	80.0	60.2	1 (25.7%) 2 (4.6%) 3 (7.0%) その他 (0.4%)
	(2)	51.8	27.7	20.5	80.0	52.8	「おいしく長持ちさせるため」等と解答 (1.5%) 「文字オーバー」(0.1%) 「食べ物の油がいたむのを防ぐため」と解答 (7.5%) その他 (18.6%)
	(3)	44.3	49.8	5.9	60.0	45.1	1 (11.4%) 3 (29.3%) 4 (7.8%) その他 (1.3%)
	(4)	71.7	22.2	6.1	70.0	72.3	1 (3.1%) 2 (5.2%) 4 (13.6%) その他 (0.3%)
	(5)	81.9	11.3	6.8	70.0	82.9	2 (5.8%) 3 (2.0%) 4 (3.3%) その他 (0.2%)

**【考察】**

(1)は、目的や意図に応じて、文章の内容を的確に押さえながら読むことができるかをみる問題である。正答率は、60.1%で期待正答率を大きく下回っている。誤答率は37.7%で「これ」の指す内容が読み取れず「さまざまな食べ物」や「加工食品」「作物や家畜」ととらえたためと考えられる。

(2)も(1)と同じねらいの問題であるが、正答率が51.8%で期待正答率を大きく下回っている。誤答率は27.7%で、説明されている内容を目的や意図に応じて的確に押さえ読み取ることができていない。

(3)は、書かれている内容について、事象と意見の関係を押さえながら読むことができるかをみる問題である。正答率は44.3%で期待正答率を下回っている。誤答率が49.8%と、説明されている事象と意見の関係を押さえることが困難であったことが正答率に表れている。また、文末に注意して事実と意見を読み分けることができず、表現の特徴にも理解が不十分であると考えられる。

(4)は、文章の内容を的確に押さえながら、要旨をとらえることができるかをみる問題である。正答率は71.7%で期待正答率と同程度である。誤答の中で最も多かったのは、文章中に述べられていない事柄を選択した4であった。

(5)は、自分の考えを広げたり深めたりするために、必要な図書資料を選ぶことができるかをみる問題である。正答率は、81.9%で期待正答率を上回っている。誤答率は11.3%で、文章の内容を理解していないために「食品」や「食べ物」という言葉だけで選択してしまったためと考えられる。

説明的な文章の読み取りにおいては、指導要領「C読むこと」の「イ 目的や意図などに応じて、文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえる」に即した具体の指導を一層工夫・改善することが望まれる。授業場面では、目的に応じた音読、黙読、速読、比べ読みなどさまざまな読み方を適宜用いて、児童の意欲を喚起しながら内容を的確に押さえ読み取る工夫が必要である。また、要旨を読み取るための「読み方」の指導として、「問い・話題提示」の段落と「答え・まとめ」の段落を見つけさせたり、文章構成を表にまとめたり、文末表現に注意するなど、文章をきめ細かに読み進めることも大切である。

〔6〕 自分の考えが明確になるように、段落相互の関係を考えて書くことができるかをみる問題

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向		
(1)	87.4	2.3	10.3	90.0	88.6	「2つ以上の名前を書いている」(0.5%) その他(1.8%)		
6 問 題 番 号	(2)	①	47.0	35.9	17.1	70.0	53.2	「イの条件を満たさない」(9.9%) 「アの条件を満たさない」(6.0%) その他(20.0%)
		②	56.4	26.4	17.2	60.0	61.1	「エの条件を満たさない」(12.8%) 「第1段落と違うクラブ等の感想」(0.2%) 「(1)で紹介すると書いた以外の記述」(0.1%) ・第1段落に「クラブまたは委員会の活動内容について相手にわかるように」書いているが、第2段落に「クラブまたは委員会に対して感じていることや考えていること」を満たしていない場合、または第1段落で書いたクラブや委員会とは違うクラブや委員会の感想を書いている場合など、設問の指示を読み落としている。 ・設問の条件は満たしているが、(1)で紹介すると書いたクラブや委員会とは違うクラブについて書いており、設問の指示を守ることができていない。 その他(13.3%)

【考察】

(1)は、書く必要がある事柄を選択できるかをみる問題である。正答率は、87.4%で期待正答率と同程度であり、設問文の指示通りに書けないための誤答があった。

(2)は論述式の問題で、①では自分の考えが明確になるように、段落相互の関係を考えることができるかを、②では事象と感想を区別し、書こうとすることの中心を明確にしなが、段落と段落の続き方に注意し、相手や目的に応じて書くことができるかをみる問題である。①の正答率は、47.0%で期待正答率を大きく下回っている。誤答率は35.9%であり、121字から180字以内で書くということと、二つの段落という設問の指示が守られていない児童が多く、出題の意図を的確につかみ条件に即してまとめることができなかつたための誤答となっている。また、段落分けの意識がないことも誤答率を大きくしている。②の正答率は、56.4%で期待正答率と同程度である。誤答率は26.4%であり、これも文字数の制限や事象と感想を区別して書くという設問文の指示を読み落としたり、条件に即して書くことができなかつたりしたためと考えられる。

「書くこと」については、系統的な指導の累積や目的・意図を明確に持って書く場面をさまざまに設定することを念頭においた授業を展開することが望まれる。自分の考えを分かりやすくまとめることや、中心となる言葉や相手に伝えたい言葉で表現し、字数等も意識しながら書くことの習慣化を図りたい。さらには、「読むこと」や「言語事項」との関連を図り、具体的な場面で自分の考えを明確に表現する力をいっそう高めていく必要がある。

3 まとめ

「話すこと・聞くこと」から3問、「書くこと」から3問、「読むこと」から10問、「言語事項」から15問、計31問の構成である。

この31問のうち、正答率が60%以上のものは22問(話すこと・聞くこと：3問、書くこと：1問、読むこと：7問、言語事項：11問)、40%以上60%未満のものが8問(書くこと：2問、読むこと：2問、言語事項：4問)、40%に至らなかつたものが1問(読むこと：1問)という結果となっている。

全体として、正答率60%以上の問題が31問中22問(71%)あり、おおむね定着が図られているという状況である。なお、昨年度は正答率60%以上の問題が87%であり、これに比べてはポイントが下回っている。

さらに今回地方分権研究会で目標とする正答率70%ライン以上の問題は31問中17問あり(55

%)、また、表に示したように新たに掲げた期待正答率と比較すると、期待正答率を上回ると考えられるものが、10問(話すこと・聞くこと：3問、読むこと：2問、言語事項：5問)期待正答率と同程度と考えられるものが、7問(書くこと：2問、読むこと：3問、言語事項：2問)、期待正答率を下回ると考えられるものは、14問(書くこと：1問、読むこと：5問、言語事項：8問)であり、全体として期待正答率を上回ると考えられるものと同程度と考えられるものの問題数の合計は31問中17問(55%)と、おおむね良好であると評価できる。

区分	問題数 (小問数)	期待正答率を上 回ると考えられ るもの(A)	期待正答率と同 程度と考えられ るもの(B)	小計 (A)+(B)	期待正答率を下 回ると考えられ るもの(C)	領域別 正答率(%)	期待正答率 (%)
話すこと・聞くこと	3	3	0	3	0	92.0	70.0
書くこと	3	0	2	2	1	63.6	73.3
読むこと	10	2	3	5	5	62.2	70.0
言語事項	15	5	2	7	8	69.7	72.7
計	31	10	7	17	14		

「話すこと・聞くこと」については、3問とも正答率が期待正答率を上回っている。

このことから、話の内容を聞き取る力はおおむね良好と考えられる。

しかし一方で、相手に分かりやすい話し方の工夫について、結論と理由、意見と引用を聞き分けることのできなかつた児童も一部にみられる。このことは、単に聞く力の問題にとどまるものではなく、話す力にもかかわり、「話すこと・聞くこと」における「伝え合う力」を育てるための指導上の課題とみるべきである。したがって、今後とも「話すこと・聞くこと」を一体的にとらえた学習を通して、相手や目的、意図に応じ、筋道を立てて話したり、相手の話の中心や意図を聞き取ったりする能力の育成に努めていく必要がある。

「書くこと」については、3問中2問は期待正答率と同程度であったが、残りの1問は期待正答率を大きく下回っている。

「書くこと」の課題については、普段から書く目的や意図を明確に設定できるような題材を工夫して学習が展開できるようにするとともに、自分の考えが効果的に伝わっているかどうかを実感できるような、言葉で伝え合う場面設定をすることが望ましい。また、「読むこと」や「言語事項」との関連を図り、文章全体の構成や記述を念頭に置き、筋道を立てたり書く必要のある事柄の取捨選択をしたり、整理したりする学習が必要である。

「読むこと」については、10問中2問が期待正答率を上回り、3問が同程度であった。一方、10問中5問が期待正答率を下回っている。このうち、正答率が期待正答率を著しく下回っている問題が4問である。期待正答率を大きく下回った問題では、文章の構成を理解して的確に読み取る力や答えを設問の指示に沿って本文の表記通り、定められた文字数で抜き出すことへの課題がみられた。また、条件付きの解答の仕方に慣れていないことや叙述に即して読み取る力が不十分なこと、記述による解答への抵抗が考えられる。

「読むこと」の課題については、普段から書かれている内容を的確に押さえながら要旨をとらえたり、内容や目的に応じて内容を短く要約する学習が必要である。また、「書くこと」や「言語事項」との関連を図り、要旨をまとめる学習を繰り返し行うことも大切である。指導要領「C読むこと」の内容に即した具体的な指導をいっそう工夫・改善することが望まれる。

「言語事項」については、15問中8問において正答率が期待正答率を下回っている。

期待正答率を下回った設問は、漢字の書き取り、国語辞典の使い方、同音異義語や同義語の理解、主語・述語や修飾・被修飾の関係についての理解、ローマ字の正しい読み書きなどで、言語事項全般にわたって課題がみられる。したがって、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域の学習を通して、日常の言語生活との関連を図りながら、より意図的・計画的に言葉の働きや使い方についての理解を深め、適切に表現できるようにきめ細かな指導を行っていく必要がある。

## 小学5年「社会」正答と正答率

問題番号	領域	問題内容	正答	正答率	期待正答率	4県正答率
1	① ② 地域の人の安全 な生活	地域における災害や事故 (山火事)から人々の安全 を守る工夫	(1) 2	84.2	80.0	86.5
			(2) 2と4 または 4と2	77.3	80.0	78.9
			(3) ① 2	91.3	70.0	92.7
			(3) ② 1	84.2	70.0	84.6
2		地域における災害や事故 から人々の安全を守る工 夫(交通安全)	(1) 2	93.6	90.0	93.8
			(2) 5	94.0	90.0	94.3
3	地域の暮らしの移 り変わり	地域の暮らしの移り変わり	(1) イ→ア→ウ	98.1	80.0	98.1
			(2) 2	93.5	80.0	93.7
			(3) 教科書で扱った昔の道具、郷土資料館などで学習した道具が 書かれている。 例:かまど、おひつ、水がめ、てつびん、ひばし、ひばち、しちり ん、ランプ、ちょうちん、あんどん、うす、きね 等	84.3	70.0	83.0
			(4) 2	93.6	80.0	93.3
4	① ② ③ 地域の地形・土地 利用	地形や方位などを地形図 から読み取る	(1) 3	87.5	70.0	87.1
			(2) 2	51.9	70.0	53.2
			(3) 4	58.2	60.0	59.8
			(4) ① 4	94.4	70.0	95.0
			(4) ② 3	44.8	70.0	51.8
			(4) ③ 5	62.3	70.0	67.2
5		地形図を読み取る	(1) 4	51.4	70.0	58.6
			(2) 2	45.2	70.0	48.8
			(3) 3	70.5	70.0	71.6
6	我が国の農業	我が国の食料生産 農業(米作り) 生産地 生産に従事する人々の 工夫や努力	(1) 2	71.0	80.0	72.9
			(2) 2	45.1	80.0	44.7
			(3) ① いねかり、だっこくなど。	72.3	70.0	71.5
			(3) ② 田植えや稲刈りなどの機械化が進み、短い時間で多くの仕事 ができるようになったから。等	81.6	60.0	79.8
7	ア イ ウ エ	我が国の食料生産 農業(米作り) 生産地	(1) 3	63.8	70.0	65.5
			(2) 新潟県(新潟)または秋田県(秋田)	66.0	60.0	71.7
			(3) ア 3	80.3	70.0	79.1
			(3) イ 5	92.1	70.0	92.4
			(3) ウ 2	58.6	70.0	58.9
			(3) エ 8	66.8	80.0	65.8

## 第5学年「社会」結果と考察

### 1 出題のねらいと内容

公民的資質の基礎を養うことをねらいとする3・4年生の自分たちの住んでいる地域社会の学習や、5年生前半の国民生活を支える我が国の産業と国土に関する学習から、主として、「社会的な思考・判断」「資料活用の技能・表現」「社会的事象についての知識・理解」の力をみることをねらいとした。

①では、消防署の仕事の内容や他機関とのつながりを考えることを通して、地域における災害から人々の安全を守る工夫について理解し、判断する力をみようとした。

②では、事故から人々の安全を守る工夫を考えるための設備とその役割について、資料から読み取る力をみようとした。

③では、昔の道具の変遷の様子を考えることを通して、地域の暮らしの移り変わりについて思考・判断する力や理解する力をみようとした。

④では、地形や方位などを地形図から読み取ることを通して、地図記号の意味や方位などを理解する力をみようとした。

⑤では、等高線と断面図を関連的に読み取ることを通して、資料を活用する力や土地の高低と傾斜について理解する力をみようとした。

⑥では、庄内地方の米作りの様子や生産に従事する人々の工夫を写真や統計資料から読み取ることを通して、我が国の食料生産についての特色について思考・判断する力をみようとした。

⑦では、食料生産物の分布や土地利用の特色などを分布図や統計資料などから読み取ることを通して、米作りを中心とした我が国の食料生産について思考・判断する力をみようとした。

### 2 結果と考察

① 消防署の仕事の内容や他機関とのつながりを考えることを通して、地域における災害から人々の安全を守る工夫について理解し、判断する力をみる問題

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向		
①	(1)	84.2	15.6	0.2	80.0	86.5	1 (5.5%) 3 (5.7%) 4 (4.3%) その他 (0.1%)	
	(2)	77.3	22.5	0.2	80.0	78.9	2が正解で、4が不正解の解答(4.7%) 2が不正解で、4だけ正解の解答(16.1%) その他(1.7%)	
	(3)	①	91.3	8.4	0.3	70.0	92.7	1 (5.2%) 3 (2.3%) 4 (0.4%) その他(0.5%)
		②	84.2	14.9	0.9	70.0	84.6	2 (6.4%) 3 (3.8%) 4 (3.8%) その他(0.9%)

#### 【考察】

(1)は、消防署の仕事について調べる際に、適切な質問を選択する問題である。正答率は84.2%で、期待正答率と同程度である。

(2)は、消防署の仕事の工夫について考え、指摘できるかを問う問題である。正答率は77.3%で、期待正答率と同程度である。

(3)は、火事が起きた時の連絡や協力の仕組みを理解しているかを問う問題である。①の正答率は91.3%、②は84.2%であり、どちらの問題も期待正答率を上回っている。

(2)の誤答例をみると、4の「消防士の仕事」だけ正解し、2の「消防署同士の協力体制」についての不正解の解答が16.1%みられ、近隣の市や町の消防署との連携にまで考えが及ばない児童が多い。一方で、(3)の関係諸機関との連携については正答率が高いことと考え合わせると、関係諸機関との連携についての学習の成果が現れているものの、諸機関の中の消防機関自体の広域性や

連携についての学習内容の扱いが、十分ではないことがうかがえる。

今後は、地域の実態を考慮しながら、見学等での調査活動など体験活動を確保し、「大規模火災が起こったら」などという仮定を想起させながら、消防機関自体の連携が起こりうる事例を取り上げるなどの学習内容をさらに工夫していくことが必要である。

**2 事故から人々の安全を守る工夫を考えるための設備とその役割について、資料から読み取ることができるかをみる問題**

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向			
2	(1)	93.6	6.0	0.4	90.0	93.8	1 (2.6%)	3 (0.6%)	4 (0.5%)
	(2)	94.0	5.5	0.5	90.0	94.3	5 (1.4%)	6 (0.8%)	その他 (0.1%)
	(2)	94.0	5.5	0.5	90.0	94.3	1 (2.0%)	2 (1.5%)	3 (0.4%)
							4 (0.3%)	6 (1.2%)	その他 (0.1%)

**【考察】**

2 の設問は、(1)(2)とも、様々な人が安心して暮らしていくための工夫を資料から選択する問題である。(1)の正答率は 93.6 %、(2)の正答率は 94.0 %であり、どちらも期待正答率と同程度である。

これは、問題文の読み取りがきちんとできていたため、正解の写真の選択が良くできていたものと考えられる。また、この学習が、学校の周りの地域の様子を見学するなどの体験的な活動を通して学ぶことに加え、正解として選択する「スロープつき歩道橋」や「点字ブロック」などが児童の日常生活に結び付いているためであると思われる。このことは、地域学習の特質でもある、実際に見たり、聞いたり、触れたりするなどという体験的な活動の重要性を示しているともとらえられる。

今後も、児童の日常生活や身近な地域の学習材を大切にするとともに見学などの体験的な活動を重視して、児童一人一人が実際に見たり聞いたりすることを大切にしながら、継続して指導に当たりたい。

**3 昔の道具の変遷の様子を考えることを通して、地域の暮らしの移り変わりについて考え、判断する力や理解する力をみる問題**

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向			
3	(1)	98.1	1.8	0.1	80.0	98.1	「イ→ウ→エ」と解答(1.0%) その他(0.8%)		
	(2)	93.5	6.2	0.3	80.0	93.7	1 (3.4%)	3 (1.1%)	4 (1.5%)
	(3)	84.3	9.7	6.0	70.0	83.0	昔の道具以外の解答(9.7%)		
	(4)	93.6	6.0	0.4	80.0	93.3	1 (2.4%)	3 (1.6%)	4 (1.9%)
							その他(0.1%)		

**【考察】**

(1)は、洗濯で使った道具を年代順に選ぶことができるかを問う問題である。正答率は 98.1 %で、期待正答率を上回っている。ここでは、「電気洗濯機」と「全自動洗濯機」の新旧について誤答する例があった。

(2)は、昔の道具に関する内容を調べる方法が分かるかを問う問題である。正答率は 93.5 %で、期待正答率を上回っている。

(3)は、昔の暮らしで使われていた道具に関心を持ち、道具を理解しているかを問う問題である。正答率は 84.3 %であり、期待正答率を上回っている。ここでは、他の設問に比べ誤答率や無答率が高いが、これは選択肢の例示がない記述式の問題であることも影響しているものと考えられる。

(4)は、道具を通して、昔の人々の知恵や工夫を考えることができるかを問う問題である。正答率は 93.6 %で期待正答率を上回っており、問題文や選択肢をしっかりと確認し、昔と今の暮らしをとらえることができているものと考えられる。

これらのことは、児童の身近な生活が学習材となっていることで、昔の暮らしを家庭生活の中から感じ、体験していることや歴史資料館の活用や実物の事象提示などを学習活動に取り入れながら各学校で授業を展開していることなどにも起因するものと考えられる。

今後も、学校内に昔の生活に気付くことができるような資料コーナーを設置したり、地域の昔を振り返ることができるような資料展示などを考慮したりするなどして、児童一人一人の生活と対比しながら興味関心を高めるような工夫を積極的に取り入れていく必要がある。

**4 地形や方位などを地形図から読み取ることを通して、地図記号の意味や方位などを理解する力をみる問題**

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向			
4	(1)	87.5	12.0	0.5	70.0	87.1	1 (6.6%)	2 (4.4%)	4 (1.0%)
	(2)	51.9	46.9	1.2	70.0	53.2	1 (20.4%)	3 (11.8%)	4 (11.3%) その他(3.4%)
	(3)	58.2	36.8	5.0	60.0	59.8	1 (8.4%)	2 (24.9%)	3 (2.9%) その他(0.6%)
	①	94.4	5.2	0.4	70.0	95.0	1 (2.6%)	2 (0.7%)	3 (0.5%)
							5 (0.1%)	6 (0.1%)	その他(1.2%)
							②	44.8	54.2
③	62.3	36.9	0.8	70.0	67.2	5 (10.2%)	6 (5.7%)	その他(1.4%)	
						1 (0.5%)	2 (7.2%)	3 (23.0%)	
						4 (0.3%)	6 (4.2%)	その他(1.7%)	

**【考察】**

(1)は地図を見て、学校の周りの土地の使われ方を問う問題である。正答率が87.5%で、期待正答率を上回っている。基本的な地図記号が理解できていなかったり、凡例を確かめていないための誤答例がみられた。

(2)は、地図上の神社が学校からどの方位にあるかを問う問題である。正答率は51.9%で、期待正答率を下回った。方位が正しく認識されていないため、各選択肢の解答にばらつきがみられた。

(3)は、設問と地図を見比べながら、方位や土地の様子を正しくとらえることができるかを問う問題である。正答率は58.2%で、期待正答率と同程度である。方位の認識と基本的な地図記号の理解ができていないため、南東を南西と取り違える誤答がみられた。

(4)の①～③は、地図記号の意味を問う問題である。①の「病院の地図記号」は正答率は94.4%と期待正答率を上回っているが、②の「消防署の地図記号」は正答率44.8%、③の「寺院の地図記号」は正答率62.3%と期待正答率を下回る結果となり、記号によって正答率にかなり違いがみられた。地図記号の理解においては、「病院の地図記号」はおおむね良く理解されているが、「寺院の地図記号」や「消防署の地図記号」のように日頃あまり見かけないものについては定着が不十分であると考えられる。

方位の認識など基本的な学習事項の定着が不十分であることがうかがえるので、常に他教科等との関連も考慮しながら学習内容の定着が図られるように継続的な指導をするとともに、地図の記号の理解においても、その成り立ちの過程や意味付けを意識した指導が必要であると思われる。

**5 等高線と断面図を関連的に読み取ることを通して、資料を活用する力や土地の高低と傾斜について理解する力をみる問題**

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向			
5	(1)	51.4	47.2	1.4	70.0	58.6	1 (3.4%)	2 (36.9%)	3 (6.5%) その他(0.4%)
	(2)	45.2	53.1	1.7	70.0	48.8	1 (12.7%)	3 (29.8%)	4 (10.5%) その他(0.1%)
	(3)	70.5	28.1	1.4	70.0	71.6	1 (5.0%)	2 (9.9%)	4 (12.6%) その他(0.6%)



【考察】

(1)は、地図上で高低を表す線表示を等高線であると指摘できるかを問う問題である。正答率は51.4%であり、期待正答率を下回っている。「等高線」という基本的な用語の意味が定着していないことが分かる。

(2)は、等高線によって表される土地の傾きを正しく理解しているかを問う問題である。正答率は45.2%で、期待正答率を大きく下回っている。等高線の間隔が土地の高低を表すと誤解しているための解答が多く見られ、等高線の間隔と土地の傾きの関係の理解が不十分であるための誤答と考えられる。

(3)は、等高線によって表された土地の様子を読み取ることができるかを問う問題である。正答率は70.5%であり、期待正答率と同程度である。等高線の混み具合と断面図との関連が図られていないための誤答がみられた。

土地の様子を読み取るための基本的事項の確かな定着が図られていない様子がうかがえるので、他の単元の学習においても、常に地図を活用する場面を積極的に取り入れ意図的、継続的な指導を図ることが今後も大切になると考えられる。

さらに、地図指導においては、平面図と断面図などの関連を図ったり、色塗りや模型作りなど、作業的な学習を取り入れたりし、土地の様子を読み取る力を高めるような指導の工夫が必要である。

**6 庄内地方の米作りの様子や生産に従事する人々の工夫を写真や統計資料から読み取ることを通して、我が国の食料生産についての特色について考え、判断する力をみる問題**

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向		
6	(1)	71.0	28.4	0.6	80.0	72.9	1 (10.5%) 3 (2.6%) 4 (15.3%)	
	(2)	45.1	53.9	1.0	80.0	44.7	1 (40.3%) 3 (8.9%) 4 (4.6%) その他 (0.1%)	
	(3)	①	72.3	23.7	4.0	70.0	71.5	「草取り」等と解答 (10.1%) その他 (13.6%)
		②	81.6	11.4	7.0	60.0	79.8	その他 (11.4%)

【考察】

(1)は、米作りの盛んな条件に必要な資料の集め方が分かるかを問う問題である。正答率は71.0%であり、期待正答率をやや下回っている。ここでは、「米づくりがさかん」であるといえる設問の条件をつかんでいないため、他の条件が含まれる1, 4の解答がみられた。

(2)は、グラフ資料を読み取り、表題を付ける問題である。正答率は45.1%で、期待正答率の80.0%を大きく下回っている。グラフの横軸が何を表しているのか、また、その内訳が表している事柄は何なのかが読み取れていないためと考えられる。

(3)は、米作農家の労働時間の変化を資料から読み取ることと、グラフと写真資料を関連付け、米作りの作業時間が変化した訳を考える問題である。①は正答率が72.3%で、期待正答率と同程度となっている。グラフや写真資料の活用が図られていた反面、最も減ったものという条件に合わない2の解答がみられた。②はグラフと写真から農業機械の発達や機械化について記述する問題である。正答率は81.6%で、期待正答率を上回っている。無回答が7.0%もみられたのは記述式の設問のためと思われる。

特に、(2)の正答率が低いことから、グラフの見方などを継続して指導するとともに、統計資料などの資料活用能力をより意識して指導する必要があると考える。特に、グラフの見方では、何を表しているものかを正確に読み取るためにも、縦軸横軸の単位、グラフの推移と傾向など細かい指導を重点的に扱う場面などを設定することも必要である。

さらに、食料生産が児童の生活と深い結び付きがあることを、地域性を考慮して具体的な事例を取り上げながら理解させるなどの工夫が大切である。また、調べ学習を進める際にも、児童の探した資料だけに頼らず、課題に合わせた基本的な資料を共通で扱うなどの配慮も必要である。

**7 食料生産物の分布や土地利用の特色などを、分布図や統計資料などから読み取ることを通して、米作りを中心とした我が国の食料生産について考え、判断する力をみる問題**

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向			
(1)	63.8	34.7	1.5	70.0	65.5	1 (2.9%)	2 (19.2%)	4 (12.5%) その他 (0.1%)	
(2)	66.0	26.4	7.6	60.0	71.7	その他 (26.4%)			
7 (3)	ア	80.3	17.9	1.8	70.0	79.1	1 (1.3%)	2 (1.2%)	4 (2.7%) 5 (0.2%)
	イ	92.1	6.1	1.8	70.0	92.4	1 (0.5%)	2 (0.7%)	3 (1.1%) 4 (0.8%)
	ウ	58.6	39.1	2.3	70.0	58.9	1 (17.6%)	3 (2.8%)	4 (1.8%) 5 (0.6%)
	エ	66.8	30.5	2.7	80.0	65.8	1 (6.5%)	2 (12.8%)	3 (0.6%) 4 (0.6%)
						7 (5.3%)	その他 (1.4%)		

**【考察】**

(1)は、都道府県別の米の生産量地図を見て、その特色を正しく指摘できるかを問う問題である。正答率は 63.8 %で期待正答率をやや下回っている。凡例で示されている色別の内訳や選択肢の文章をしっかりと確認することなく解答していることがうかがわれ、各選択肢に解答が分散している。

(2)は、米の生産量が特に多い都道府県を答える問題である。正答率は 66.0 %で、期待正答率をやや上回っている。色別から秋田県と新潟県は押さえているが、その県名が正しく定着していないために、誤答が 26.4 %、無解答が 7.6 %もみられた。

(3)は、年齢別農業人口の移り変わりと耕地面積の移り変わりのグラフを基に、農業生産の工夫や努力、耕地面積減少の理由などを考える問題である。正答率は、アが 80.3 %、イが 92.1 %になっており、期待正答率を上回っている。ウは 58.6 %、エは 66.8 %で共に期待正答率を下回っている。これらのことから、農業の移り変わりの様子、特に食生活の変化を、農業人口の変化や耕地面積の変化のグラフと関連付けて考えることができないと考えられる。また、選んだ選択肢の答えを読むと、文章そのものが正しく続かないものもみられ、最後の問題にしっかり時間がかけられなかったか、見直しをしていないのではないかと推測できる。

(2)の設問のようにその他の解答や無解答が多いのは、記述式の問題である。(3)のアからエまでの選択式の穴埋め型の問題でも、誤答率が 30 %を越える問題が 2 問もあるのは、グラフなどの統計資料から分かることを的確に判断したり、複数の資料から導き出す事実を捉えたりするような能力を育てることが必要なことを示していると考えられる。

今後も、地図帳や学校図書館の図書、資料集などに掲載されている各種の統計資料や分布図などの活用を図り、我が国の農業や水産業の様子を概観し、そこに見られる特色を大まかにとらえるようにすることが大切である。そのためにも、一つの資料から分かることを複数考えたり、複数の資料から分かる事実を導き出したりするなど、多面的な思考力を磨くことも意識して指導に当たることが大切である。

**3 まとめ**

3・4年で扱う「地域の人々の安全な生活」から 6 問、「地域の暮らしの移り変わり」から 4 問、「地域の地形・土地利用」から 9 問、5年生で扱う「我が国の農業」から 10 問の計 29 問で構成されており、このうち記述式は 2 問であり、その他はすべて選択式の問題形式となっている。

この 29 問のうち、正答率が 60 %以上の問題が 22 問（地域の人々の安全な生活：6 問、地域の暮らしの移り変わり：4 問、地域の地形・土地利用：4 問、我が国の農業：8 問）、40 %以上 60 %未満のものが 7 問（地域の地形・土地利用：5 問、我が国の農業：2 問）であり、40 %に至らなかった問題はなかった。全体として、正答率 60 %以上の問題が、29 問中 22 問（76 %）であり、おおむね定着が図られているという状況である。

さらに今回地方分権研究会で目標とする正答率 70 %ライン以上の問題は 29 問中 18 問あり（62 %）、また、表に示したように新たに掲げた期待正答率と比較すると、期待正答率を上回ると考え

られるものが、29問中12問（地域の人々の安全な生活：2問，地域の暮らしの移り変わり：4問，地域の地形・土地利用：2問，我が国の農業：4問），期待正答率と同程度と考えられるものが、7問（地域の人々の安全な生活：4問，地域の地形・土地利用：2問，我が国の農業：1問）あり，全体として，期待正答率を上回ると考えられるもの，または同程度と考えられるもの問題数の合計は、29問中19問（66％）と，学習の実現状況はおおむね良好であると評価できる。

区分	問題数 (小問数)	期待正答率を上回ると考えられるもの(A)	期待正答率と同程度と考えられるもの(B)	小計 (A) + (B)	期待正答率を下回ると考えられるもの(C)	領域別正答率 (%)	期待正答率 (%)
地域の人々の安全な生活	6	2	4	6	0	87.5	80.0
地域の暮らしの移り変わり	4	4	0	4	0	92.4	77.5
地域の地形・土地利用	9	2	2	4	5	62.9	68.9
我が国の農業	10	4	1	5	5	69.8	71.0
計	29	12	7	19	10		

こうした結果から見ると、3・4年で扱う「地域の人々の安全な生活（問題①②）」「地域の暮らしの移り変わり（問題③）」は、期待正答率を下回ると考えられるものがなく、問題の全てが、期待正答率を上回ると考えられるものまたは、期待正答率と同程度と考えられるものとなっている。これは、これらの学習を進める場合、地域の学習であり、見学や日常生活と深いかかわりをもつ教材であるため、学習したことを実生活で確かめたり、深めたりできる内容であるからと推測される。これは、社会科学学習の進め方でもこれまでの各学校で取り組んでいるように、見学、聞き取り調査など、体験活動を十分に行うことの重要性を示していることであり、今後も体験的な活動のより充実した展開が必要である。

また、「地域の地形・土地利用（問題④⑤）」では、地図の読み取りを中心にした問題であったが、9問中5問が期待正答率を下回ると考えられるものとなっており、定着が思わしくなかった。これは、「方位」や「等高線」という言葉を理解していないなど、基本的な学習事項の定着が不十分であることを示している。こうした学習内容は、継続的な指導を繰り返すことによって定着するものと考えられるので、社会科の他の単元の学習や他教科、総合的な学習の時間などでの学習と関連させたり、日常的な学校生活などでも繰り返して取り上げたりしていくことが必要である。さらに、地図記号の名前を問う問題でも、学校の周りや日常生活で目にすることの多い記号は理解しているが、日常生活で記号として目にするものの少ないものは、正答率が低いことから言える。こうした学習は、記号を単に暗記させるのではなく、記号の成り立ちや意味と関連させながら学習するなどの指導を工夫することで定着率が高まるものと考ええる。

5年生で扱う「我が国の農業」の学習内容の定着は、おおむね良好と判断される。しかし、10問中5問が、期待正答率を下回ると考えられるものとなっており、そのうち4問はグラフや地図からの読み取りとかかわる問題となっている。社会科の「資料活用の技能・表現」の能力は、社会的思考・判断力やそれにかかわる知識や理解力を養うためにも大切な能力であるので、グラフの読み方など統計資料の読み方については、これからの指導でもより力を入れていく必要がある。特に、一つの資料から複数の事実をつかんだり、複数の資料から一つの事実を導き出したり、様々な活動を通して、資料活用の楽しさを味わわせながら指導したい。また、こうした統計資料は、他教科や総合的な学習の時間などでも指導する場が得られるものと思われるので、機会をとらえながら、関連的、継続的に指導をしていく必要がある。

総じて見れば、おおむね良好と判断出来るものの、重要語句の理解や資料活用能力については、これからも力を入れてさらにその向上に努力する必要があると思われる。

小学校社会科のねらいである公民的資質の基礎を養っていくことを実現するためには、「社会的関心・意欲・態度」とともに、「観察・資料活用の技能・表現」を高めることが必要であり、そのことでより多面的で公正な思考判断や社会的事象についての知識・理解が深まっていくものである。

そのためにも、社会的事象の具体的な観察・調査、地図や年表・各種資料などの効果的な活用、調べたことの説明表現などが上達するよう、具体的な体験的な活動や表現活動を工夫しながら、意味理解を十分図りつつ、今後も継続的な指導に取り組むことが大切である。

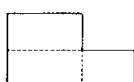
### 小学5年「算数」正答と正答率

問題番号	領域	問題内容	正答	正答率	期待正答率	県正答率
1		大きな数	(1) 4	78.2	70.0	79.8
			(2) 1	49.6	80.0	48.6
			(3) 4	90.3	80.0	91.1
2		小数のしくみと計算	(1) 2	84.5	80.0	84.9
			(2) 3	75.8	70.0	78.4
3	数と計算	わり算	(1) 34	91.2	80.0	90.2
			(2) 1.6	75.3	90.0	77.9
		小数のしくみと計算	(3) 67.2	78.1	80.0	78.5
			(4) 0.7	66.7	70.0	70.6
4		わり算	(1) 37	75.0	60.0	75.6
			(2) 6÷2など商が3になるわり算の式	58.0	60.0	60.9
5		およその数	(1) 2, 3 または 3, 2	64.9	70.0	67.0
			(2) (約)53000(人)	60.2	80.0	62.8
6	数量関係	計算のきまり	4	54.1	50.0	55.8
7	数と計算	分数	(1) 1	77.8	90.0	79.4
			(2) $0, \frac{3}{6}, 1, \frac{8}{6}, 1\frac{5}{6}$	24.9	60.0	25.9
8		わり算	2.25	62.4	80.0	61.2
9	量と測定	角の大きさ	(1) 3	79.8	70.0	82.3
			(2) 2	67.0	60.0	70.8
10		面積	(注)1	73.2	60.0	72.9
11		円	$\frac{2}{2}$ (円の)中心を通るから、直径だから、測ったらいちばん長いから など	69.5	70.0	71.5
12	図形	三角形	(1) 3	66.4	80.0	70.3
			(2) 1	74.9	70.0	78.7
13		垂直・平行と四角形	(1) 3	93.7	90.0	94.7
			(2) 3	83.1	90.0	86.3
14		点をつち4点を直線で結んでひし形ができています(注)2	93.3	80.0	93.4	
15		ア、カ または カ、ア	(1) 76.7	70.0	79.1	
			(2) ウ、オ または オ、ウ	59.3	70.0	62.4
16	数量関係	伴って変わる量	(1) 18	87.6	70.0	89.2
			(2) 202(cm)	16.6	50.0	18.5
17		資料の整理	(1) ア 3, イ 6	77.8	70.0	80.0
			(2) 4	80.6	80.0	83.1
18		折れ線グラフ	(1) 8(月) 28(度)	85.3	90.0	86.2
			(2) 9(月から) 10(月まで)	61.9	70.0	63.0

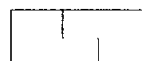
(注1)



$$6 \times 5 + 3 \times 4 = 42 \quad 3 \times 5 + 3 \times 5 + 3 \times 4 = 42$$



$$6 \times 9 - 3 \times 4 = 42$$

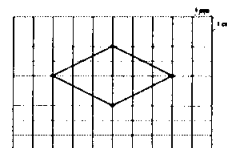


$$6 \times (5+9) = 84 \quad 3 \times (5+9) = 42$$

$$84 \div 2 = 42$$



(注2)



## 第5学年「算数」結果と考察

### 1 出題のねらいと内容

「数と計算」「量と測定」「図形」及び「数量関係」について、基礎的な事柄を理解する力、数学的な表現や処理の仕方、数学的な考え方を適用する力などをみることをねらいとして作成した。

①②⑦は、命数法で書かれた数を記数法によって表したり、十進位取り記数法の考えを通して整数及び小数の性質について理解しているかをみようとした。また、分数を単位分数を基にして考えたり、分数と整数の大小関係を理解しているかをみようとした。

③は、整数・小数の四則計算の問題で、基本的な計算力をみようとした。

④は、除法について被除数、除数、商及び余りの関係や成り立つ性質を理解しているかをみようとした。

⑤は、概数について理解し、目的に応じて用いることができるかをみようとした。

⑥⑧は、数量の関係を式で簡潔に表すことができるかどうかをみようとした。また、小数の乗法及び除法の計算を考え、それらの計算ができるかをみようとした。

⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮は、基本的な平面図形についての基本性質の理解、並びに図形の構成要素及びそれらの位置関係に着目して図形を考察できるかをみようとした。また、複合図形の面積の求め方を考え、図と式で説明することができるかをみようとした。

⑯は、伴って変わる二つの数量の関係において、対応する値を順序よく表に整理し、それらの関係を調べて変化の特徴を捉えることができるかをみようとした。

⑰⑱は、目的に応じて資料を集めたり、分類整理したり、グラフ化した資料からその特徴を考察することができるかをみようとした。

### 2 結果と考察

#### ① 数の相対的な大きさや記数法の理解をみる問題

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向	
①	(1)	78.2	21.5	0.3	70.0	79.8	①(5.8%)②(4.3%)③(11.3%) その他(0.1%)
	(2)	49.6	50.0	0.4	80.0	48.6	②(21.5%)③(27.0%)④(1.3%) その他(0.2%)
	(3)	90.3	9.4	0.3	80.0	91.1	①(3.7%)②(3.9%)③(0.7%) その他(1.1%)

#### 【考察】

(1)は、命数法で書かれた大きな数を記数法で表す問題である。正答率が78.2%と、期待正答率を上回っている。誤答の中には、位取りや空位を理解していないものもみられた。(2)の十進位取り記数法の理解については、正答率が49.6%と低い。具体的な場面と結び付けながら位取りの原理を理解することが大切である。(3)は、数直線上における大きな数の位置関係をみる問題であるが、正答率が90.3%と高い。

#### ② 小数の仕組みや大きさをみる問題

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向	
②	(1)	84.5	15.3	0.2	80.0	84.9	①(6.2%)③(4.0%)④(4.7%) その他(0.4%)
	(2)	75.8	23.4	0.8	70.0	78.4	①(5.5%)②(10.5%)④(6.8%) その他(0.6%)

#### 【考察】

この問題は十進位取り記数法の考えを通して、小数の仕組みや大きさをみる問題である。正答率は、期待正答率と同程度であるが(2)は(1)と比べ正答率が低くなっている。これは、1/100の意味が理解できていないことからくるものと考えられる。今後の指導においては、作業的・体験的な活動を通して、数の大きさについての感覚や数の構成についての感覚をさらに豊かにしていくことが大切であると思われる。

**③ 整数、小数における四則計算の基本的な計算力をみる問題**

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向
③	(1)	91.2	5.7	3.1	80.0	90.2 「35.7」と解答(0.1%) その他(5.6%)
	(2)	75.3	23.4	1.3	90.0	77.9 「2.6」と解答(0.3%) 「2.4」と解答(0.3%) 「7.4」と解答(0.1%) その他(22.7%)
	(3)	78.1	20.6	1.3	80.0	78.5 「6.72」と解答(6.7%) 「672」と解答(2.9%) 「66.2」と解答(0.6%) その他(10.4%)
	(4)	66.7	29.3	4.0	70.0	70.6 「7」と解答(22.4%) 「0.07」と解答(0.4%) その他(6.5%)

**【考察】**

(1)の整数同士の除法の計算については、正答率が91.2%であり、期待正答率を上回っている。(2)～(4)は小数が入った減法や乗除の計算問題であるが、期待正答率を下回っており、基本的な計算力が確実に身に付いているとは言い難い。誤答の中には、小数の位取りが理解できていなかったり、小数点の位置をまちがえたり、小数点を付け忘れたりしているものがみられた。計算技能の習熟や維持を図るために適宜練習の機会を設けて、計画的に指導する必要がある。

**④ わり算の性質や余りのあるわり算の式について理解しているかをみる問題**

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向
④	(1)	75.0	12.8	12.2	60.0	75.6 「1」と解答(0.6%) 「33」と解答(0.5%) 「19」と解答(0.2%) その他(11.5%)
	(2)	58.0	21.0	21.0	60.0	60.9 「60÷2」と解答(0.8%) 「600÷2」と解答(0.2%) その他(20.0%)

**【考察】**

(1)は、余りのあるわり算の式について理解しているかをみる問題であるが、正答率は期待正答率を上回っている。(2)の除法に関して成り立つ性質の理解をみる問題では、期待正答率と同程度であるが、21.0%と無答率も多い。今後は、実際のわり算の計算を扱う場面と結び付けたり、計算の仕方を見直したりする場面で扱うことで実感を伴って理解させることが大切である。

**⑤ 四捨五入についての理解や場面や目的に応じて概数を求めることができるかをみる問題**

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向
⑤	(1)	64.9	33.8	1.3	70.0	67.0 「2」だけ正解(24.7%) 「3」だけ正解(6.1%) その他(3.0%)
	(2)	60.2	35.7	4.1	80.0	62.8 「52000」と解答(3.3%) その他(32.4%)

**【考察】**

(1)は、指定された位で四捨五入ができるかをみる問題であるが、正答率は64.9%で期待正答率を下回っている。誤答例としては、2問完答で正答であるのに、1問のみの正答によるものが30.8%であった。(2)の場面や目的に応じて概数を求める問題では、期待正答率80.0%に対して正答率が60.2%と低い。概数を用いる場合には、その目的に応じてどの程度の概数にしたらよいかを判断する学習を大切にすることが必要である。

**⑥ 式に表された関係を具体的に読み取ることができるかをみる問題**

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向
⑥	54.1	43.1	2.8	50.0	55.8	①(14.0%)②(19.8%)③(8.7%) その他(0.6%)

**【考察】**

式から具体的な問題場面を考える問題であるが、正答率は54.1%と期待正答率と同程度である。誤答の主な理由としては、①と②と解答したのをあわせると、33.8%と計算のきまりを理解していないことなどがうかがえる。具体的な場面を式に表すことだけでなく、式から具体的な場面を読み取る学習も大切にすることが必要である。

**7 単位分数や分数と整数の大小関係を理解しているかをみる問題**

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向	
7	(1)	77.8	20.9	1.3	90.0	79.4	②(14.7%)③(3.2%)④(2.2%) その他(0.8%)
	(2)	24.9	73.1	2.0	60.0	25.9	「0」だけ間違っている(1.0%) 大きい順に並べている(0.6%) 分数や整数を変形している(0.5%) その他(71.0%)

**【考察】**

(1)は、分数を単位分数の幾つ分で表す問題であるが、正答率が77.8%であり、期待正答率を下回っている。単位分数を理解していないための誤答が多く、今後は、図や数直線などを用いながら、視覚的に単位分数について理解を深めることが大切である。(2)の分数と整数の大小関係を捉える問題は、正答率が24.9%と、期待正答率を大きく下回っている。0を除く分数、整数の大小関係は正しく理解できているが、誤答例として、題意を間違え大きい順に答えたり、0の大きさが理解できていないことによるものが多かった。今後は、数直線上に整数や分数、0等を表示する活動を取り入れながら、数としての大小を実感を伴って捉えるようにすることが大切である。

**8 整数÷整数の計算を割り進むことができるかをみる問題**

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向
8	62.4	30.8	6.8	80.0	61.2	「22.5」と解答(4.3%) 「2」と解答(3.4%) 「1.5」と解答(3.3%) 「9/4」と解答(0.4%) その他(19.4%)

**【考察】**

整数同士のわり算で割り切れるまで計算ができるかをみる問題であるが、期待正答率に対して正答率が62.4%と大きく下回っている。小数点の位置を間違えたり、何を求めているかを把握できなかったりすることによる誤りがみられる。今後は、数量の関係を式で表すことができるよう具体的な場面と結びつけた指導や、形式的な取扱いにならないよう、具体的に量の操作と筆算を対応させながら十進位取り記数法の原理を理解させる指導が大切である。

**9 角の大きさを見積もったり、三角定規を組み合わせた角の大きさが求められるかをみる問題**

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向	
9	(1)	79.8	19.1	1.1	70.0	82.3	①(1.7%)②(13.0%)④(1.0%) その他(3.4%)
	(2)	67.0	31.3	1.7	60.0	70.8	①(11.3%)③(7.9%)④(7.9%) その他(4.2%)

**【考察】**

(1)は角の大きさを見積もる問題であるが、正答率が79.8%と期待正答率を上回っている。しかし、70°と解答したものが比較的多く、90°を基準にした角度の見当ができていないことがうかがえる。(2)の三角定規を組み合わせた角の大きさを求める問題も期待正答率を上回っているが、(1)の問題より正答率が低い。実際に分度器を用いて角の大きさを測定したり、三角定規の角を調べたりする活動を大切にすることが必要である。

**10 複合図形の面積の求め方を図と式で説明できるかをみる問題**

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向
10	73.2	17.7	9.1	60.0	72.9	求め方の図のみかいている解答(6.0%) その他(11.7%)

**【考察】**

この問題は、複合図形の面積の求め方を考え、図と式で説明することができるかをみる問題である。この正答率は、73.2%で期待正答率を上回っている。問題解決の方法は一通りではないので、今後も児童がいろいろな考えを式や言葉で発表し合い、それを比較・検討することで多様な見方や考え方を体得させる指導を継続することが大切である。

**11 円の内を通る直線で一番長い直線は直径であることが説明できるかをみる問題**

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向
11	69.5	27.4	3.1	70.0	71.5	選択は正しいが、説明ができない解答 (24.2%) その他 (3.2%)

**【考察】**

この問題は、円の中心と直径の関係がわかり、円の内を通る直線で一番長い直線は直径であることが説明できるかをみる問題である。この正答率は 69.5%であり、期待正答率と同程度である。しかし、円と直径の関係は理解できていても、言葉で説明することができない児童が 24.2%いる。今後の指導においては、作図などを通して、半径や直径は無数にあることに気付かせたり、直径は円の中心を通る直線であることなどを確かめたりする活動を重視する必要がある。

**12 二等辺三角形の基本性質を理解しているかをみる問題**

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向
12 (1)	66.4	32.0	1.6	80.0	70.3	① (3.6%) ② (17.5%) ④ (6.0%) その他 (4.9%)
(2)	74.9	23.3	1.8	70.0	78.7	② (6.3%) ③ (14.1%) ④ (2.4%) その他 (0.5%)

**【考察】**

(1)は、「二等辺三角形の二つの角の大きさが等しい」という二等辺三角形の基本性質についての理解をみる問題であるが、正答率が 66.4%であり期待正答率を下回っている。見る角度を変えただけで二等辺三角形の性質を感覚的に維持できないからであると考えられる。(2)は二等辺三角形の構成要素に着目した見方をみる問題である。正答率は 74.9%であり、期待正答率と同程度である。今後の指導において、図形を観察したり構成したりする活動を積極的に取り入れながら図形の性質について理解を深めることが大切である。

**13 平行四辺形の基本性質を理解しているかをみる問題**

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向
13 (1)	93.7	4.8	1.5	90.0	94.7	① (1.1%) ② (0.3%) ④ (0.7%) その他 (2.7%)
(2)	83.1	15.2	1.7	90.0	86.3	① (7.4%) ② (2.3%) ④ (1.8%) その他 (3.7%)

**【考察】**

(1)は、「平行四辺形の向かい合う辺の長さは等しい」という性質の理解をみる問題である。正答率は 93.7%であり、期待正答率と同程度である。(2)の「向かい合う角の大きさも等しい」という性質の理解は 83.1%であり、期待正答率を下回っている。基本的な図形の考察において、辺や角の関係や対角線の交わり方など観点を明確にして、具体的に調べたり、確かめたりすることで理解を深めさせることが大切である。

**14 ひし形の定義や性質を基に、ひし形を構成することができるかをみる問題**

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向
14	93.3	5.0	1.7	80.0	93.4	点を正しく打っているが結んでいない解答 (1.5%) 一つ右に点を打って直線で結んでいる解答 (0.4%) その他 (3.1%)

**【考察】**

この問題は、ひし形の定義や性質を基に、ひし形を構成することができるかをみる問題である。正答率は 93.3%であり期待正答率を上回っている。今後も、平行四辺形、台形、ひし形について理解を深めるために、それぞれの図形の性質について調べたり、定義や性質に基づいて作図したり、弁別したりできるように指導することが大切である。



**15 垂直並びに平行の関係を理解し、道具を用いて確認することができるかをみる問題**

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向
15	(1)	76.7	19.7	3.6	70.0	79.1 「ウとオ」または「オとウ」と解答(2.2%) 「アとウ」または「ウとア」と解答(1.8%) 「アとオ」または「オとア」と解答(0.9%) その他(14.8%)
	(2)	59.3	35.1	5.6	70.0	62.4 「ウとカ」または「カとウ」と解答(15.4%) 「オとカ」または「カとオ」と解答(2.0%) その他(17.7%)

**【考察】**

(1)は、垂直の関係になっている直線を見つける問題であるが、三角定規を1枚用いることで確認でき、正答率は76.7%と期待正答率を上回っている。しかし、(2)の2直線の平行については、2枚の三角定規を道具として使いこなして確認することが十分にできず、正答率は59.3%であり期待正答率を下回っている。今後は、直線の平行、垂直の関係について、実物を観察したり、実際にいかたりする算数的活動を行いながら理解を深めることが大切である。

**16 数量の関係の見方や調べ方についての理解をみる問題**

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向
16	(1)	87.6	8.1	4.3	70.0	89.2 「16」と解答(1.8%) 「32」と解答(1.0%) 「15」と解答(0.4%) その他(4.9%)
	(2)	16.6	72.4	11.0	50.0	18.5 「400」と解答(16.8%) 「220」と解答(7.2%) その他(48.4%)

**【考察】**

この問題は、伴って変わる二つの数量の関係について、二つの数量の対応や変わり方に着目するなど、数量の関係の見方や調べ方についての理解をみる問題である。(1)は、題意の図をかくことで具体的に答えを求めることができる問題であり、正答率は87.6%と期待正答率を上回っている。しかし(2)では、数量の変わり方の規則性を考えることができず、正答率は16.6%と、期待正答率を大きく下回っている。今後は、実際に具体物を用いて調べてみるなどして、問題場面を明確に捉えさせることが大切である。その上で、数量の変化の様子を表やグラフに表し、そこから変わり方のきまりを見つけ、言葉や式で表すことができるように指導する必要がある。

**17 資料を分類整理し、表の意味を理解し表すことができるかをみる問題**

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向
17	(1)	77.8	16.1	6.1	70.0	80.0 「ア…3 イ…5」と解答(10.0%) 「ア…8 イ…10」と解答(0.2%) その他(5.9%)
	(2)	80.6	13.1	6.3	80.0	83.1 ①(1.3%)②(4.8%)③(6.0%) その他(1.0%)

**【考察】**

この問題は、資料を二つの観点から分類整理し、表の意味を理解したり表に表したりすることができるかをみる問題である。(1)の正答率は77.8%であり期待正答率を上回っている。しかし、「ア…3 イ…5」という誤答が10.0%あり、表の意味をしっかりと押さえさせる必要がある。(2)の正答率は80.6%であり、期待正答率と同程度である。二つの観点から、物事を分類整理したり、論理的に起こり得る場合を調べたり、落ちや重なりがないように考えさせたりすることが大切である。

**18 グラフ化した資料からその特徴を考えることができるかをみる問題**

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向
18	(1)	85.3	9.6	5.1	90.0	86.2 「8月 27度」と解答(1.2%) その他(8.4%)
	(2)	61.9	32.1	6.0	70.0	63.0 「5月から6月まで」と解答(3.5%) 「2月から8月まで」と解答(3.2%) その他(25.4%)

### 【考察】

(1)は、グラフの数値を読み取る問題であるが、正答率が85.3%であり、期待正答率と同程度である。しかし(2)のグラフの特徴を理解することに対する正答率は61.9%であり、期待正答率を下回っている。今後の指導においてグラフをよむ際には、正確に数値を押さえさせるとともに、全体と部分、部分と部分の関係に着目して、グラフの特徴や傾向を捉えさせることが大切である。

### 3 まとめ

「数と計算」から16問、「量と測定」から3問、「図形」から8問、「数量関係」から7問の計34問の構成である。「量と測定」は昨年度と同じ問題数であるが、他の3領域においては出題数が多くなっている。

この34問のうち、正答率が60%以上のものは28問(数と計算：13問、量と測定：3問、図形：7問、数量関係：5問)、40%以上60%未満のものが4問(数と計算：2問、図形：1問、数量関係：1問)、40%に至らなかったものが2問(数と計算と数量関係各1問)という結果であった。

全体として、正答率60%以上の問題が34問中28問(82%)あり、おおむね定着が図られているという状況である。なお、昨年度は正答率60%以上の問題が64%であり、これと比べると基礎的・基本的な学習内容については定着していると評価できる。

さらに今回地方分権研究会で目標とする正答率70%ライン以上の問題は34問中20問あり(59%)、また、表に示したように新たに設けた期待正答率から比較すると、期待正答率を上回ると考えられるものが12問(数と計算：5問、量と測定：3問、図形：2問、数量関係：2問)、期待正答率と同程度と考えられるものが10問(数と計算：4問、図形：3問、数量関係：3問)、期待正答率を下回ると考えられるものが12問(数と計算：7問、図形：3問、数量関係：2問)である。全体として、期待正答率を上回ると考えられるものと同程度と考えられるもの問題数の合計は、34問中22問(65%)とおおむね良好であるものの、題意を読み取ることや意味理解についての確実な定着を図ることについては、今後の課題として指導していく必要があると考えられる。

区 分	問題数 (小問数)	期待正答率を上 回ると考えられ るもの(A)	期待正答率と同 程度と考えられ るもの(B)	小計 (A)+(B)	期待正答率を下 回ると考えられ るもの(C)	領域別 正答率(%)	期待正答率 (%)
数と計算	16	5	4	9	7	69.6	75.0
量と測定	3	3	0	3	0	73.4	63.3
図 形	8	2	3	5	3	77.1	77.5
数量関係	7	2	3	5	2	66.3	68.6
計	34	12	10	22	12		

「数と計算」領域は、整数、小数及び分数の意味などについて理解できるようにし、数についての感覚を豊かにすることが主なねらいである。調査の結果、計算技能の定着に対して、7(2)や5(2)、4(2)のように、分数と整数の大小比較、概数についての理解、計算の決まりなど、意味を理解して考えたり用いたりすることの正答率が低い。計算の意味を日常の場面と結び付けて考えたり、計算の仕方を工夫したりする学習を充実させることが大切である。

「量と測定」領域は、実生活で出会う様々な量についての意味と測定について理解し、量の大きさについての感覚を豊かにすることが主なねらいである。調査の結果、角の大きさを見積もることや複合図形の面積の求め方についてはおおむね良好といえるが、三角定規を組み合わせた角の大きさを調べる問題はやや正答率が低い。具体的な問題解決の場面や、作業的・体験的な活動など算数的活動の中で、目的をもって取り扱うことが大切である。

「図形」領域は、基本的な平面図形や立体図形について理解し、図形についての豊かな感覚を育て図形の定義や性質を活用できるようにすることが主なねらいである。調査の結果、図形の性質を活用したり(11)、12(1))、直線と直線の位置関係を考えたりする問題で正答率が下がっている。

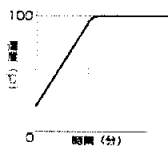
基本的な図形については、具体物などの観察や構成を重視しながら図形に親しみをもたせる工夫が一層望まれる。

「数量関係」領域は、他の3領域の内容を理解したり、活用したりする際の数学的な考え方や方法を身に付けることが主なねらいである。昨年同様、他の3領域に比べ、正答率が低い結果となっている。中でも、6と16(2)の式から具体的な場面を読み取ることや2つの数量の関係を捉える問題は特に低い。数量の関係を適切に捉えることは、問題解決を進める上での大切な考え方となる。授業においては、児童の数学的な考え方をみる場面や様々な考えを取り上げて検討させる場面などを計画的に設定して学習活動を展開していくことが大切である。

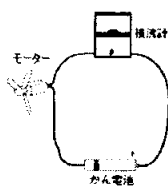
小学5年「理科」正答と正答率

問題番号	領域	問題内容	正答	正答率	期待正答率	4県正答率
1			1	61.5	80.0	62.8
			3	75.6	70.0	76.3
2	地球と宇宙	太陽、月、星の動き	3	40.0	70.0	39.3
			3	91.5	80.0	91.5
			1	83.7	70.0	85.2
3	地球と宇宙	水の姿と変わり方	2	79.8	70.0	79.4
			(注1)	42.9	70.0	45.0
			0° C	63.3	80.0	66.4
			(コップのまわりの)空気中の水じょう気が冷やされて水にもどったから。 水じょう気が冷やされたから。	29.3	60.0	29.1
4		天気と気温の変化	2	65.5	80.0	67.4
			3	75.7	70.0	77.7
5		力と空気や水の性質	3	66.7	80.0	65.6
			4	48.0	70.0	51.5
6	物質とエネルギー	温度による金属、水、空気のかさの変化	3	80.3	80.0	80.5
			あたためられて(熱せられて)金ぞく球のかさがふえた。 金ぞく球が大きくなった(ふくらんだ)。 等	66.1	60.0	67.3
7	物質とエネルギー	温度による金属、水、空気のかさの変化	ア お湯 イ つめたい水	77.8	80.0	79.1
			1	37.2	70.0	40.3
			3	34.1	60.0	34.1
8	物質とエネルギー	電気の回路・電気の働き	(注2)	80.5	70.0	79.5
			1	52.2	80.0	54.0
			回路に流れる電流が(かん電池1このときよりも)強く(大きく)なるから	32.4	70.0	32.9
			へい列	32.3	80.0	38.5
9		光電池の働き	3	77.6	80.0	77.1
			3	73.1	70.0	72.7
10	生物とその環境	動物の活動と季節	1	67.7	80.0	67.8
			2	84.0	80.0	85.3
			気温が低くなった。 寒くなった。 等	51.6	70.0	50.5
11	生物とその環境	植物の成長と季節	4→2→3(→1)	97.7	90.0	97.6
			かれる(かれて)死んでしまう 種をのこしてかれる 等	64.1	70.0	69.6
			2	58.6	70.0	57.8
12	生物とその環境	植物の発芽・成長とその条件	① 1 ② 4	69.1	70.0	72.2
			1と3 または 3と1	42.1	50.0	45.4
			日光、太陽の光、光 等	59.1	80.0	60.6
13 A		メダカや人の誕生	2	73.8	70.0	74.2
			5→3→2→4(→1)	91.1	70.0	92.0
13 B		メダカや人の誕生	2	90.7	70.0	92.7
			5→3→2→4(→1)	95.6	70.0	96.4

(注1)



(注2)



## 第5学年「理科」結果と考察

### 1 出題のねらいと内容

A区分「生物とその環境」の「動物の活動と季節」「植物の成長と季節」「植物の発芽・成長の条件」「魚や人の誕生」、B区分「物質とエネルギー」の「力と空気や水の性質」「温度による金属、水、空気のかさの変化」「電気の回路・電気の働き」「光電池の働き」、C区分「地球と宇宙」の「水のすがたと変わり方」「天気と気温の変化」「太陽の動き」「月と星」について、自然現象を科学的にとらえ問題を解決する力、観察・実験の基本的技能やその過程や結果を表現する力、自然事象の性質や規則性、相互の関係などについて理解する力などをみることをねらいとした。

- ①では、1日の太陽の動きについての考え方と理解をみようとした。
- ②では、月や星の特徴や動きについての考え方と理解をみようとした。
- ③では、水のすがたと変わり方についての考え方と表現、理解をみようとした。
- ④では、天気と気温の変化についての考え方と技能をみようとした。
- ⑤では、力と空気や水の性質についての理解をみようとした。
- ⑥では、アルコールランプの正しい使い方の技能と温度による金属のかさの変化についての理解をみようとした。
- ⑦では、温度による水や空気のかさの変化についての考え方や理解をみようとした。
- ⑧では、電気の回路や電気の働きについての技能と理解をみようとした。
- ⑨では、光電池の働きについての考え方と理解をみようとした。
- ⑩では、季節による動物の活動についての考え方と理解をみようとした。
- ⑪では、季節による植物の成長についての理解をみようとした。
- ⑫では、植物の発芽や成長とその条件についての考え方をみようとした。
- ⑬では、メダカや人の誕生についての理解をみようとした。

### 2 結果と考察

#### ① 1日の太陽の動きについての考え方と理解をみる問題

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向			
①	(1)	61.5	38.3	0.2	80.0	62.8	2(7.8%)	3(8.5%)	4(22.0%)
	(2)	75.6	24.1	0.3	70.0	76.3	1(1.2%)	2(21.4%)	4(1.5%)

#### 【考察】

(1)は、1日の太陽の動きを方位と関連付けて理解しているかをみる問題であり、正答率は61.5%で期待正答率を下回っている。選択肢4を選んだ誤答が22.0%と多いことは、観察時に自分が向く方位を理解していないことや、太陽が東から西へ動くのではなく右の方に動くという理解をしているためと考えられる。

(2)は、影の動きと太陽の動きを関連付けてとらえているかをみる問題であるが、正答率は期待正答率を上回っている。太陽の動きの学習では、観察時に方位磁針を用いて方位の概念をきちんと指導することが重要である。観察結果から方位の概念に基づいて太陽の動きを説明できるように指導することが大切である。

#### ② 月や星の特徴や動きについての考え方と理解をみる問題

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向				
②	(1)	40.0	59.3	0.7	70.0	39.3	1(12.9%)	2(41.4%)	4(4.8%)	その他(0.2%)
	(2)	91.5	8.3	0.2	80.0	91.5	1(1.5%)	2(1.7%)	4(5.1%)	
	(3)	83.7	15.7	0.6	70.0	85.2	2(4.4%)	3(2.6%)	4(8.7%)	

【考察】

(1)は、月の動きを太陽の動きと関連付けて考えているかをみる問題である。正答率が40.0%と期待正答率を大きく下回っている。選択肢2を選んだ誤答が41.4%と多い。これは、図2が図1と同じ西の方角であることを図や説明文から理解できないことや、三日月は必ず昇るものと誤った理解をしているためと考えられる。どの形の月も、太陽と同様に絶えず東の方から西の方へ動いているように見えることを理解させるために、月を観察する機会を増やし、月の動きを太陽の動きと関連付けてとらえさせることが重要である。なお、月や星の観察の際にも太陽の観察と同様に方位磁針で方位を確認しながら観察することが大切である。

(2)は、星の明るさや色に関する理解をみる問題であり、正答率は91.5%と期待正答率を上回っている。

(3)は、星座は並び方を変えずに位置を変えることについての理解をみる問題である。正答率は83.7%と期待正答率を上回っている。

③ 水のすがたと変わり方についての考え方と表現、理解をみる問題

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向
(1)	79.8	19.3	0.9	70.0	79.4	1(4.8%) 3(8.4%) 4(6.0%) その他(0.1%)
(2)	42.9	43.5	13.6	70.0	45.0	グラフの傾きを変えずに、ずっと右肩上がり(10.7%) グラフの傾きを変えて、ずっと右肩上がり(3.3%) その他(29.5%)
③ (3)	63.3	25.0	11.7	80.0	66.4	-7℃前後(6.3%) -15℃前後(1.3%) その他(17.4%)
(4)	29.3	53.8	16.9	60.0	29.1	「コップの中の水が出てきた」と解答(3.4%) 「空気が冷やされたから」と解答(1.0%) その他(49.4%)

【考察】

(1)は、水の状態変化を温度と関連付けて考える力をみる問題である。正答率は79.8%であり、期待正答率を上回っている。

(2)は、加熱したときの水の温度変化をグラフで表現する力をみる問題である。正答率は42.9%と期待正答率を大きく下回っている。誤答は、グラフの傾きを変えずに、ずっと右肩上がりとなっているものが10.7%、その他が29.5%であり、沸騰が始まると熱し続けても温度が上がらないことをグラフの形を踏まえて正しく理解していないためと考えられる。児童一人一人に実験結果のグラフ化を行わせるなど、水の状態変化と温度の関係を視覚的にとらえさせる指導を行うことが大切である。また、沸騰して間もなく実験を終了するのでなく、沸騰後も十分時間をかけて観察させ、水の温度変化について確認させることが重要である。

(3)は、0℃で水が氷に変わることの理解をみる問題である。正答率は63.3%で期待正答率を下回っている。水が氷になるときの温度変化をグラフの形から理解していないためと考えられる。

(4)は、結露の現象からその理由を考える力をみる問題である。正答率は29.3%で期待正答率を大きく下回っている。空気中に含まれる水蒸気が冷やされると結露して再び水となって現れることを理解していないことや、筋道を立てて説明する力が十分育っていないことが原因と考えられる。

④ 天気と気温の変化についての考え方と技能をみる問題

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向
④ (1)	65.5	34.1	0.4	80.0	67.4	1(9.5%) 3(20.8%) 4(3.8%)
(2)	75.7	23.7	0.6	70.0	77.7	1(13.3%) 2(3.5%) 4(6.8%) その他(0.1%)

【考察】

(1)は、気温測定の基本的技能に関する問題であるが、正答率は65.5%で期待正答率を下回っている。選択肢の3を選択した誤答が20.8%と多く、気温測定における地面からの高さを意識しない児童が多いためと考えられる。気温の観察では地面から1.2m～1.5mの高さに温度計を位置することを常に意識させる指導が必要である。天気や気温の日常的な観測の工夫を望みたい。

(2)は、1日の気温の変化からその日の天気を考察させる問題である。正答率は75.7%と期待正答率を上回っている。

5 カと空気や水の性質についての理解をみる問題

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向				
5	(1)	66.7	32.8	0.5	80.0	65.6	1(8.5%)	2(8.5%)	4(9.1%)	その他(6.7%)
	(2)	48.0	51.1	0.9	70.0	51.5	1(18.1%)	2(22.6%)	3(10.3%)	その他(0.1%)

【考察】

(1)は、閉じ込められた空気に力を加えたときの体積や押し返す力の変化についての理解をみる問題である。正答率は66.7%で期待正答率を下回っている。

(2)は、閉じ込められた空気と水に力を加えたときの体積の変化についての理解をみる問題である。正答率は48.0%で期待正答率を大きく下回っている。

(1)(2)の誤答ともに、選択肢による大きな差は認められない。空気や水にはそれぞれの性質があり、空気や水の体積や押し返す力の変化について、それぞれの性質と関連付けて考えられるような指導が重要である。実験を基に得られた結果を定着させる指導が一層求められる

6 アルコールランプの正しい使い方の技能と温度による金属のかさの変化についての理解をみる問題

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向				
	(1)	80.3	19.4	0.3	80.0	80.5	1(7.1%)	2(8.4%)	4(3.8%)	その他(0.1%)
6	(2)	66.1	23.7	10.2	60.0	67.3	「かさがかわらない」と解答(0.2%) 「形がゆがんだ」と解答(0.5%) その他(23.0%)			

【考察】

(1)は、アルコールランプの正しい使い方に関する問題である。正答率は期待正答率と同程度である。アルコールランプの使い方については、この結果に満足することなく徹底して指導し、燃料の量や芯の長さ等を実験前に必ず点検する習慣を付けさせるような指導が望まれる。

(2)は、金属を加熱したときの体積の変化に関する理解をみる問題である。正答率は期待正答率を上回っている。

7 温度による水や空気のかさの変化についての考え方をみる問題

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向				
	(1)	77.8	18.8	3.4	80.0	79.1	「アつめたい水 イお湯」と解答(16.4%) 「アつめたい水 イつめたい水」と解答(0.1%) その他(2.3%)			
7	(2)	37.2	60.9	1.9	70.0	40.3	2(28.0%)	3(28.7%)	4(4.0%)	その他(0.2%)
	(3)	34.1	64.2	1.7	60.0	34.1	1(14.7%)	2(14.8%)	4(31.9%)	その他(2.8%)

【考察】

(1)は、水の温度変化と体積の変化についての理解をみる問題である。正答率は77.8%であり、期待正答率と同程度である。

(2)は、空気の温度変化と体積の変化に関する考え方をみる問題である。正答率は37.2%で期待正答率を大きく下回っている。誤答が選択肢の2と3に集中している。2の誤答は、温まった空気は上に、冷やされた空気は下に移動するという空気の温まり方と混同しているためと考えられる。3の誤答は、熱が直接せっけん水を温めていると考えたためと思われる。

(3)は、空気は熱した部分が上方に移動して全体が温まっていくことについての考え方をみる問題である。正答率は34.1%で期待正答率を大きく下回っている。4の誤答は、あたたかい空気は上にいくので、床の暖房から暖気を送り出すには水平に出すのがよいことを理解していないためと考えられる。室内全体の空気の温め方について、学習したことを基に考えさせるなど身近な生活との関連付けを図りながら学習を進めることが大切である。

このように、この単元では、水や空気、金属の温度による変化に着目させる指導が重要になる。例えば、へこんだボールを温めて元に戻すなどして実感を伴った理解を図ったり、ソーラーバルーンなどのものづくりを通して学習内容の確かな定着を図ったりすることが大切である。

8 電気の回路や電気の動きについての技能と理解をみる問題

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向
(1)	80.5	12.5	7.0	70.0	79.5	直列でない(1.8%) 導線とつながれていない(3.1%) +極-極につながれていない(1.9%) その他(5.7%)
8 (2)	52.2	46.4	1.4	80.0	54.0	2(26.1%) 3(9.1%) 4(11.0%) その他(0.2%)
(3)	32.4	42.0	25.6	70.0	32.9	「速くなった」と解答(16.5%) 「勢いがついた」と解答(0.8%) その他(24.7%)
(4)	32.3	40.6	27.1	80.0	38.5	「直列」と解答(21.3%) その他(19.3%)

【考察】

(1)は、回路に検流計を正しく接続することができるかをみる問題である。正答率は 80.5 %で期待正答率を上回っている。

(2)は、乾電池の直列つなぎができるかをみる問題である。正答率は 52.2 %で期待正答率を大きく下回っている。2の誤答が 26.1 %と最も多かったことは、乾電池の並列つなぎの方が回路に流れる電流が強いと誤って理解しているためと考えられる。また、誤答の 3, 4 がそれぞれ、9.1 %, 11.0 %であることから、乾電池の極と電流の向きについて理解していない児童や、乾電池の並び方だけをみて直列つなぎと誤認した児童もいると考えられる。乾電池のつなぎ方と回路を流れる電流の強さの関係について、豆電球やモーターなどを使った実験やものづくりを通して確実に定着させたい。

(3)は、電流の強さとモーターの回転数の関係についての理解をみる問題である。正答率は 32.4 %で期待正答率を大きく下回っている。無答率が 25.6 %であることから、理由を文章で答えることを苦手とする傾向があるのではないかと考えられる。

(4)は、乾電池の並列つなぎの用語の理解をみる問題である。正答率は 32.3 %で期待正答率を大きく下回っている。直列という誤答が 21.3 %であるのは、乾電池の並び方と名称を正しく理解していないためと考えられる。また、無答率が 27.1 %ということから、乾電池の並び方の名称が定着していない児童が約 1/3 いると考えられる。

9 光電池の働きについての考え方と理解をみる問題

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向
9 (1)	77.6	21.4	1.0	80.0	77.1	1(18.3%) 2(0.8%) 4(2.3%)
(2)	73.1	25.6	1.3	70.0	72.7	1(10.5%) 2(12.5%) 4(2.5%) その他(0.1%)

【考察】

(1)は、光電池に当たる光の強さと電流の強さを関連付けて考える問題である。正答率は期待正答率と同程度であるが、選択肢 1 を選んだ誤答が 18.3 %と多い。鏡を使って当てる光の強さを変えると流れる電流の強さが変わることを、実験を通して確実に理解させる必要がある。

(2)は、身のまわりで光電池が使われている例を指摘する問題である。正答率は 73.1 %と期待正答率と同程度である。

10 季節による動物の活動についての考え方と理解をみる問題

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向
(1)	67.7	31.3	1.0	80.0	67.8	2(14.9%) 3(11.2%) 4(2.5%) その他(2.7%)
10 (2)	84.0	14.8	1.2	80.0	85.3	1(5.8%) 3(5.6%) 4(3.3%) その他(0.1%)
(3)	51.6	37.4	11.0	70.0	50.5	「冬眠した」と解答(22.1%) 「死んだ」と解答(2.5%) 「草が枯れた」と解答(0.2%) その他(12.6%)

【考察】

(1)は、動物の様子からその季節を類推する問題である。正答率は 67.7 %で期待正答率を下回っている。夏によく見られるアゲハだけに着目し「夏」と考えたり、秋に産卵するカマキリのたまごだけに着目し「秋」と考えたりしたためと考えられる。

(2)は、冬の動物の様子を説明する問題である。正答率は 84.0 %で期待正答率と同程度である。

(3)は、動物の活動の様子と気温とを関係付けて考える問題である。正答率は 51.6 %で期待正答率を下回っている。「冬眠した」という誤答が 22.1 %と多い。問題の意図を十分理解できず、図に描かれているハサミムシにだけ着目して考えたものと思われる。

この単元では、1年を通じた観察により、動物の活動の様子の変化を季節の暖かさや寒さと関係付けて考えさせる機会を多く持つことが重要である。

**11 季節による植物の成長についての理解をみる問題**

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向	
11	(1)	97.7	1.1	1.2	90.0	97.6	「3→2→4」と解答(0.2%) 「4→3→2」と解答(0.3%) その他(0.6%)
	(2)	64.1	28.4	7.5	70.0	69.6	「種ができる」と解答(9.9%) 「もっと大きくなる」と解答(0.4%) その他(18.1%)
	(3)	58.6	37.8	3.6	70.0	57.8	1(3.4%) 3(4.3%) 4(30.0%) その他(0.1%)

**【考察】**

(1)は、植物（ヘチマ）の成長の順序を考える問題である。正答率は期待正答率を上回っている。  
 (2)は、ヘチマ等の植物が冬になると枯れてしまうことを指摘する問題である。正答率は64.1%で期待正答率を下回っている。秋にはすでに種ができていることや種ができた後の冬のヘチマの様子について、観察に基づいた十分な理解が図られていないことが誤答の原因と考えられる。  
 (3)は、植物の成長の順序は気温の変化に関係があることを指摘する問題である。正答率は58.6%で期待正答率を下回っている。選択肢4を選んだ誤答が29.9%と多いことから、「成長の順序」と、日当たりのよさが影響を及ぼす「収穫量」とを混同しているものと考えられる。  
 動物の活動と同様に、1年を通じた観察により、植物の成長の様子の変化を季節の暖かさや寒さと関係付けて考えさせることが重要である。特に、ヘチマのような夏生一年生の植物を観察する際は、寒くなって枯れるところまでしっかりと観察させることが大切である。

**12 植物の発芽や成長とその条件についての考え方と理解をみる問題**

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向	
12	(1)	69.1	27.2	3.7	70.0	72.2	「①1 ②3」と解答(1.4%) 「①2 ②4」と解答(5.8%) その他(20.0%)
	(2)	42.1	53.0	4.9	50.0	45.4	1と2を選択(8.7%) 2と3を選択(12.0%) その他(32.3%)
	(3)	59.1	35.1	5.8	80.0	60.6	「太陽」と解答(0.1%) 「太陽の熱」と解答(1.7%) その他(33.3%)

**【考察】**

(1)は、植物（インゲンマメ）が種子の養分を使って発芽することを、実験結果と照らし合わせて考える問題である。正答率は69.1%で期待正答率と同程度である。  
 (2)は、植物（インゲンマメ）の発芽の条件を調べる実験方法について考える問題である。正答率は42.1%で期待正答率を下回っている。  
 誤答に大きな偏りがみられず、比較しようとする要因（空気）と統一すべき要因（水、日光）との区別や、それぞれの条件を制御する方法が十分理解できていないものと考えられる。  
 (3)は、実験結果から植物の成長に必要な条件を考える問題である。正答率は59.1%で期待正答率を大きく下回っている。実験の方法とその結果から、その実験が何の要因を比較するための実験なのかを読み取ることができないためと考えられる。

**13 メダカや人の誕生についての理解をみる問題**

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向	
13	A (1)	73.8	21.7	4.5	70.0	74.2	1(4.4%) 3(4.9%) 4(12.1%) その他(0.3%)
	(2)	91.1	4.6	4.3	70.0	92.0	5→2→3→4(2.9%) その他(1.7%)
	B (1)	90.7	6.0	3.3	70.0	92.7	1(3.1%) 3(0.8%) 4(1.9%) その他(0.2%)
	(2)	95.6	1.5	2.9	70.0	96.4	5→2→3→4(0.7%) その他(0.8%)

**【考察】**

選択問題 A(1)は、卵の中のメダカが育つために必要な養分はどこから得られているかを指摘する問題である。正答率は73.8%で期待正答率と同程度である。選択肢4を選んだ誤答が12.1%と比較的多い。これは、メダカが卵の中で成長することから、卵の中で自ら養分を作り出していると



誤認したためだと考えられる。

選択問題 A(2)は、卵の中のメダカが成長する順序について考える問題である。正答率は 91.1 % で期待正答率を大きく上回っている。

選択問題 B(1)は、子宮内の胎児が育つために必要な養分はどこから得られているかを指摘する問題である。正答率は 90.7 % で期待正答率を大きく上回っている。

選択問題 B(2)は、子宮内の胎児が成長する順序について考える問題である。正答率は 95.6 % で期待正答率を大きく上回っている。

### 3 まとめ

「地球と宇宙」から11問、「物質とエネルギー」から13問、「生物とその環境」から13問の計37問の構成である。

この37問のうち、正答率が60%以上のものは24問（地球と宇宙：8問、物質とエネルギー：7問、生物とその環境：9問）、40%以上60%未満のものが8問（地球と宇宙：2問、物質とエネルギー：2問、生物とその環境：4問）、40%に至らなかったものが5問（地球と宇宙：1問、物質とエネルギー：4問）という結果となっている。全体として、正答率60%以上の問題が37問中24問（65%）あり、おおむね定着が図られている状況である。

しかし、今回地方分権研究会で目標とする正答率 70 % ライン以上の問題は 37 問中 16 問あり (43 %), また, 下表に示したように新たに設けた期待正答率と比較すると, 期待正答率を上回ると考えられるものが11問（地球と宇宙：5問、物質とエネルギー：2問、生物とその環境：4問）、期待正答率と同程度と考えられるものが7問（物質とエネルギー：4問、生物とその環境：3問）、期待正答率を下回ると考えられるものが19問（地球と宇宙：6問、物質とエネルギー：7問、生物とその環境：6問）であり、全体として期待正答率上回ると考えられるものと同程度と考えられるものの問題数の合計は37問中18問（49%）であり、おおむね良好とは言い難い。

区分	問題数 (小問題)	期待正答率を上 回ると考えられ るもの (A)	期待正答率と同 程度と考えられ るもの (B)	小計 (A) + (B)	期待正答率を下 回ると考えられ るもの (C)	領域別 正答率 (%)	期待正答率 (%)
地球と宇宙	11	5	0	5	6	64.4	72.7
物質とエネルギー	13	2	4	6	7	58.3	73.1
生物とその環境	13	4	3	7	6	69.7	72.3
計	37	11	7	18	19		

「地球と宇宙」(問題①②③④)では、正答率が 40 % に至らなかったものが 11 問中 1 問、期待正答率を下回ったものが 6 問あった。正答率が 40 % に至らなかったのは③(4)であるが、②(1)や③(2)の正答率も低い。冷たい飲み物を入れたコップだけでなく、窓ガラスの結露なども例に挙げ、身近な生活と関連付けた理解を図ることが必要である。天体の動きに関する内容については、実際の観察を重視するとともに、動画などを使い観察の結果を整理、確認することも有効である。

「物質とエネルギー」(問題⑤⑥⑦⑧⑨)では、正答率が 40 % に至らなかったものが 13 問中 4 問あり、期待正答率との比較でみると 7 問が下回っている。領域別正答率も他の内容区分に比べて低い状況である。正答率が 40 % に至らなかったのは、⑦(2)(3)及び⑧(3)(4)である。回路に流れる電流に関する内容については、学習したことが十分定着していない傾向が全般的にみられる。実験結果を児童の言葉できちんとまとめさせることを重視した指導が必要である。

「生物とその環境」(問題⑩⑪⑫⑬)では、正答率が 40 % に至らなかったものはなかったものの、13問中6問が期待正答率を下回った。特に⑩(3)と⑫(2)の正答率が低い。実験方法と結果から何を比較しようとしたのかを問う⑫(3)の正答率も低いことを併せて考えると、第5学年で重点を置いて育成すべき「計画的に観察、実験を行う」能力が十分に育っていないものと思われる。第5学年以降においては、どの領域においても、調べる要因に着目し、それ以外の要因を制御するという観察、実験などを計画的に行う活動を重視していくことが必要である。

どの領域においても、日常生活との関連を図り実感を伴った理解を促すような主体的な問題解決の活動を一層重視する必要がある。例えば、学習した規則性を日常生活の中から探したり、学習成果を日常生活に生かしたりするような指導の工夫が必要である。特に「B物質とエネルギー」では、学習成果を生かしたものづくりを積極的に取り入れていくことが望まれる。さらに、単位時間ごと、単元ごとなどの評価を適切に行い、その都度補充的な学習を行うことによって学習内容の定着を図る工夫が必要である。

また、記述式の問題や自分の考えを説明するような問題での正答率が低い (49.7 %) ことから、問題解決的な学習を進める中で、自分の予想や仮説、その検証方法や結果、考察などを自分の言葉でまとめ表現させるような日常の授業の工夫が強く求められる。

中学2年「国語」正答と正答率

問題番号	領域	問題内容	正答	正答率	期待正答率	4県正答率
1	話すこと・聞くこと	聞き取り	七千	92.6	70.0	92.7
			1	84.1	70.0	84.3
			3	78.4	70.0	80.3
2	言語事項	漢字の読み	しょうたい	98.5	80.0	98.4
			ちんぎん	70.8	80.0	65.4
			きざ	95.8	70.0	95.9
			か	96.3	70.0	96.3
		漢字の書き	圧力	91.2	80.0	92.4
			故郷	60.4	70.0	56.6
			断	49.7	60.0	51.8
			映	51.6	60.0	59.3
		語句	1	97.1	90.0	97.0
			(例) みんな (他に、じゅう、ぜんぶ、すべて 等)	83.8	80.0	82.9
			1	93.0	70.0	92.4
			2	90.6	70.0	90.7
			2	90.6	70.0	90.7
		文法	八つ	44.3	50.0	48.8
			4	27.8	50.0	29.9
すると	81.6		60.0	85.2		
3	読むこと	文学的な文章 (小説)	(例) おばあちゃん (他に、さよ、ばあさん)	82.5	80.0	83.0
			3	75.4	60.0	76.1
			さくさくと透明な冬の兵隊が行進するような、つめたい音 (26字)	60.0	70.0	61.1
			2	62.5	70.0	62.4
			4	82.0	80.0	82.4
4		説明的な文章 (論説文)	3	64.5	50.0	63.3
			(例)人は自分で考えなければならない。(16字)	78.1	80.0	77.6
			2	61.9	70.0	61.1
			3	59.2	70.0	60.4
			1	47.5	70.0	47.5
5	書くこと	作文	(解答例) 〈学校外の学習時間〉 一時間未満の生徒が、二九パーセントから四〇パーセントに増加している。 〈テレビを見る時間〉 三時間以上の生徒が、三八パーセントから五八パーセントに増加している。 (学習時間の変化とテレビを見る時間の変化がそれぞれ書かれている。)	82.9	80.0	81.8
			(解答例) 学校外の学習時間が一日一時間未満の生徒が、十年前から一パーセント増えて、現在では四〇パーセントになっている一方、テレビを一日三時間以上見る生徒は、二〇パーセント増の、五八パーセントにのぼっている。 このことから、十年前に比べると、全体的に学校外での学習時間が減っていることがわかる。私は、テレビを見る時間が大はばに増えていることが、その理由の一つではないかと考える。 (8行～10行(141字～200字)以内で書かれている。) (二段落構成になっている。) (第一段落に学習時間とテレビを見る時間の変化が書かれている。) (第二段落にその変化についての自分の考えたことや感じたことが書かれている。)	60.8	80.0	63.6
				58.4	70.0	61.2

## 第2学年「国語」結果と考察

### 1 出題のねらいと内容

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成する基本的な理念に基づき、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」などの社会生活に必要な言語能力を確実に育成することを重視し、基礎的・基本的な内容を踏まえながら、相手の意図を理解しながら聞き取る力、文章を目的に応じて的確に読み取る力や目的や場面などに応じて適切に表現する力をみることをねらいとした。

①では、「不在である父にかかってきた電話での中学生のやりとり」の放送を聞いて、話し手の意図をとらえるための聞き方の工夫や聞き手に理解してもらうための話し方の工夫を押さえるなど、話し手の意図を考えながら話のポイントを正確にとらえることができるかをみようとした。

②では、小学校学年別漢字配当表にある漢字を書くことができるか、さらに常用漢字表の中から小学校と中学校1年で新出する漢字が読めるかをみようとした。また、「慣用句や季節を表す言葉の知識・理解」「基本的な文法事項、特に単語の性質の理解、修飾語の係り受けの理解、文と文との接続関係の理解」などをみようとした。

③では、文学的な文章（小説）において、文脈の中での語句の効果的な使い方や表現の特徴などに注意して読む力や、登場人物の心情を考えたり、作品の展開を考えながら主題を考えたりする力をみようとした。

④では、説明的な文章（論説文）において、書き手の論理の展開の仕方を的確にとらえ、表現の仕方や文章の特徴に注意して内容を理解する力や、文脈の中における語句の意味を正確にとらえることができるかをみようとした。

⑤では、提示された資料から課題を見付け、根拠を明らかにして自分の考えをまとめ、与えられた条件に従って適切な構成を工夫し、効果的な文章を書く力をみようとした。

### 2 結果と考察

#### ① メモを活用し、話し手の意図を考えながら話のポイントを的確に聞き取る力をみる問題

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向				
①	(1)	92.6	7.0	0.4	70.0	92.7	「五千」と解答(0.8%) 「一万」と解答(0.4%) その他(5.8%)			
	(2)	84.1	15.6	0.3	70.0	84.3	2(0.6%)	3(7.7%)	4(7.2%)	その他(0.1%)
	(3)	78.4	21.2	0.4	70.0	80.3	1(9.2%)	2(9.4%)	4(2.5%)	その他(0.1%)

#### 【考察】

(1)は、相手の話した内容の要点を正確に聞き取る問題である。正答率 92.6 %で、期待正答率を大きく上回っている。キーワードとしての金額がメモとして残しやすく、正確に聞き取ることができ正答につながったものと考えられる。

(2)は、聞き手に理解してもらうための話し方の工夫について聞き取っていたかどうかをみるために、選択肢で答えさせる問題である。正答率 84.1 %で、期待正答率を上回っている。伝言がいくつあるかを最初に述べていた話し手の工夫を的確に指摘することができ、正答につながったものと考えられる。

(3)は、話し手の意図をとらえるための聞き方の工夫を聞き取っていたかをみるために、選択肢で答えさせる問題である。正答率 78.4 %で、期待正答率を上回っている。誤答のうち代表的なものは、選択肢 1 の「まちがいを直すこと」、2 の「話をスムーズに進めること」である。これらは普段、教室で話すときに期待される要素を含んでいるため、的確に聞き取れなかった生徒が混同したのと考えられる。

2 漢字の読み書きの力、慣用句や季節を表す言葉に関する知識・理解、基本的な文法の知識・理解をみる問題

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向	
2	(1) ①	98.5	0.9	0.6	80.0	98.4	その他(0.9%)
	②	70.8	24.5	4.7	80.0	65.4	「よさん」と解答(0.1%) その他(24.4%)
	③	95.8	3.2	1.0	70.0	95.9	その他(3.2%)
	④	96.3	1.9	1.8	70.0	96.3	その他(1.9%)
	(2) ①	91.2	4.8	4.0	80.0	92.4	「庄力」と解答(0.3%) 「厚力, 暑力, 熱力」と解答(2.0%) その他(2.5%)
	②	60.4	25.9	13.7	70.0	56.6	「故」だけ誤答(11.5%) 「郷」だけ誤答(7.7%) その他(6.7%)
	③	49.7	8.7	41.6	60.0	51.8	「異」と解答(0.6%) その他(8.1%)
	④	51.6	31.6	16.8	60.0	59.3	「写」と解答(27.1%) 「移」と解答(1.0%) その他(3.5%)
	(3)	97.1	2.6	0.3	90.0	97.0	2(1.8%) 3(0.5%) 4(0.2%) その他(0.1%)
	(4)	83.8	10.5	5.7	80.0	82.9	「ぜんいん, みな, 全て」等と解答(0.6%) 「そうい」と解答(1.8%) その他(8.1%)
	(5)	93.0	6.6	0.4	70.0	92.4	2(3.7%) 3(1.3%) 4(0.5%) その他(1.1%)
	(6)	90.6	9.1	0.3	70.0	90.7	1(1.6%) 3(1.3%) 4(6.0%) その他(0.2%)
	(7)	44.3	54.5	1.2	50.0	48.8	「五つ」と解答(36.6%) その他(17.9%)
(8)	27.8	71.4	0.8	50.0	29.9	1(5.8%) 2(5.5%) 3(59.7%) その他(0.4%)	
(9)	81.6	14.7	3.7	60.0	85.2	「そして」と解答(5.8%) 「やがて」と解答(0.1%) 「そうすると, そうしたら, 曲がったら」等 と解答(0.7%) その他(8.1%)	

【考察】

(1)は、中学校1年までの既習漢字の読みを答える問題である。正答率は①③④については95%以上で期待正答率と比較して上回っている。②については正答率は70.8%で期待正答率を下回っている。誤答は「賃」の読みがわからず、推測で答えているためと考えられる。

(2)は、小学校学年別漢字配当表にある漢字を書く問題である。正答率は①については91.2%であり、期待正答率を上回っている。②③④については、いずれも正答率は49~60%で期待正答率を下回っている。②の誤答は「故」、「郷」どちらかが書けないためのものが19.2%あった。④の誤答は同音異字が障害となっており、「写す」の方を解答した生徒が27.1%であった。また、訓読みの漢字の方が音読みの漢字に比べ、読み書きともに正答率が低くなる。同訓異字での混乱があることや、訓の場合は平仮名表記でもさほど違和感がないことから、普段から平仮名表記が多く、定着率が低くなっている可能性がある。

全体として、「読み」に比較して「書き」が不十分である。ドリル学習等の定着を図るための工夫が必要である。

(3)は、基本的な慣用句の意味をとらえる問題である。正答率は97.1%で、期待正答率を上回っている。「胸をなでおろす」は生徒の言語環境の中で比較的良好に耳にする言葉と考えられる。今後、慣用句の利便性を理解させながら、さらに多くの慣用的表現に触れさせ、指導していくことが望まれる。

(4)は、語句の意味を変えずに別の語句に言い換える問題である。正答率は83.8%で期待正答率と同程度である。平仮名に限定されていたことや日常で非常によく使われる単語であることで、正答率が高くなったものと考えられる。ただし、漢語の言い換えについては、抵抗のある生徒も多いと考えられるので、折に触れて授業で指導していくことが望まれる。

(5)は、短歌に詠まれた「季節を表す言葉」をとらえる問題である。正答率は93.0%で、期待正答率を大きく上回っている。文語体で詠まれた短歌においても、季節を表す単語は比較的容易にとらえることができるものと思われる。

(6)は、同音異字の漢字を区別して書く問題である。正答率は 90.6 %で、期待正答率を大きく上回っている。「実験」「危険」「検査」はいずれも日常生活で触れる機会の多い漢字であることが理由と考えられる。

(7)は、文を単語に分ける問題である。正答率は 44.3 %で、期待正答率を下回っている。文節の数を答えている誤答が多く、単語について注意を払っていない状況がうかがえる。

(8)は、修飾語の係り受けの問題である。正答率は 27.8 %で期待正答率を大きく下回っている。誤答の代表的な例は、「ふわふわと」→「雪が」としているものである。連用修飾語であっても主語に係るととらえている場合がある。また、連用修飾語と連体修飾語の区別が曖昧なままの場合もある。修飾語に関しては、ある程度時間をかけて理解を深めるよう指導することが必要である。

(9)は、文中での接続助詞の意味を正確に把握して、接続詞で言い換える問題である。正答率は 81.6 %で、期待正答率を大きく上回っている。誤答は、「そして」等で、累加と混同しているためだと考えられる。接続助詞「と」があることによってどのような効果があるかについて、考慮していないための誤答がある。

**3 文学的な文章において、表現の特徴に注意して読み、登場人物の心情や作品の主題を考える力をみる問題**

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向
(1)	82.5	13.6	3.9	80.0	83.0	「祖母、私のおばあちゃん」等と解答(2.5%) 「おじいちゃん」と解答(1.4%) 「私、麻子」と解答(4.1%) その他(5.6%)
(2)	75.4	23.9	0.7	60.0	76.1	1(5.3%) 2(9.2%) 4(9.2%) その他(0.2%)
3 (3)	60.0	28.7	11.3	70.0	61.1	26字を超える解答(8.0%) 文が途中の解答(8.0%) 「でも、～好きなのだ」と解答(7.8%) その他(4.9%)
(4)	62.5	36.6	0.9	70.0	62.4	1(1.9%) 3(22.7%) 4(11.8%) その他(0.2%)
(5)	82.0	17.0	1.0	80.0	82.4	1(4.5%) 2(4.5%) 3(7.9%) その他(0.1%)

**【考察】**

(1)は登場人物の会話文から、心情を押さえて文脈を読み取る問題である。正答率 82.5 %で、期待正答率と同程度である。この会話文は言い回しから「おじいちゃん」の言葉であることが明白で、直前に「おばあちゃん(さよ)」のことが書かれているので、比較的容易に解答できたと考えられる。

(2)は空欄に合った表現はどれかを選ぶもので、文脈の中における語句の効果的な使い方について理解する力をみる問題である。正答率 75.4 %で期待正答率を上回っている。選択肢 2 の「悲しい口調」と答えたものは、おばあちゃんの死を意識したこと、選択肢 4 の「そっけない口調」と答えたものは、その発言の唐突さや飾り気のなさを意識したことによるものかと思われる。

(3)は傍線部分の説明をしているところを抜き出させ、表現や文章の特徴に注意して読む力をみる問題である。正答率 60.0 %で期待正答率を下回っている。表現の特徴に注意して読み取った上で、条件に即して解答するということができていないため正答率を下げる要因となったと考えられる。

(4)は登場人物の心情を押さえて読む力をみる問題である。正答率 62.5 %で期待正答率を下回っている。選択肢 3, 4 を選び誤答となっているのは、本文中の「気味が悪い」とか「みたことのない人」という表現を曲解しているためと考えられる。

(5)は文章の展開を確かめながら要旨をとらえる力をみる問題である。正答率 82.0 %で期待正答率と同程度である。選択肢 3 の「楽しく会話できたことに感謝している」を選んだ誤答が比較的多かったのは、主人公の心情を憶測して、自分なりの想像によって答えているためと考えられる。

4 説明的な文章において、書き手の論理の展開の仕方を的確にとらえ、表現の仕方や文章の特徴に注意して、内容を理解する力をみる問題

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向	
4	(1)	64.5	33.1	2.4	50.0	63.3	1(13.2%) 2(9.5%) 4(10.2%) その他(0.2%)
	(2)	78.1	8.1	13.8	80.0	77.6	字数超過の解答(0.4%) 問いに対する答えになっていない解答(2.1%) 古典を読む といった内容の解答(0.4%) その他(5.2%)
	(3)	61.9	36.7	1.4	70.0	61.1	1(12.4%) 3(9.0%) 4(15.2%) その他(0.1%)
	(4)	59.2	39.0	1.8	70.0	60.4	1(8.4%) 2(18.3%) 4(12.2%) その他(0.1%)
	(5)	47.5	50.7	1.8	70.0	47.5	2(13.6%) 3(14.6%) 4(22.4%) その他(0.1%)

【考察】

(1)は本文の一部が抜き取っており、それを正しい位置に戻させて、書き手の論の展開を正しくとらえる力をみる問題である。正答率は64.5%で期待正答率を上回っているが、文脈を考えずに、安易に「知識」や「情報」といった頻出語句に引かれて答えている生徒が3分の1程度いることになる。論の展開をとらえることは、文と文、段落と段落との関係性をとらえることであるから、単語レベルでの安直な読みにならないよう指導する必要がある。

(2)は文章の展開に即して内容をとらえる力を論述によってみる問題である。正答率は78.1%で期待正答率と同程度である。この問題の場合、次の行にほぼ正答と言える表現があり、その部分に注目することで比較的容易に解答することができたものと考えられる。

(3)は文脈の中における語句の意味を正確にとらえる力をみる問題である。正答率は61.9%で期待正答率を下回っている。「手段の目的化」という表現そのものが難解だったり、「メディア」「情報」という言葉で混乱したりした可能性がある。

(4)は表現の仕方に注意して読む力をみる問題である。正答率は59.2%で期待正答率を下回っている。選択肢2の誤答が多かったのは、「要点の数が明らかになるように」に注意が及ばず「段落の出だしの言葉を工夫している」にのみとらわれたためと考えられる。また、比喻を選んだ誤答も多く、表現手法に関する知識・理解が不足していることがうかがえる。

(5)は文章の要旨を選択肢で答えさせ、内容を理解する力をみる問題である。正答率は47.5%で期待正答率を大きく下回っている。誤答に当たる選択肢2・3・4のいずれにも「情報」という語句が入っていたため、文章の展開を確かめながら確実に要旨をとらえることができなかった生徒が選択したものと考えられる。

5 提示された資料から課題を見付け、適切な構成を工夫し、根拠をあげて自分の考えを書く力をみる問題

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向	
5	(1)	82.9	13.3	3.8	80.0	81.8	Bの変化を書かない解答(2.5%) Aの変化を書かない解答(4.2%) その他(6.6%)
	(2) ①	60.8	23.3	15.9	80.0	63.6	段落頭の一字空けがない解答(5.7%) 2段落構成でない解答(3.9%) 8行以上10行以内でない解答(3.0%) その他(10.7%)
	(2) ②	58.4	26.0	15.6	70.0	61.2	片方のグラフの変化のみ記述の解答(3.5%) 第二段落に第一段落とは関係ない記述の解答(2.1%) 第二段落に考えたこと・感じたことが記述されていない解答(5.1%) その他(15.3%)

【考察】

(1)は二つのグラフから変化を読み取らせて一文で書かせることにより、課題を見付ける力をみる問題である。正答率は82.9%で期待正答率と同程度である。論述問題であるにもかかわらず、比

較的読み取りやすいグラフであるためか、無答が少ない。代表的な誤答は片方のグラフしか読んでいないものである。

(2)の①は、条件にある字数や段落構成、原稿用紙の正しい使い方等、適切な構成を工夫し解答しているかどうかをみるものである。正答率は 60.8 %で期待正答率を下回っている。誤答のうち代表的なものは、段落頭の一字空けがないもの、二段落構成ができていないもの、字数が守られていないものである。

②は、根拠をあげて自分の考えを書く力をみる問題である。一段落目に両方のグラフについて変化が書かれているか、二段落目に自分の考えたこと感じたことが書かれているかを中心にみており、内容が妥当であれば段落分けができていないものも可としている。正答率は 58.4 %で期待正答率を下回っている。誤答のうち代表的なものは、片方の変化しか書かれていないもの、考えたこと感じたことが書かれていなかったり、全く関係ない内容だったりするものである。(1)ではグラフの変化をかなりの生徒が読み取っているにもかかわらず、この設問ではそれを生かして書くことができない生徒が多いということである。

今後の指導においては、「資料をどう読み、そこにどんな課題を見付けるか」や「資料を基に自分の意見・考えをどのように構築し、どう表現するか」といったことに関して、授業の中で生徒に考えさせる機会を多く設定していく必要がある。このことは広い意味での「読解力」と関係してくるため、「読むこと」と関連付けて、指導の充実を図ることも望まれる。

また、①②を通して、無視できないのが無答率である。前問で課題を発見しているにもかかわらず、その課題を基に自分の意見を書くことができず、無答に終わっている生徒がかなりいる。作文への苦手意識、抵抗感が大きいと考えられる。

### 3 まとめ

「話すこと・聞くこと」から3問、「書くこと」から3問、「読むこと」から10問、「言語事項」から15問の計31問の構成であり、昨年より、すべての領域において出題数が増加している。「漢字の書き」に関しては、すべて小学校と中学校第1学年の内容である。

この31問のうち、正答率が60%以上のものは24問（「話すこと・聞くこと」：3問、「書くこと」：2問、「読むこと」：8問、「言語事項」：11問）、40%以上60%未満のものが6問（「書くこと」：1問、「読むこと」：2問、「言語事項」：3問）、40%に至らなかったものが1問（「言語事項」：1問）という結果となった。

全体として、正答率60%以上の問題が31問中24問（77%）であり、おおむね定着が図られているという状況である。なお、昨年度は正答率60%以上の問題が62%であり、これと比べてかなり高くなっている。

さらに今回地方分権研究会で目標とする正答率70%ライン以上の問題は31問中18問あり（58%）、また、表に示したように新たに設けた期待正答率と比較すると、期待正答率を上回ると考えられるものが13問（「聞くこと」：3問、「読むこと」：2問、「言語事項」：8問）、期待正答率と同程度と考えられるものが5問（「書くこと」：1問、「読むこと」：3問、「言語事項」：1問）、期待正答率を下回ると考えられるものが13問（「書くこと」：2問、「読むこと」：5問、「言語事項」：6問）であり、全体として期待正答率を上回ると考えられるものと同程度と考えられるものの問題数の合計は31問中18問（58%）と、おおむね良好であると評価される。

区分	問題数 (小問数)	期待正答率を上 回ると考えられ るもの(A)	期待正答率と同 程度と考えられ るもの(B)	小計 (A) + (B)	期待正答率を下 回ると考えられ るもの(C)	領域別 正答率(%)	期待正答率 (%)
話すこと・聞くこと	3	3	0	3	0	85.1	70.0
書くこと	3	0	1	1	2	67.4	76.7
読むこと	10	2	3	5	5	67.4	70.0
言語事項	15	8	1	9	6	75.5	69.3
計	31	13	5	18	13		

「話すこと・聞くこと」については、3問とも正答率が期待正答率を上回っており、話し手の意図や工夫に着目しながら要旨を聞き取ることについてはおおむね満足できる状況にあると判断できる。今後さらに、学習指導要領に示された言語活動例を参考に、授業において「話すこと・聞くこと」に関する学習場面を意図的・計画的に設定し、「伝えたいことは何か」「伝わったことは何か」「疑問点は何か」などを意識させた活動を展開する中で、「伝え合う力」の一層の育成を図っていくことが必要である。

その際、音声言語活動の諸要素（声量、抑揚、強調、速度など）の指導にとどまるのではなく、常に相手を意識し、組み立てを工夫しつつ目的に応じて筋道を立てて話したり、話の要点を聞き取って要旨をまとめたりする能力の育成を図ることが大切である。

「書くこと」については、3問中1問が期待正答率と同程度であったが、残り2問は期待正答率を下回っている。特にグラフから読み取ったことをまとめ、それに対する自分の考えや感想を書く問題では、正答率が期待正答率を大きく下回り、また無答率も高くなっている。課題意識を持ち、疑問点などを明らかにしながら資料に接する大切さを指導した上で、感じたことや気づいたことをメモしたり、それらを自分の言葉でまとめたりする学習が効果的である。また、原稿用紙に書く活動自体への抵抗感もあると思われるので、中学校3年間を見通した、「書くこと」の指導に関する系統的な指導と評価の計画を作成することも意義があると考えられる。

「読むこと」については、10問中2問が期待正答率を上回り、3問が同程度であった。文種別にみると、文学的な文章に比べ説明的な文章の読解に課題が見られた。理由として、段落相互の関係に注意しながら全体の構成をとらえる場合に文脈中の語句の役割や接続語などに注目できないことなどが考えられる。

そこで、語句の使い方を手がかりに段落相互の関係をとらえて全体の構成を把握したり、小段落の内容を適切に要約したりする学習が必要である。また、新聞記事や科学論文など多様な文章に触れさせる機会を意図的に与えるとともに、自分の考えに照らして評価しながら読む訓練を行うことも大切と考える。

「言語事項」については、15問中8問において正答率が期待正答率を上回り、1問が同程度であり、全体としてはおおむね満足できる状況にあると判断できる。特に漢字の読み、慣用句の意味や季節を表す言葉などの語彙力に関する問題については、期待正答率を大きく上回っている。今後も、国語の授業を中心に豊かな言語環境の整備を図っていくことが大切である。

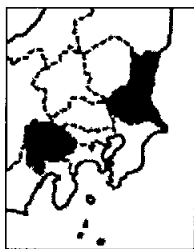
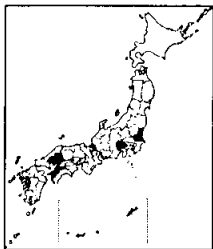
漢字の書き、単語への分割、修飾・被修飾の関係の把握については、期待正答率を下回っており、今後の指導の工夫が必要である。特に漢字の学習については、「書くこと」の指導と関連させながら、既習漢字の使用についてきめ細かな指導を行う必要がある。また、文法の指導については、知識の教え込みではなく、「読むこと」との関連を図りながら法則性などに目を向けさせ、文脈に即して理解を深めていく指導の工夫が必要と考える。



中学2年「社会」正答と正答率

問題番号	領域	問題内容	正答	正答率	期待正答率	4県正答率	
1		地球の姿 世界の国々の構成と地域区分	(1)	4	71.7	80.0	72.5
			(2)	1	34.5	50.0	34.7
			(3)	3	46.9	70.0	47.3
			(4)	2	40.8	70.0	40.8
2	A B	日本の国土の位置 日本の地域構成	(1)	領土	47.7	80.0	46.2
			(2)	経済	47.5	80.0	53.7
			(3)	茨城県がぬられている(注1)	39.1	60.0	39.3
			(4)	3	72.8	70.0	73.5
3		地域の規模に応じた調査 身近な地域 地図の見方	(1)	110(m)	29.1	60.0	33.2
			(2)	1(km)	21.4	50.0	22.2
			(3)	2	81.6	70.0	81.4
4	地理的分野 (地域の規模に応じた調査)	地域の規模に応じた調査 都道府県	(1)	4	71.4	70.0	70.9
			(2)	第1次産業人口構成(割合)がほかの県にくらべてもっとも高い。等	49.8	70.0	49.8
			(3)	2	36.2	60.0	36.2
5		世界の国々	(1)	3	67.7	70.0	67.2
			(2)	3	50.1	70.0	48.6
6	歴史的分野 (古代までの日本)	古代までの日本	(1)	3	80.5	80.0	80.6
			(2)	2	61.9	70.0	64.0
			(3)	4	61.2	70.0	63.5
7			(1)	1	64.5	70.0	65.7
			(2)	4	37.9	80.0	41.8
			(3)	3	55.6	80.0	57.8
8	歴史的分野 (中世の日本)	中世の日本	(1)	源頼朝	37.3	80.0	40.5
			(2)	3	47.0	80.0	47.9
			(3)	2	42.5	70.0	44.2
			(4)	4	52.9	70.0	52.8
			(5)	2	30.3	60.0	32.4
9	歴史的分野 (近世の日本)	近世の日本	(1)	武士と農民の身分の区別が明らかになり、兵農分離が進んだ。等	39.3	60.0	40.6
			(2)	1	41.9	80.0	44.5
10	地理的分野 (世界と日本の地域構成)	(地歴融合) 日本の地域構成 近世の日本	(1)	1	48.5	70.0	49.0
			(2)	3	66.7	70.0	68.7
			(3)	2	45.7	80.0	45.8
			(4)	1	62.5	70.0	64.0

(注1)



## 第2学年「社会」結果と考察

### 1 出題のねらいと内容

中学校社会科では、各分野において、学び方や調べ方を身に付け、基礎・基本の確実な定着を図ること、思考力・判断力や資料活用能力を重視した問題解決的な学習活動の工夫が求められている。

これを受けて、既習の中学校第1学年の「地理的分野」「歴史的分野」の2領域について、社会的な思考・判断、資料活用の技能や表現の能力、社会的事象についての知識・理解などをみることをねらいとして問題を作成した。

①では、地球の姿や世界の国々の構成と地域区分について、大陸と大洋に関する知識や理解、資料を活用して地球上の位置、時差を基に時刻を表現する力、日本と同緯度の国を資料から読み取る力をみようとした。

②では、日本の国土の位置や地域構成について、領域や都道府県の位置と名称に関する基本的な知識や理解をみようとした。

③では、身近な地域における地図の見方について、地形図を活用して等高線や地図記号などから標高や実際の土地の様子を読み取る力、縮尺を基に実際の距離を求める力をみようとした。

④では、都道府県の調査について、統計資料から都道府県の特色を読み取り表現する力、地域的特色の変化を読み取る力をみようとした。

⑤では、世界の国々について、資料を基に農業と気候の関係を判断する力、貿易と産業の変化の様子を読み取る力をみようとした。

⑥では、古代までの日本について、資料を基に弥生時代の特色や大陸との関係に関する知識や理解をみようとした。また、資料の主な事項から古代の大陸との関係をとらえ表現する力をみようとした。

⑦では、古代までの日本について、資料を基に文化の特色をとらえる力、奈良時代の代表的な文化財や平安時代の政治の特色に関する知識や理解をみようとした。

⑧では、中世の日本について、資料を基に鎌倉幕府の創設者をはじめ、御家人制度、その後の武家社会の展開や社会の変動、農村の動きに関する知識や理解をみようとした。

⑨では、近世の日本について、資料を基に豊臣秀吉の政策が社会に与えた影響を考える力、対外政策に関する知識や理解をみようとした。

⑩では、地歴融合問題で、都道府県の位置・名称・県庁所在地、江戸時代における武家諸法度や鎖国下の貿易についての知識や理解をみようとした。

### 2 結果と考察

① 地球の姿や世界と国々の構成と地域区分において、大陸と大洋に関する知識や理解、資料を活用して地球上の位置、時差を基に時刻を表現する力、日本と同緯度の国を資料を基に読み取る力をみる問題

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向				
1	(1)	71.7	27.6	0.7	80.0	72.5	1(6.4%)	2(12.7%)	3(8.3%)	その他(0.2%)
	(2)	34.5	64.1	1.4	50.0	34.7	2(22.2%)	3(22.0%)	4(12.6%)	その他(7.3%)
	(3)	46.9	51.5	1.6	70.0	47.3	1(10.9%)	2(28.7%)	4(11.7%)	その他(0.2%)
	(4)	40.8	58.0	1.2	70.0	40.8	1(32.3%)	3(13.2%)	4(12.0%)	その他(0.5%)

#### 【考察】

(1)は、大陸と海洋を地図上で把握する問題である。正答率は71.7%で、期待正答率を下回っている。地図上で大陸、海洋の位置と名称を十分に把握していないためと考えられる。

(2)は、地図上の位置を緯度・経度を使って表す問題である。正答率は34.5%で、期待正答率を大きく下回っている。緯度・経度についての理解が不十分なため、資料を基にした北緯と南緯、東経と西経の読み取りを間違っているものと考えられる。

(3)は、日本と地図中の都市との時差を基に、その都市の日時を求める問題である。正答率は46.9%で、期待正答率を大きく下回っている。資料を基にした時差の計算はできているが、時刻の求め

方の理解が不十分であると考えられる。

(4)は、日本とほぼ同緯度の国を地図中で把握する問題である。正答率は40.8%で、期待正答率を大きく下回っている。地図上で主な国の位置と名称を把握していないためと考えられる。地図帳の日常的な活用が課題である。

**2 日本国土の位置や地域構成で、領域や都道府県の位置と名称に関する基本的な知識や理解をみる問題**

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向	
2	(1) A	47.7	42.5	9.8	80.0	46.2	「領地、領国」などと解答(42.5%)
	B	47.5	24.2	28.3	80.0	53.7	「200海里、国際水域」などと解答(24.2%)
	(2)	39.1	49.5	11.4	60.0	39.3	栃木県や群馬県をぬる(14.8%) その他(34.7%)
	(3)	72.8	25.8	1.4	70.0	73.5	1(4.4%) 2(6.3%) 4(14.2%) その他(0.9%)

**【考察】**

(1)は、日本の領域に関する問題である。正答率はAが47.7%、Bが47.5%で、期待正答率を大きく下回っている。特に、Bの無答率が28.3%と高いことから、日本の領域を構成する内容の理解が不十分であることがうかがえる。

(2)は、茨城県の位置を地図上で示す問題である。正答率は39.1%で、期待正答率を大きく下回っている。無答率は11.4%であり、茨城県を含め、都道府県の位置と名称の理解が不十分であると考えられる。

(3)は、資料から条件にあてはまる県名を指摘する問題である。正答率は72.8%で、期待正答率と同程度である。

**3 身近な地域における地図の見方について、地形図を活用して標高や土地利用の様子を読み取る力、縮尺を基に実際の距離を求める力をみる問題**

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向	
3	(1)	29.1	61.6	9.3	60.0	33.2	「90m,120m,140m」などと解答(61.6%)
	(2)	21.4	65.9	12.7	50.0	22.2	「10km」と解答(13.2%) 「10m,100m」などと解答(52.7%)
	(3)	81.6	16.3	2.1	70.0	81.4	1(4.5%) 3(4.3%) 4(7.3%) その他(0.2%)

**【考察】**

(1)は、地形図からA地点の標高を求める問題である。正答率は29.1%で、期待正答率を大きく下回っている。標高の読み間違いの他、2万5千分の1の地形図で計曲線と主曲線が表す標高を、5万分の1の地形図と混同しているためと考えられる。校区など身近な地域を取り上げ、地形図の読み取りに継続的に親しませる指導が必要である。

(2)は、地図上の長さや縮尺から実際の距離を求める問題である。正答率は21.4%で、期待正答率を大きく下回っている。無答率が高く、誤答例では10kmなどが多い。距離の求め方については、計算(地図上の長さ×縮尺の逆数)はできるが、特に単位の換算を不得意にしていると考えられる。校区周辺の大縮尺の地形図等を活用した継続的な指導が必要である。

(3)は、地図記号によって実際の土地利用の様子などを読み取る問題である。正答率は81.6%で、期待正答率を上回っている。基本的な地図記号や方位についての理解が定着していることで、地形図の読み取りが可能になったものと考えられる。

**4 都道府県の調査について、統計資料から都道府県の特色を読み取り表現する力、地域的特色の変化を読み取る力をみる問題**

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向	
4	(1)	71.4	26.7	1.9	70.0	70.9	1(3.5%) 2(5.3%) 3(17.3%) その他(0.6%)
	(2)	49.8	19.7	30.5	70.0	49.8	「第2次、第3次産業が3位」などと解答(19.7%)
	(3)	36.2	61.1	2.7	60.0	36.2	1(29.2%) 3(14.8%) 4(16.9%) その他(0.2%)

**【考察】**

(1)は、図中のB県(千葉県)の農業生産の特色を、資料を基に選択する問題である。正答率は71.4

%で、期待正答率と同程度であるが、図と表1から、選択は比較的容易であると考えられ、資料を基にした思考が不十分な面もうかがえる。

(2)は、図中のC県(高知県)の産業別人口構成の特色を、資料からとらえ表現する問題である。正答率は49.8%で、期待正答率を大きく下回っている。特色を記述する観点から、他の3県と比較して数値が特に高い産業を読み取り、「C県の第一次産業の人口構成が、4県の中では最も高い」という主旨であれば正答とした。無答率が30.5%と高いことから、資料を活用して多面的・多角的に考えることや文章で表現することを苦手になっていることがうかがえる。

(3)は、図中のD県(沖縄県)の産業別人口や農業生産の変化の様子を、表1.2からとらえる問題である。正答率は36.2%で、期待正答率を大きく下回っている。統計資料で増加・減少を比較するには、年代の古い資料から新しい資料(表2→表1)を見るべきところを、逆に見たことで1の誤答が多くなっていると考えられる。統計資料の的確な見方の指導が必要である。

**5 世界の国々からオーストラリアを取り上げ、資料を基に農業と気候の関係を判断する力、貿易と産業の変化の様子を読み取る力をみる問題**

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向			
5 (1)	67.7	30.4	1.9	70.0	67.2	1(12.1%)	2(6.9%)	4(11.2%)	その他(0.2%)
(2)	50.1	47.3	2.6	70.0	48.6	1(9.7%)	2(11.0%)	4(26.5%)	その他(0.1%)

**【考察】**

(1)は、図を基に、牛・羊の飼育地域と年間降水量の関係を判断する問題である。正答率は67.7%で、期待正答率と同程度である。牛と羊の飼育頭数の分布域と年間降水量の分布域の相互の関連を読み取り、判断することが難しかったものと考えられる。

(2)は、統計資料から貿易と産業の変化の様子を読み取る問題である。正答率は50.1%で、期待正答率を大きく下回っている。読み取りの手順としては、グラフから輸出品には変化が認められ輸入品には大きな変化がないことに気付き、その上で、輸出品の変化を具体的に読み取るという資料活用の技能の能力が求められる。

**6 古代までの日本について、資料を基に弥生時代の特色や大陸との関係に関する知識や理解をみる問題**

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向			
(1)	80.5	18.7	0.8	80.0	80.6	1(9.1%)	2(1.7%)	4(7.3%)	その他(0.6%)
6 (2)	61.9	36.9	1.2	70.0	64.0	1(13.0%)	3(20.2%)	4(3.7%)	
(3)	61.2	37.8	1.0	70.0	63.5	1(17.1%)	2(10.9%)	3(9.7%)	その他(0.1%)

**【考察】**

(1)は、弥生時代の特色を問う問題である。正答率は80.5%であり、期待正答率と同程度である。弥生時代の初めに稲作が大陸から日本に伝わったとの知識が定着していると考えられる。

(2)は、古代における大陸との関係の推移を問う問題である。正答率は61.9%で、期待正答率を下回っている。飛鳥時代の出来事や外交についての理解が十分でない。

(3)は、年表中の事項から古代における大陸との関係を問う問題である。正答率は61.2%で、期待正答率を下回っている。年表中の出来事から共通する歴史的事象を見付け、そこから全体のテーマを考えることが苦手な生徒がいると考えられる。

**7 古代までの日本について、資料を基に文化の特色をとらえる力、奈良時代の代表的な文化財や平安時代の政治の特色に関する知識や理解をみる問題**

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向			
(1)	64.5	34.5	1.0	70.0	65.7	2(9.7%)	3(6.3%)	4(18.4%)	その他(0.1%)
7 (2)	37.9	61.1	1.0	80.0	41.8	1(5.7%)	2(46.3%)	3(9.0%)	その他(0.1%)
(3)	55.6	42.6	1.8	80.0	57.8	1(15.0%)	2(10.3%)	4(17.2%)	その他(0.1%)

【考察】

(1)は、2つの資料から古代文化の特色を問う問題である。正答率は64.5%で、期待正答率を下回っている。資料から、飛鳥・奈良時代と平安時代の文化の担い手、文化の特色とその移り変わりをとらえることが必要である。

(2)は、奈良時代の代表的な文化財を問う問題である。正答率は37.9%と非常に低く、期待正答率を大きく下回っている。誤答例からは、2の「金剛力士像」を選択した生徒が、4の正答「五弦琵琶」を選択した生徒の割合を上回っていることから、鎌倉時代との混同が明白である。各時代の文化の特色は、代表的な文化財を写真資料などを活用して指導する必要がある。

(3)は、摂関政治を通して古代の政治の特色を問う問題である。正答率は55.6%で、期待正答率を下回っている。平安時代の政治をはじめ、各時代の政治については、相互に比較することを通して、その特色をとらえさせる指導が必要である。

⑧ 中世の日本について、資料を基に鎌倉幕府の創設者をはじめ、御家人制度、その後の武家社会の展開や社会の変動、農村の動きに関する知識や理解をみる問題

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向
8	(1)	37.3	40.7	22.0	80.0	40.5 その他(40.7%)
	(2)	47.0	50.9	2.1	80.0	47.9 1(10.0%) 2(9.5%) 4(26.4%) その他(5.0%)
	(3)	42.5	55.4	2.1	70.0	44.2 1(15.6%) 3(18.9%) 4(20.8%) その他(0.1%)
	(4)	52.9	45.1	2.0	70.0	52.8 1(18.1%) 2(13.3%) 3(13.6%) その他(0.1%)
	(5)	30.3	67.0	2.7	60.0	32.4 1(22.6%) 3(26.2%) 4(18.0%) その他(0.2%)

【考察】

(1)は、鎌倉幕府の創設者を問う問題である。正答率は37.3%と非常に低く、期待正答率を大きく下回っている。「源頼朝」については小学校の既習内容であるが、無答率が22.0%である。各時代の政治とかかわる歴史上の人物についての指導が必要である。

(2)は、鎌倉幕府の御家人制度を基盤とする地方支配を問う問題である。正答率は47.0%で、設定正答率を大きく下回っている。4の「イ 地頭 ウ 守護」を選択した生徒が20.8%いることから、守護と地頭の役割などを取り違えていると考えられる。鎌倉幕府の地方支配のしくみについての指導が必要である。

(3)は、13～14世紀における武家社会の展開を問う問題である。正答率は42.5%と低く、期待正答率を大きく下回っている。鎌倉時代後半の武家社会の変動を十分に理解していないためと考えられる。元寇による御家人の不満は鎌倉幕府の衰退の要因ともなっただけに、歴史的事象とその後の社会への影響という視点を歴史的分野の指導では大切にしたい。

(4)は、応仁の乱後の社会の変動について問う問題である。正答率は52.9%で、期待正答率を下回っている。室町時代後半は、応仁の乱後の下剋上や戦乱の広がりが地方武士の力を高め、戦国時代を迎えることになることについての理解が不十分であると考えられる。

(5)は、室町時代の農村の動きについて問う問題である。正答率は30.3%と非常に低く、期待正答率を大きく下回っている。諸産業の発達による生活の向上が、農村や町の人々の自治的な動きにつながっていくことが、室町時代の社会の大きな特徴であることを指導する必要がある。

⑨ 近世の日本について、資料を基に豊臣秀吉の政策が社会に与えた影響を考える力、対外政策に関する知識や理解をみる問題

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向
9	(1)	39.3	29.0	31.7	60.0	40.6 その他(29.0%)
	(2)	41.9	56.0	2.1	80.0	44.5 2(16.2%) 3(26.2%) 4(13.5%) その他(0.1%)

【考察】

(1)は、資料を基に、豊臣秀吉の政策の意味を問う問題である。正答率は39.3%で、期待正答率を大きく下回っている。また、無答率が30%を越えていることから、資料を基にした秀吉の兵農分離のねらいについての理解が不十分であると考えられる。また、歴史的事象に対する見方や考え方を表現することそのものを苦手にしていても考えられる。問題解決的な学習活動の指導では、社会的事象のもつ意味などについて、じっくり考えたり話し合う場の機会など、授業改善の工夫を図りたい。

(2)は、秀吉の外交政策について問う問題である。正答率は41.9%で、期待正答率を大きく下回っている。秀吉が朝鮮に出兵したことの理解が不十分であり、また、3の「楽市・楽座」を選択している生徒が26.2%もいることから、信長の政策との混同もかなりあると考えられる。近世社会の枠組み作り貢献したという点において、豊臣秀吉の政策についての指導を重視する必要がある。

**10 地歴融合問題で、都道府県の位置・名称・県庁所在地、江戸時代における武家諸法度や鎖国下の貿易についての知識・理解をみる問題**

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向			
(1)	48.5	48.9	2.6	70.0	49.0	2(25.8%)	3(14.4%)	4(8.6%)	その他(0.1%)
10 (2)	66.7	31.5	1.8	70.0	68.7	1(16.7%)	2(10.2%)	4(4.5%)	その他(0.1%)
(3)	45.7	52.2	2.1	80.0	45.8	1(16.3%)	3(11.5%)	4(24.3%)	その他(0.1%)
(4)	62.5	35.5	2.0	70.0	64.0	2(13.7%)	3(8.3%)	4(13.4%)	その他(0.1%)

**【考察】**

(1)は、参勤交代の資料を基に、関連する都道府県の位置と名称を問う問題である。正答率は、48.5%で、期待正答率を下回っている。富山県、新潟県、長野県、群馬県などの位置と名称の理解が不十分であることが、2との関連からも明らかとなった。

(2)は、武家諸法度の内容を問う問題である。正答率は66.7%で、期待正答率と同程度である。主な時代の政治制度と代表的な法律の関連を理解している生徒が多いと考えられる。

(3)は、主な都市の歴史上の役割と現在の役割を問う問題である。正答率は45.7%で、期待正答率を大きく下回っている。東京、金沢、名古屋などが都府県庁の所在地であるという知識が十分に定着していないと考えられる。2との関連も含め、歴史的分野での地図帳の活用が課題である。

(4)は、鎖国下における外国との交流について問う問題である。正答率は62.5%で、期待正答率を下回っている。鎖国政策の下では、長崎が唯一のオランダ・中国との交易の場であったことへの理解が不十分であると考えられる。長崎はその後の学問の発達との関連もあり、出島などを取り上げ、具体的な交流の様子を指導したい。

**3 まとめ**

地理的分野の「世界と日本の地域構成」から10問、「地域の規模に応じた調査」から8問、歴史的分野の「古代までの日本」から6問、「中世の日本」から5問、「近世の日本」から4問の計33問で構成されており、このうち4問が地歴融合問題として出題されている。

この33問のうち、正答率が60%以上の問題が11問（世界と日本の地域構成：2問、地域の規模に応じた調査：3問、古代までの日本：4問、近世の日本：2問）、40%以上60%未満の問題が13問（世界と日本の地域構成：6問、地域の規模に応じた調査：2問、古代までの日本：1問、中世の日本：3問、近世の日本：1問）、40%に至らなかったものが9問（世界と日本の地域構成：2問、地域の規模に応じた調査：3問、古代までの日本：1問、中世の日本：2問、近世の日本：1問）という結果になった。

全体として、正答率が60%以上の問題が33問中11問（33%）であり、今後の指導の工夫・改善が望まれる。

さらに今回地方分権研究会で目標とする正答率70%ライン以上の問題は33問中5問あり（15%）、また、表に示した期待正答率と比較すると、期待正答率を上回ると考えられるものが1問（地域の規模に応じた調査）、期待正答率と同程度と考えられるものが5問（世界と日本の地域構成：1問、地域の規模に応じた調査：2問、古代までの日本：1問、近世の日本：1問）、期待正答率を下回ると考えられるものが27問（世界と日本の地域構成：9問、地域の規模に応じた調査：5問、古代までの日本：5問、中世の日本：5問、近世の日本：3問）であり、全体として期待正答率を上回ると考えられるものと同程度と考えられるもの問題数の合計は、33問中6問（18%）となり、満足できる状況ではない。

区分	問題数 (小問数)	期待正答率を上 回ると考えられ るもの (A)	期待正答率と同 程度と考えられ るもの (B)	小計 (A) + (B)	期待正答率を下 回ると考えられ るもの (C)	領域別 正答率 (%)	期待正答率 (%)
世界と日本の地域構成	10	0	1	1	9	49.5	71.0
地域の規模に応じた調査	8	1	2	3	5	50.9	65.0
古代までの日本	6	0	1	1	5	60.3	75.0
中世の日本	5	0	0	0	5	42.0	72.0
近世の日本	4	0	1	1	3	52.6	70.0
計	33	1	5	6	27		

地理的分野の「世界と日本の地域構成」については、期待正答率を下回る問題が10問中9問であり、満足できる結果とは言えない。[1]では、特に(2)～(4)の正答率が低い。3問とも緯度・経度についての基本的な理解が不十分なことが大きな要因と考えられる。事例地の学習で主な国や都市を取り上げる時に、地図帳を活用して時差を計算するなど、繰り返しの指導が必要である。[2]では、(1),(2)の正答率が低い。日本は四面環海の国であり、領土問題や経済水域の問題には常に関心をもたせることが重要である。また、都道府県の位置と名称については、地図帳や白地図の活用、パズルの作成など、作業的学習を基本とした指導で一層の定着を図る必要がある。

「地域の規模に応じた調査」については、期待正答率を下回る問題が8問中5問であり、満足できる結果とは言えない。[3]では特に、(1),(2)の正答率が非常に低い。この要因としては、地図の見方が教科書での等高線や地図記号の指導を中心に行っていることが考えられる。身近な地域の学習では、野外での観察や調査を年間指導計画に位置付け、2万5千分の1などの大縮尺の地図を活用した地域調査を実施し、地域的特色を体験的学習を通してとらえさせる指導が必要である。

なお、小学校の地域学習の成果を踏まえ、地図には表現されない季節的変化など、新しい視点をもたせることも重要である。観察・調査の実施が困難な場合は、校区を含む地図を準備し、地理的事象を調べ追究するといった問題解決的な学習活動を展開することが必要である。生徒の日常生活圏を学習対象とし、大縮尺の地図の活用を通して、地図に親しませる指導が重要である。[4]では、(2),(3)の正答率が低い。統計資料を基に、社会的事象の意味や特色をとらえる学習を苦手としていることがうかがえる。日常の指導では、副読本や資料集を十分に活用し、資料の見方や考え方を具体的な事例を通して確実に身に付けさせる必要がある。

また、記述式の正答率が低い背景として、調べたことを基に社会的事象の意味などを考える時間が十分に確保されていないことが考えられる。分かったことを自分の言葉でまとめたり、話し合いを通して地理的な見方や考え方を深める学習活動が必要である。

歴史的分野の「古代までの日本」については、他の領域に比べるとおおむね満足できる結果となったが、[7](2)の正答率が37.9%と低く、各時代の文化の特色についての知識・理解が十分でないと考えられる。各時代の代表的な文化財については、授業において写真等の資料を用いて、具体的に理解させることが必要である。

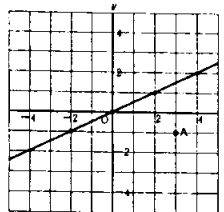
「中世の日本」については、全問が期待正答率を下回る結果となった。鎌倉時代から室町時代にかけての時代の特色と大きな流れが十分理解されていない。また、源頼朝などの歴史上の人物についての理解が十分でないとも言える。各時代の出来事や人物についての知識はある程度あるが、それらが歴史の大きな流れの中で、どのような位置付けにあるのか、どのような役割を果たしたのかという理解が十分でないと考えられる。歴史の大きな流れを理解させるために、政治の展開、産業の発達、社会の様子、文化の特色などに着目し、他の時代との相違点や共通点、各時代の特色を理解させる指導が必要である。また、歴史上の人物については、その人物の活動した時代背景と関連させながら、その果たした役割や生き方を具体的に理解させることが大切である。

「近世の日本」については、4問中3問が期待正答率を下回り満足できる結果とは言えない。特に、[9]の豊臣秀吉の政策についての問題の正答率は40%前後と非常に低い。太閤検地と刀狩の内容はある程度知っているが、秀吉が2つの政策を通じて、最終的に何をねらっていたのかを理解している生徒は少ない。また、指定された用語を用いて、社会の変化を自分の言葉で説明できない生徒が多い。出来事や政策を知識として教えるだけで終わらずに、その背景や原因、結果や影響など、調べたことを基に、歴史的事象を多面的・多角的に考察させることによって、理解を深めるような指導が必要である。

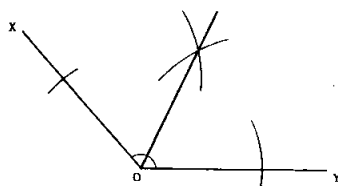
## 中学2年「数学」正答と正答率

問題番号	領域	問題内容	正答	正答率	期待正答率	4県正答率	
1		正負の数	(1) -4	74.0	80.0	74.8	
			(2) -45	58.7	70.0	60.0	
		文字式の計算	(3) $2x+y$ または $y+2x$	67.8	70.0	67.7	
			(4) $-30xy^2$ または $-30y^2x$	51.5	70.0	55.6	
2			3	33.8	60.0	34.9	
3	数と式	(1) 一次方程式	$(x=)2$	82.2	80.0	82.7	
		(2) 文字式の計算	3	62.4	60.0	62.4	
		(3) 二元一次方程式	2	53.8	70.0	55.8	
4		連立方程式の解き方	(1) 1	75.4	80.0	76.8	
			(2) $(x=)2, (y=)1$	70.2	70.0	71.7	
5		連立方程式の利用	$x+y=900, \frac{x}{60} + \frac{y}{210} = 10$	21.1	50.0	24.7	
6		文字式の利用	(1) $10x+y$ または $y+10x$	20.2	50.0	20.9	
			(2) 5, 2 または 2, 5	46.1	60.0	48.9	
7	数量関係	比例・反比例する量	2	73.4	80.0	75.8	
4			53.7	70.0	55.8		
9		比例・反比例のグラフ	(1) 3	80.7	90.0	81.4	
			(2) (注1)	71.5	70.0	70.4	
10				1	71.8	70.0	72.5
11			比例の利用	(1) 1.5 (cm)	73.4	70.0	73.7
	(2) 12 (分後)			49.5	60.0	48.8	
12	図形	平面図形	1	71.8	80.0	72.1	
(注2)			48.9	80.0	50.7		
14		直線や平面の位置関係	(1) 4	49.6	70.0	50.5	
			(2) 1	50.4	70.0	50.1	
15		空間図形	2	61.5	80.0	61.9	
16			$81\pi$ (cm <sup>2</sup> )	24.6	60.0	24.9	
17	数と式	文字式の利用	(注3)	18.1	50.0	17.4	

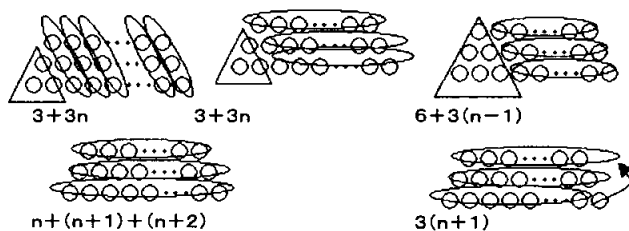
(注1)



(注2)



(注3)





## 第2学年「数学」結果と考察

### 1 出題のねらいと内容

「数と式」「図形」及び「数量関係」の3領域について、基礎的な事柄を理解する力、数学的な表現や処理の仕方、数学的な考え方を適用する力等を見ることをねらいとして作成した。

①では、正負の数の四則計算や多項式の減法、単項式の乗法の計算問題で、いずれも基本的な計算力をみようとした。

②では、減法と除法の混じった式を文字使用の表し方に従って表す問題で、商の表し方と乗除先行についての理解をみようとした。

③では、基本的な一元一次方程式の解き方や等式の変形の仕方、二元一次方程式の解の意味についての理解をみようとした。

④では、連立二元一次方程式を手順に従って解くことができるかを見ようとした。

⑤では、時間と道のりのそれぞれの数量関係を、連立二元一次方程式に表すことができるかを見る問題で、数学的な考え方もみようとした。

⑥では、文章を読み取り、文字を用いて数量やその関係を式に表現し、目的に応じて式を変形したり文字式が意味することを読み取ったりする問題で、数学的な見方・考え方をみようとした。

⑦では、具体的な事象の中から比例関係にあるものを選ぶ問題で、比例の意味についての理解をみようとした。

⑧では、対応表から反比例の式に表すことができるかを見ようとした。

⑨では、点の座標についての理解や比例のグラフの特徴についての理解をみようとした。

⑩では、反比例のグラフを選ぶ問題で、グラフの特徴についての理解をみようとした。

⑪では、比例のグラフを利用して具体的な事象についての問題を解決できるかを見る問題で、数学的な考え方もみようとした。

⑫では、県のシンボルマークを素材に点対称である図形を選ぶ問題で、点対称な図形についての理解をみようとした。

⑬では、コンパスや定規を使って、角の二等分線の作図ができるかを見ようとした。

⑭では、見取り図から空間における直線や平面の位置関係を問う問題で、空間における位置関係の理解をみようとした。

⑮では、身の回りから回転体を選ぶ問題で、回転体についての理解をみようとした。

⑯では、円柱の体積を求める問題で、体積の求め方についての理解と、展開図から立体に組み立てて考えることができるかを見ようとした。

⑰では、一定の規則で増える碁石の数を文字を使って表し、その求め方を図示する問題で、数学的な見方・考え方をみようとした。

### 2 結果と考察

#### ① 正負の数や文字式の基本的な計算力をみる問題

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向	
1	(1)	74.0	24.7	1.3	80.0	74.8	「- 60」と解答(11.9%) 「4」と解答(3.3%), その他(9.5%)
	(2)	58.7	39.8	1.5	70.0	60.0	「45」と解答(25.5%) 「- 30」と解答(5.6%), その他(8.7%)
	(3)	67.8	28.3	3.9	70.0	67.7	「 $2x+11y$ 」と解答(6.2%) 「 $2x+7y$ 」と解答(1.5%) その他(20.6%)
	(4)	51.5	42.5	6.0	70.0	55.6	「 $- 30xy$ 」と解答(14.8%) 「 $3x - 10y^2$ 」と解答(1.6%) その他(26.1%)

#### 【考察】

(1), (2)は、正負の数の加減乗除の問題であり、どちらも期待正答率を下回っている。(1)は、乗除先行のきまりを理解していないと正答には至らず、誤答の- 60は、加法から計算を行ったものである。また、(2)では、 $- 3^2$ を $(- 3)^2$ 、2乗を2倍として計算した誤答が多くみられた。(3)、(4)は、基本的な文字式の計算問題である。(3)は、期待正答率と同程度であるが、分配法則を用い

て $-(a-b)$ を、 $-a+b$ としないための誤答が多くみられ、その他の誤答も、分配法則を正しく用いることができないことが原因と思われる。(4)は、期待正答率を大きく下回り、 $x \times y \times y$ 等、2種類の文字における累乗の表し方を理解していないための誤答が多くみられた。

**2 文字式の表し方についての理解をみる問題**

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向
2	33.8	64.0	2.2	60.0	34.9	①(4.7%) ②(53.0%) ④(6.1%) その他(0.2%)

**【考察】**

文字使用のきまりに従って商を表す問題であり、期待正答率を大きく下回った。①(1)と同様に計算の順序を理解できていないことも原因と考えられるが、数の計算よりも正答率が低くなったのは、 $x-y$ を $(x-y)$ のひとまとまりと考えていることが誤答につながったと思われる。また、④は、商の表し方が理解できていないための誤答と思われる。

**3 一次方程式の解き方や等式の変形、二元一次方程式の解の意味についての理解をみる問題**

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向	
3	(1)	82.2	11.7	6.1	80.0	82.7	「-1」と解答(1.8%) 「-4」と解答(1.1%) その他(8.8%)
	(2)	62.4	34.5	3.1	60.0	62.4	①(11.6%) ②(8.4%) ④(14.2%), その他(0.3%)
	(3)	53.8	39.9	6.3	70.0	55.8	①(10.5%) ③(11.0%) ④(18.3%) その他(0.1%)

**【考察】**

(1)は、一元一次方程式を移項の考えを用いて解く基本的な問題であり、期待正答率と同程度になった。解を求める手順は理解できているものの、移項する際に符号を変えないことによる誤答が多く、移項を等式の性質と関連付けて理解していないためと思われる。(2)は、等式変形の問題であるが、(1)と同様に、移項の際に符号を変えないための誤答が多かった。また、①は、 $4a$ だけを約分したためである。(3)は、 $x, y$ にそれぞれ値を代入して等式が成り立たない組を選ばせる問題である。①③④のいずれも等式を成り立たせる組であるが、それらが同程度に選ばれているのは、代入して式の値を求める計算に誤りがあったか、「成り立たせない」の問題の意味を読み違えた場合の両方が考えられる。

**4 連立二元一次方程式を、手順に従って解くことができるかをみる問題**

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向	
4	(1)	75.4	20.5	4.1	80.0	76.8	②(2.8%) ③(11.4%) ④(6.1%) その他(0.2%)
	(2)	70.2	22.4	7.4	70.0	71.7	解は正しいが式表現に誤りのある解答(0.4%) その他(22.0%)

**【考察】**

(1)は、連立方程式を解く過程で、 $12y - (-4y)$ を $8y$ とする間違いを指摘させる問題であり、期待正答率と同程度になった。誤答③を指摘した生徒は、 $y=2$ を(1)に代入した時の誤りと思われる。また、(1)よりも(2)の正答率が下がっているのは、無答率が高くなっていることも考えると、加減法を用いて二元一次方程式を解く手順を確実に理解していないことが原因と思われる。

**5 数量の関係を連立方程式に表すことができるかをみる問題**

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向
5	21.1	51.5	27.4	50.0	24.7	道のりの式だけ正しい解答(17.3%) 時間の式だけ正しい解答(1.4%) その他(32.8%)

**【考察】**

速さに関する文章題を連立方程式に表す問題である。期待正答率を大きく下回り、無答率も高い。

このことは、速さの意味や時間の表し方を理解していない生徒が多いことが原因と思われる。速さの指導に関しては、生活場面と関連付けながら量的な感覚を豊かにし、理解を深める必要があると考える。

**6 具体的な問題を、文字を使って式に表すことができるかをみる問題**

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向
6	(1)	20.2	37.5	42.3	50.0	20.9 「 $x + 10y$ 」と解答(0.3%) その他(37.2%)
	(2)	46.1	18.5	35.4	60.0	48.9 「50と2」と解答(0.4%) その他(18.1%)

**【考察】**

2つの文字を用いて式に表し、会話文のゲームに合わせて計算する問題である。(1)の正答率が20.2%と低く、誤答が多様である。このことは、①の段階で、「 $2x + 3$ 」と表すことができたとしても、②の段階での分配法則の使い方や、③の段階での1次式の減法が正しく計算できなかったものと考えられる。さらに、無答率も高いことから、目的に応じて文字を用いた式変形を行うことに苦手意識をもつ生徒が多いと思われる。(1)に比べ(2)の正答率がやや高くなったのは、数あてゲームの答えが52という数から、大きい数(A)を5、小さい数(I)を2と予想して答えたと思われる。

**7 具体的な事象の中から比例関係にあるものを見いだすことができるかをみる問題**

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向
7	73.4	23.3	3.3	80.0	75.8	①(6.0%) ③(9.3%) ④(7.8%) その他(0.2%)

**【考察】**

具体的な事象から比例関係にあるものを判断する問題であり、期待正答率を下回っている。③の反比例や④の1次関数を選んだ誤答が、合わせて17.1%みられることから、「 $y$ が $x$ に比例している」ことの意味や、比例を表す式が「 $y = ax$ 」であることを理解していない生徒が多いと考えられる。また、①～④のそれぞれについて「 $x$ を $\Delta$ 倍したら、 $y$ も $\Delta$ 倍になるか」を具体的な数値で確かめれば、正答率は上がったと予想される。変化を伴う問題に対する抵抗感をもつ生徒が多いので、文字を具体的な数値に置き換えて考える習慣を身に付けさせる指導が必要である。

**8 反比例の式に表すことができるかをみる問題**

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向
8	53.7	41.9	4.4	70.0	55.8	①(9.9%) ②(16.8%) ③(15.1%) その他(0.1%)

**【考察】**

対応表から反比例の式を求める問題であり、期待正答率を大きく下回っている。このことは、「 $y$ が $x$ に反比例している」という意味が理解できていないことによるものである。特に、「 $a$ を比例定数として $xy = a$ という式で表される関係」の理解が不十分であることや、式の形が「分数の式になる」という表面的な理解にとどまっていることが原因と思われる。

**9 座標の意味についての理解や、比例のグラフをかくことができるかをみる問題**

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向
9	(1)	80.7	17.1	2.2	90.0	81.4 ①(1.7%) ②(4.4%) ④(10.1%) その他(0.9%)
	(2)	71.5	20.8	7.7	70.0	70.4 (-4, 2)と(4, 2)を結び、両端を延長していない解答(6.0%) 原点を通過しているが、傾きが違う解答(0.3%), その他(14.5%)

**【考察】**

(1)は、点の座標を求める基本的な問題であるが、期待正答率を下回った。座標を( $y$ ,  $x$ )としている生徒が10.1%おり、座標の表し方の理解が不十分な生徒が多いことを示している。(2)は、比例のグラフを表す問題で、期待正答率と同程度である。しかし、誤答ではあるが「2点を結ぶ線分」の解答まで含めると77.5%に上がる。比例のグラフの指導においては、かく活動を多く取り

入れ、比例定数による傾きの違いなど、グラフの特徴に気付かせるような指導が必要である。

**10 反比例のグラフの特徴についての理解をみる問題**

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向
10	71.8	25.4	2.8	70.0	72.5	②(5.6%) ③(2.8%) ④(16.9%) その他(0.1%)

**【考察】**

反比例のグラフを、比例と反比例を表している各2つずつのグラフから選択させる問題である。期待正答率と同程度であるが、反比例のグラフの形や比例定数の意味を理解していないための誤答が多い。9(2)と同様に、かく活動を多く取り入れ、反比例のグラフの特徴や比例のグラフとの違いに気付かせるような指導が大切である。

**11 グラフを利用して、比例の問題を解決することができるかをみる問題**

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向	
11	(1)	73.4	20.1	6.5	70.0	73.7	0.5 (1.5%) 2/3 (0.8%) その他(17.8%)
	(2)	49.5	43.5	7.0	60.0	48.8	「18分後」と解答(10.8%), 「13分後」と解答(7.0%), 「14分後」と解答(2.7%), その他(23.0%)

**【考察】**

比例のグラフを利用する問題である。(1)は、グラフから1分間に増える深さを求める問題で、期待正答率と同程度である。時間と深さの関係を逆にした誤答がみられたが、このことは、グラフから関係を読み取ることができない生徒が多いことを示していると考えられる。また、誤ってBの水そうのグラフで考えた生徒もみられた。(2)は、グラフを利用して時間を求める問題であり、期待正答率を下回っている。Bの水そうがいっぱいになる時間をそのまま解答した生徒が10%を超えている。また、グラフを利用したが、直線を正しく延長しなかったためと思われる誤答も10%弱みられた。

**12 点対称な図形についての理解をみる問題**

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向
12	71.8	26.1	2.1	80.0	72.1	②(3.8%) ③(3.3%) ④(18.6%) その他(0.4%)

**【考察】**

4県のシンボルマークを用いて点対称の形を問う問題であり、期待正答率を下回っている。正答の①は、線対称の図形でもあり、そのイメージが強い。それに対して、④は点対称のイメージをもつ形であり、18.6%を占めている。このことから、対称な図形の特徴が理解できていない生徒が多いと考えられる。対称な図形の指導に当たっては、図形を折ったり回転させたり等の操作活動を積極的に取り入れて理解を深めさせるとともに、その性質の有効性に気付かせ活用できるようにすることが大切である。

**13 コンパスを用いて角の二等分線が作図できるかをみる問題**

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向
13	48.9	34.1	17.0	80.0	50.7	作図に使った線が消え、正しい作図か判断できない解答(7.0%) 作図に使った線のみで、二等分線を書き忘れていた解答(3.2%) その他(23.9%)

**【考察】**

コンパスや定規を使って、角の二等分線を作図する問題である。フリーハンドでコンパスを使ったように作図しているものや、頂点Oを突き抜けているものも正答としたが、正答率は50%に満たない。このことは、1学年での作図に関する学習が、作図方法の暗記等、表面的な理解にとどまっていることが原因と思われる。角の二等分線や線分の垂直二等分線の作図は、作図の基礎として重要である。そこで、図形領域の学習においては、普段から作図を行うことや、文章を読んで作図できるように、繰り返し練習を行うことが必要である。

14 空間における直線や平面の位置関係についての理解をみる問題

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向
14 (1)	49.6	47.0	3.4	70.0	50.5	①(4.9%) ②(21.3%) ③(20.3%), その他(0.5%)
(2)	50.4	46.4	3.2	70.0	50.1	②(31.1%) ③(7.1%) ④(7.8%) その他(0.4%)

【考察】

空間図形の内容で、(1)は、ねじれの位置にある辺についての問題である。辺の数を求める問題なので、誤答がすべて数え忘れによるものとは判断できない。しかし、正答率が50%に満たないことから、「ねじれの位置」の意味を確実に理解していない生徒が多いと考えられる。(2)は、辺に垂直な平面を求める問題である。誤答の多くが、辺が平面に含まれる場合を選択している。このことは、直線と平面の位置関係の理解が不十分な生徒が多いことを示していると考えられる。

15 身の回りから回転体を見いだすことができるかをみる問題

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向
15	61.5	34.7	3.8	80.0	61.9	①(3.6%) ③(17.1%) ④(13.5%) その他(0.5%)

【考察】

身の回りの物から回転体を選ぶ問題であり、正答率は61.5%と期待正答率を下回っている。球状の形からヘルメットを選択した誤答が多くみられ、回転体の意味を十分理解していないものと考えられる。また、ホームベースを選択している割合も高くなっており、回転体が立体であるという基本的なことも理解できていないと思われる。回転体の指導に当たっては、いろいろな平面図形を実際に回転させる具体的な操作活動を取り入れたり、コンピュータ等を活用したりすることにより、回転体のイメージ化を図る指導が必要である。

16 展開図を組み立ててできる円柱の体積を求めることができるかをみる問題

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向
16	24.6	49.6	25.8	60.0	24.9	「 $27\pi$ 」と解答(6.3%) 「 $72\pi$ 」と解答(5.6%) 「 $54\pi$ 」と解答(3.9%) その他(33.8%)

【考察】

展開図を見て、その円柱の体積を求める問題である。期待正答率を大きく下回り、無答率もかなり高い結果になった。誤答を見ると、円錐の体積や展開図の面積(円柱の表面積)を求めているものなど、多様である。このことは、展開図を組み立てて円柱にして考えることができないことや、円柱の体積の公式を理解していないことによるものと思われる。これらのことから、見取り図から展開図に表したり、展開図から見取り図に組み立てたりする操作活動を取り入れるなど、空間図形に関して実感を伴った理解を促す指導が必要である。

17 変化する事象について、図に表したり文字を使って説明することができるかをみる問題

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向
17	18.1	44.7	37.2	50.0	17.4	求め方の図はかいているが、それを式に表現することができていない解答(7.5%) その他(37.2%)

【考察】

基石を一定の規則にしたがって増やし、 $n$ 番目のときの基石の数を $n$ を使って表し、その求め方が分かるように図に示す問題である。例に挙げた考え方は、規則性に沿ってそのまま表した式であり、図への書き込みも無理がない。それ以外の考え方、例えば、「3個の基石を基にして、1番目で3個増やし、2番目で3個…」や「段ごとの基石の変化に着目する」などに気付いた生徒が少なかったため、正答率が非常に低くなった。これらのことから、変化を伴う動的な問題や規則性を発見させる問題に対して、抵抗感や苦手意識をもつ生徒や、柔軟な考え方や視点を変えた見方ができない生徒が多いと考えられる。

### 3 まとめ

「数と式」から14問、「図形」から6問、「数量関係」から7問の計27問の構成であり、「図形」と「数量関係」に関しては、すべて1年生の内容である。

この27問のうち、正答率が60%以上のものは13問(数と式:6問, 図形:2問, 数量関係:5問), 40%以上60%未満のものが9問(数と式:4問, 図形:3問, 数量関係:2問), 40%に至らなかったものが5問(数と式:4問, 図形:1問)の結果となっている。

全体として、正答率60%以上の問題が27問中13問(48%)あり、昨年度の35%を上回っているものの、今後の指導の工夫・改善がさらに望まれる。

さらに今回地方分権研究会で目標とする正答率70%ライン以上の問題は27問中10問あり(37%), また、表に示した期待正答率と比較すると、期待正答率と同程度と考えられるものが8問(数と式:5問, 数量関係3問), 期待正答率を下回ると考えられるものが19問(数と式:9問, 図形:6問, 数量関係4問)であり、全体として期待正答率を上回ると考えられるものと同程度と考えられるものの問題数の合計は、27問中8問(30%)となり、満足できる状況ではない。

区分	問題数 (小問数)	期待正答率を上 回ると考えられ るもの(A)	期待正答率と同 程度と考えられ るもの(B)	小計 (A)+(B)	期待正答率を下 回ると考えられ るもの(C)	領域別 正答率(%)	期待正答率 (%)
数と式	14	0	5	5	9	52.5	65.7
図形	6	0	0	0	6	51.2	73.3
数量関係	7	0	3	3	4	67.7	72.9
計	27	0	8	8	19		

数と式について、特に正答率が低くなった問題は、5の連立方程式の立式と、6(1)や17の文字式の利用である。5については、文章の中の数量関係を表や図に表して立式の手がかりにすることができないことが原因と思われる。6(1)や17は、見通しや予想を立てながら考える力を必要としており、苦手意識をもっている生徒が多いと予想される。計算力においても、基本的な計算力をみる1(1)(3)は、昨年と同じ傾向の問題であり、期待正答率と同程度ではあるが、昨年を下回る結果になった。特に、2(1)は、正答率よりも1つの誤答例の割合の方が高くなった。このような問題は、日々定着度を確認し、繰り返し指導していくことが大切である。また、普段の授業において、生徒の誤答を予測し、誤答から学ぶ授業づくりも必要である。生徒自身に計算過程での間違いに気付かせ、乗除先行のきまりや分配法則について確実な定着を図りたい。方程式の解法については、他の問題より満足できる状況ではあるが、手順に従って解を求める過程を記述させ、筋道立てて解を求めるような指導が必要である。

図形については、正答率50%を下回った問題が6問中3問あり、全体的に低い結果となった。特に、16は、展開図から円柱に組み立てるという思考を伴うものであり、正答率がかなり低くなった。同様に、14の空間内の位置関係についての理解も低く、立体に関する指導に当たっては、見取り図から展開図に、展開図から見取り図に表したり、模型等の具体物で考えさせたりなどの操作活動を通して理解させることが必要であると考えられる。また、作図の基本である13の正答率が50%に満たないことを真摯に受け止め、その対策を立てる必要がある。題意に即した作図ができるよう、普段の授業において十分な時間と機会を設定することが大事であろう。その積み重ねにより、短時間で作図ができるようになるとともに、論理的な思考力の育成にもつながるとと思われる。

数量関係については、他の領域と比べて概ね満足できる結果になったが、特に、今後の学習の基礎となる比例や反比例の意味、グラフの特徴についての確実な定着が望まれる。表や式、グラフを関連付け、対応表を活用してグラフや式に表すことやグラフから変化の特徴を読み取るなど、一連の学習のまとめとして考えさせる指導が望まれる。また、11のようなグラフを利用して解決する問題を通して、関数の見方や考え方を伸ばす指導も大切である。

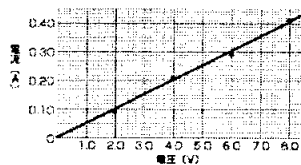
無答率が20%を超えた問題は、5の連立方程式の立式、6や17の数量関係を文字式に表す問題、16の円柱の体積を求める問題である。いずれも、文章に記述されている事象についての数量関係を把握し、その関係を等式に表したり、説明したりする問題である。細かいステップを踏んで考えることに苦手意識をもち、初めから取り組まなかった生徒も多かったとも予想される。

以上のことから、生徒の学習状況をきめ細かく把握し、具体的な手だてを講ずるとともに、自力解決の時間の保障や考えを表現し発表させる場を設定するなどの指導の工夫や改善が必要である。また、生徒自身に自分のつまづきを把握させ、自力で克服できるような手だてを引き続き工夫していくことも大切であると考えられる。

中学2年「理科」正答と正答率

問題番号	領域	問題内容	正答	正答率	期待正答率	4県正答率	
1	(1)	身近な物理現象	光と音の性質	3	54.8	70.0	55.4
				2	46.2	60.0	47.7
(2)	力と圧力		1	26.3	60.0	24.8	
			3	58.9	60.0	57.9	
2	(1)	物質の性質と状態変化	4	23.9	60.0	26.0	
			1	63.0	80.0	64.6	
3	(1)	気体の性質	49.3 (ml)	26.3	70.0	30.0	
			3	54.3	60.0	53.7	
4	(1)	水溶液の性質	1と6 または 6と1	24.8	60.0	24.6	
			3	49.2	70.0	49.0	
5	(1)	身の回りの物質	水溶液の性質	(正解例) 塩酸の性質を水酸化ナトリウム水溶液が(打ち)消すから お互いの性質を打ち消し合うから 酸性が弱くなるから 酸とアルカリをまぜると中和するから	29.1	50.0	29.4
				食塩(または塩化ナトリウム)	40.5	70.0	40.0
6	(1)	電流とその利用	回路と電流・電圧	(+端子) 2 (-端子) 1	32.5	70.0	32.4
				4	77.4	60.0	78.0
(注1)	28.3			60.0	31.3		
電流の強さ(大きさ)は電圧に比例する。	63.8			70.0	62.1		
7	(1)	観察の仕方	観察の仕方	25(Ω)	46.3	60.0	44.3
				4	57.3	70.0	58.3
8	(1)	植物の生活と種類	植物の体のつくりと働き	4	41.9	70.0	43.4
				胚珠	36.2	70.0	38.5
9	(1)	植物の生活と種類	植物の体のつくりと働き	卵管	37.8	70.0	38.7
				3	71.4	70.0	73.9
10	(1)	植物の生活と種類	植物の体のつくりと働き	2	81.3	70.0	82.2
				双子葉類, 双子葉植物	39.9	70.0	40.1
11	(1)	植物の生活と種類	植物の体のつくりと働き	胚珠がむき出しになっている。子房がない。	33.6	70.0	36.5
				①	74.0	80.0	77.4
12	(1)	動物の生活と種類	動物の体のつくりと働き (肉食動物と草食動物)	1	73.1	60.0	73.2
				3	78.5	70.0	78.5
13	(1)	大地の変化	地層	3	61.7	70.0	64.8
				①	79.9	70.0	81.5
14	(1)	大地の変化	火山と地震	1	54.2	70.0	54.4
				地下深くで、ゆっくりと冷えて固まった。	22.1	50.0	23.8
15	(1)	大地の変化	火山と地震	初期微動	57.0	70.0	57.9
				1	56.8	70.0	58.1
16	(1)	電流とその利用	電流と磁界	2	29.1	60.0	28.8
				3	50.4	70.0	48.4
17	(1)	動物の生活と種類	動物の仲間	2	71.7	60.0	73.2
				3	62.9	70.0	65.2

(注1)



## 第2学年「理科」結果と考察

### 1 出題のねらいと内容

第1分野(物理及び化学的領域)の「身近な物理現象」「身の回りの物質」「電流とその利用」、第2分野(生物及び地学的領域)の「植物の生活と種類」「大地の変化」「動物の生活と種類」について、自然の事物・現象を分析的、総合的に考察する力、観察、実験の基本操作の技能や結果を処理する力、基本的な概念や原理・法則についての理解等をみることをねらいとした。

①では、空気中から水中に進む光の屈折の仕方についての理解と、凸レンズと物体の距離の関係から、凸レンズを用いてできる像を判断する力をみようとした。

②では、振動数と音の高低の関係についての理解と、発音体の音の大きさと振幅の関係を数量的に把握する力をみようとした。

③では、2力のつり合い関係にある力を見いだしたり、圧力を数量的にとらえたりする力をみようとした。

④では、メスシリンダーを用いた測定の実験と、状態変化による物質の質量や体積の変化、それに伴う密度の変化についての理解をみようとした。

⑤では、指示された気体を発生させる方法についての理解と、気体の性質から発生させた気体を適切に捕集する技能をみようとした。

⑥では、酸とアルカリの混合による水溶液の性質を考察する力と、中和によってできる塩についての理解をみようとした。

⑦では、回路の各部の電圧を測定する技能と、分岐点のない回路の各点を流れる電流の大きさについての理解をみようとした。

⑧では、グラフの形状から電圧と電流が比例関係にあることを指摘する力と、オームの法則を適用して電気抵抗を求める技能をみようとした。

⑨は、ルーペ及び顕微鏡を用いた観察の技能をみようとした。

⑩では、胚珠についての理解と、茎の維管束の名称についての理解をみようとした。

⑪では、実験結果から葉のどの部分で光合成が行われるかを考察する力と、光合成の実験をするための条件を考える力をみようとした。

⑫では、葉、茎、根の観察記録に基づいた植物の体のつくりの特徴による被子植物の分類についての理解と、被子植物との比較による裸子植物の特徴についての理解をみようとした。

⑬は、動物の頭骨についている歯の名称や、肉食動物と草食動物の歯の形状、肉食動物と草食動物の目の位置や周囲の見え方の差についての理解をみようとした。

⑭では、れき岩、砂岩、泥岩の分類のポイントについての理解と、観察記録を基に地層のでき方を考察する力をみようとした。

⑮では、組織の観察に基づく岩石の名称と、深成岩のでき方についての理解をみようとした。

⑯では、地震の初期微動と主要動の理解と、震源からの距離と初期微動継続時間との関係をデータから考察する力をみようとした。

⑰ Aでは、コイルに電流が流れるときのコイルの周辺の磁界のでき方を考察する力と、電磁誘導の成因を筋道を立てて説明する力を、⑰ Bでは、脊椎動物の共通点として、背骨を持つことを指摘できる力と、身近な動物について体温の特徴を比較して分類する力をみようとした。

### 2 結果と考察

#### ① 光の性質についての考え方と理解をみる問題

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向				
①	(1)	54.8	44.8	0.4	70.0	55.4	1(26.3%)	2(10.4%)	4(8.1%)	
	(2)	46.2	53.3	0.5	60.0	47.7	1(44.0%)	3(6.8%)	4(2.4%)	その他(0.1%)

#### 【考察】

(1)は、空気中から水中に進む光の屈折の仕方についての理解をみる問題であり、正答率は54.8%で期待正答率を下回っている。空気中から水中に光が進むとき、入射角より屈折角が大きくなるように光が進むと誤った理解をしているためと考えられる。(2)は、凸レンズと物体の距離の関係から、凸レンズを用いてできる像を判断する問題である。正答率は46.2%で期待正答率を下回っている。凸レンズと物体の距離が長くなると、凸レンズによってできる像も大きくなるという誤認がみられる。



## 2 音の性質についての考え方と理解をみる問題

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向	
2	(1)	26.3	73.2	0.5	60.0	24.8	2(14.0%) 3(13.8%) 4(45.4%)
	(2)	58.9	40.5	0.6	60.0	57.9	1(8.2%) 2(14.3%) 4(18.0%)

### 【考察】

(1)は、振動数と音の高低の関係についての理解をみる問題である。正答率は26.3%で期待正答率を大きく下回っている。これは、振動数が音の高低に関係し、振幅が音の大小と関係があることを理解していないためと考えられる。(2)は、発音体の音の大きさと振幅の関係を数量的に把握する問題である。正答率は58.9%で期待正答率と同程度であるが、音叉やモノコードなどを用いて物体の振幅と音の大きさの関係や、振動数と音の高低の関係を実際に調べる活動を工夫することが必要である。

## 3 力と圧力についての考え方をみる問題

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向	
3	(1)	23.9	75.5	0.6	60.0	26.0	1(13.3%) 2(18.7%) 3(43.4%) その他(0.1%)
	(2)	63.0	36.2	0.8	80.0	64.6	2(7.8%) 3(3.8%) 4(5.4%) その他(19.2%)

### 【考察】

(1)は、2力のつり合いの関係にある力を見いだす問題である。正答率は23.9%で期待正答率を大きく下回っている。ロープが物体を引く力の作用点の位置の誤認が多い。力を具体的なイメージとしてとらえさせる場面では、矢印を用いて、大きさ、向き、作用点の力の三つの要素を丁寧に確認することが重要である。(2)は、圧力を数量的にとらえる問題である。正答率は63.0%で期待正答率を下回っている。

## 4 物質の性質と状態変化について、測定する技能と理解をみる問題

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向	
4	(1)	26.3	70.3	3.4	70.0	30.0	「49.7,49.8」と解答(0.2%) 「49.5」と解答(17.8%) 「50,49」と解答(42.0%) その他(10.3%)
	(2)	54.3	44.7	1.0	60.0	53.7	1(13.5%) 2(15.4%) 4(14.6%) その他(1.2%)

### 【考察】

(1)は、メスシリンダーを用いた測定の技能をみる問題である。正答率は26.3%で期待正答率を大きく下回っている。最小目盛りの1/10まで読み取っていないか、読み取る液面を誤認している。観察、実験において、生徒一人一人が実際に測定するなどにより測定技能を習熟させていくことが望まれる。(2)は、状態変化によって物質の質量は変化しないが、体積が変化し、それに伴って密度が変化することについての理解をみる問題である。正答率は54.3%で期待正答率を下回っている。水のような特殊な例もあるが、物質の状態変化による体積の変化を一般的な規則性で理解させていくことが望まれる。

## 5 気体の性質について気体発生に関する技能と理解をみる問題

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向	
5	(1)	24.8	73.5	1.7	60.0	24.6	「2と6」と解答(4.4%) 「3と7」と解答(8.6%) 「6と8」と解答(4.5%) その他(56.0%)
	(2)	49.2	49.4	1.4	70.0	49.0	1(14.4%) 2(3.6%) 4(3.5%) その他(27.9%)

### 【考察】

(1)は、指示された気体を発生させる方法についての理解をみる問題である。正答率は24.8%で期待正答率を大きく下回っており、気体を発生させるために必要な物質を指摘できない。(2)は、気体の性質と関連させて、発生させた気体を適切に捕集する技能をみる問題である。正答率は49.2%で期待正答率を下回っている。

## 6 水溶液の性質についての考え方と理解をみる問題

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向	
6	(1)	29.1	28.1	42.8	50.0	29.4	「中性になるから」と解答(3.4%) 「塩ができたから」と解答(0.2%) その他(24.5%)
	(2)	40.5	30.1	29.4	70.0	40.0	「塩」と解答(3.2%) その他(26.9%)

### 【考察】

(1)は、酸とアルカリを混合すると互いの性質が打ち消されて中性に近づくことを考察する力をみる問題である。正答率は29.1%で期待正答率を大きく下回り無答率も高い。解答形式が論述式

であることも影響していると思われるが、液性の変化と水素の発生の関係を、ことばで説明できない。観察、実験において自分の予想、検証方法や結果、考察等をまとめて表現させる活動が重要である。(2)は、中和によってできる塩についての理解をみる問題である。正答率は40.5%で期待正答率を下回っており、中和によってできる塩を正しく指摘できていない。

**7 回路の電流・電圧について、測定する技能と理解をみる問題**

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向
7 (1)	32.5	63.6	3.9	70.0	32.4	「(+)-1(-)-2」と解答(20.8%) 「(+)-3(-)-1または(+)-1(-)-3」と解答(17.5%) その他(25.3%)
(2)	77.4	20.6	2.0	60.0	78.0	1(6.0%) 2(7.1%) 3(7.4%) その他(0.1%)

**【考察】**

(1)は、回路の各部の電圧を測定する技能をみる問題である。正答率は、32.5%で期待正答率を大きく下回っている。パフォーマンステストを何度か繰り返し、つまずきを把握し、的確にアドバイスしていくことが望まれる。(2)は、分岐点のない回路の各点を流れる電流の大きさについての理解をみる問題である。正答率は、77.4%で期待正答率を上回っている。

**8 電流と電圧の関係についての考え方と表現、測定する技能をみる問題**

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向
(1)	28.3	62.1	9.6	60.0	31.3	原点を通っていない(10.4%) 4点が不正確(2.6%) 折れ線(28.3%) 直線だけ(2.2%) その他(18.6%)
8 (2)	63.8	9.9	26.3	70.0	62.1	「反比例」と解答(2.5%) 「オームの法則」と解答(0.5%) その他(6.9%)
(3)	46.3	30.2	23.5	60.0	44.3	「0.04 Ω」と解答(1.2%) 「0.16,0.64 Ω」と解答(0.8%) 「0.25,2.5 Ω」と解答(4.1%) その他(24.1%)

**【考察】**

(1)は、測定値をグラフ化する問題である。正答率は、28.3%で期待正答率を大きく下回っている。測定値に誤差が含まれていることと、その処理方法をとらえていないため折れ線グラフをかいている。(2)は、グラフの形状から電圧と電流が比例関係にあることを指摘する問題である。正答率は63.8%で期待正答率を下回り無答率も高い。(3)は、オームの法則を適用して電気抵抗を求める技能をみる問題である。正答率は46.3%で期待正答率を下回り無答率も高い。オームの法則の誤認と小数の計算の間違があると思われる。電流回路の再実験やCAIソフトによる復習などにより、電流や電圧の規則性を復習することが望まれる。

**9 ルーペと顕微鏡を用いた観察の技能をみる問題**

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向
9 (1)	57.3	41.7	1.0	70.0	58.3	1(17.0%) 2(14.5%) 3(10.1%) その他(0.1%)
(2)	41.9	56.8	1.3	70.0	43.4	1(15.4%) 2(23.0%) 3(18.3%) その他(0.1%)

**【考察】**

(1)は、ルーペを用いた観察の技能をみる問題である。正答率は、57.3%で期待正答率を下回っている。ルーペはできるだけ目に近づけて固定させ、ピント合わせは植物を動かすということに注意して操作することが身に付いていないと考えられる。(2)は、顕微鏡を用いた観察の技能をみる問題である。正答率は、41.9%で期待正答率を下回っている。対物レンズとプレパラートを遠ざけながらピントを合わせる操作について誤認している。ルーペ、顕微鏡の正しい使い方を再指導し、パフォーマンステストでつまずきを把握しながら指導することが望まれる。

**10 植物の体のつくりと働きについての理解をみる問題**

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向
10 (1)	36.2	40.9	22.9	70.0	38.5	「子房」と解答(14.8%) 「めしべ」と解答(6.5%) 「果実」と解答(2.0%) その他(17.6%)
(2)	37.8	37.9	24.3	70.0	38.7	「道管・導管」と解答(19.5%) 「維管束」と解答(7.3%) その他(11.1%)

**【考察】**

(1)は、子房の中にある、やがて種子になる胚珠についての理解をみる問題である。正答率は、36.2%で期待正答率を下回り無答率も高い。胚珠と子房を混同している。(2)は、茎の維管束の名称についての理解をみる問題である。正答率は、37.8%で期待正答率を下回り無答率も高い。道管と師管の関係を正しく理解していない。

### 11 植物の働き(光合成)についての考え方をみる問題

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向				
11	(1)	71.4	27.0	1.6	70.0	73.9	1(7.7%)	2(10.2%)	4(9.0%)	その他(0.1%)
	(2)	81.3	16.8	1.9	70.0	82.2	1(1.4%)	3(10.3%)	4(3.6%)	その他(1.5%)

#### 【考察】

(1)は、実験結果から葉のどんなところで光合成が行われるかを考察する力をみる問題である。正答率は、71.4%で期待正答率と同程度であるが、ふの部分で光合成をするという誤認もみられる。(2)は、光合成の実験をするための条件を考える力をみる問題である。正答率は、81.3%で期待正答率を上回っている。アルミニウムはくで覆うことと光を当てないことを関係付けずに、葉緑体と関係しているという誤った考えもみられる。

### 12 植物の仲間分けについての理解をみる問題

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向				
12	(1)	39.9	32.2	27.9	70.0	40.1	「単子葉類」等と解答(1.7%) その他(30.5%)			
	(2)	33.6	38.8	27.6	70.0	36.5	「子房がむき出しになっている」と解答(3.8%) 「胚珠がない」と解答(0.5%) 「花が咲かない」と解答(0.7%) その他(33.8%)			

#### 【考察】

(1)は、葉、茎、根の観察記録に基づいた植物の体のつくりの特徴による被子植物の分類についての理解をみる問題である。正答率は、39.9%で期待正答率を下回り無答率も高い。(2)は、被子植物との比較による裸子植物の特徴についての理解をみる問題である。正答率は、33.6%で期待正答率を下回り無答率も高い。花や葉と茎・根の観察記録に基づいて分類する作業を通して、基本的なつくりの特徴によって植物の種類を知る方法を理解させていくことが望まれる。

### 13 動物のからだのつくりと働きについての理解をみる問題

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向				
13	(1)	74.0	24.8	1.2	80.0	77.4	2(17.3%)	3(3.0%)	4(3.0%)	その他(1.5%)
	(2)	73.1	25.8	1.1	60.0	73.2	2(9.5%)	3(11.5%)	4(4.3%)	その他(0.5%)
	(3)	78.5	20.4	1.1	70.0	78.5	1(5.9%)	2(7.4%)	4(6.5%)	その他(0.6%)

#### 【考察】

(1)は、動物の頭骨についている歯の名称についての理解をみる問題である。正答率は、74.0%で期待正答率を下回っている。(2)は、肉食動物と草食動物の歯の形状と働きについての理解をみる問題である。正答率は、73.1%で期待正答率を上回っている。(3)は、肉食動物と草食動物の目の位置や周囲の見え方の差についての理解をみる問題である。正答率は、78.5%で期待正答率を上回っている。今後も可能な限り動物の観察を授業に取り入れ、共通する特徴に目を向けさせる学習が望まれる。

### 14 地層についての考え方と理解をみる問題

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向				
14	(1)	61.7	36.9	1.4	70.0	64.8	1(7.9%)	2(13.4%)	4(15.5%)	その他(0.1%)
	(2)	79.9	18.5	1.6	70.0	81.5	2(7.5%)	3(1.4%)	4(3.8%)	5(5.0%) その他(0.8%)

#### 【考察】

(1)は、れき岩、砂岩、泥岩の分類のポイントについての理解をみる問題である。正答率は、61.7%で期待正答率を下回っている。れき岩、砂岩、泥岩は粒の形や成分で区別するという誤認もみられる。(2)は、観察記録を基に地層のでき方を考察する力をみる問題である。正答率は、79.9%で期待正答率を上回っている。(1)(2)に関して、堆積岩の粒の大きさや形、構成物質の違いと堆積環境をより一層関連付けた学習が望まれる。

### 15 火成岩についての理解をみる問題

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向				
15	(1)	54.2	43.8	2.0	70.0	54.4	2(2.6%)	3(22.2%)	4(18.7%)	その他(0.3%)
	(2)	22.1	50.6	27.3	50.0	23.8	「地下深くで急に冷えて」と解答(3.7%)「地下の浅いところや地表で急に冷えて」と解答(16.7%)「地下深くで」と解答(1.8%)「ゆっくり冷えて」と解答(5.8%) その他(22.6%)			

**【考察】**

(1)は、岩石の組織の観察に基づく岩石の名称の理解をみる問題である。正答率は、54.2%で期待正答率を下回っている。安山岩、花こう岩が、火成岩であること、鉱物の結晶の大きさにより斑状組織と等粒状組織があることの区別ができていない。火山岩と深成岩の観察、スケッチで比較の観点を大切に学習が望まれる。(2)は、深成岩のでき方についての理解をみる問題である。正答率は、22.1%で期待正答率を大きく下回り無答率も高い。鉱物の結晶のでき方を類推させるような実験を行ったり、野外における火成岩の産状の情報を与えたりすることが重要である。

**16 地震についての考え方と理解をみる問題**

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向
16	(1)	57.0	22.3	20.7	70.0	57.9 「主要動」と解答(0.7%) その他(21.6%)
	(2)	56.8	41.0	2.2	70.0	58.1 2(33.6%) 3(3.5%) 4(3.6%) その他(0.3%)

**【考察】**

(1)は、地震の揺れには初期微動と主要動の2種類があることについての理解をみる問題である。正答率は、57.0%で期待正答率を下回り無答率も高い。解答形式が、論述式であることも影響していると思われる。(2)は、震源からの距離と初期微動継続時間との関係をデータから考察する力をみる問題である。正答率は、56.8%で期待正答率を下回っている。グラフの読み取りができていないことや震源から遠くなると初期微動継続時間が長くなることを理解していないためと考えられる。地震についての生徒の経験や具体的な資料、コンピュータシミュレーションなどを活用して地震及びこれに関連する地学的事象についての基礎的な理解が得られるようにすることが望まれる。

**17 A 電流と磁界についての考え方をみる問題 B 動物の仲間分けについての考え方をみる問題**

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向	
17	A	(1)	29.1	67.3	3.6	60.0	28.8 1(11.4%) 3(9.7%) 4(46.1%) その他(0.1%)
		(2)	50.4	45.8	3.8	70.0	48.4 1(8.5%) 2(23.9%) 4(13.4%)
	B	(1)	71.7	25.0	3.3	60.0	73.2 1(2.7%) 3(19.6%) 4(1.5%) その他(1.2%)
		(2)	62.9	33.8	3.3	70.0	65.2 1(3.9%) 2(20.9%) 4(8.9%) その他(0.1%)

**【考察】**

A(1)は、コイルに電流が流れるときのコイルの周辺の磁界のでき方を考察する力をみる問題である。正答率は、29.1%で期待正答率を大きく下回っている。コイルに電流が流れる時のコイル周辺の磁界の向きを立体的にとらえていない。電流の流れているコイルの回りに方位磁針をいくつか置いて観察させるなど、電流が流れているコイルの回りに磁界があることを見出させ、磁界は磁力線で表されること及びコイルの回りの磁界の向きについて理解させることが重要である。A(2)は、電磁誘導の成因を筋道を立てて説明する力をみる問題である。正答率は、50.4%で期待正答率を下回っている。コイルにできる誘導電流は、コイルの中の磁界の変化によることをとらえていない。

B(1)は、脊椎動物の共通点として、背骨を持つことを指摘できる力をみる問題である。正答率は、71.7%で期待正答率を上回っている。B(2)は、身近な動物について、体温の特徴を比較して分類する力をみる問題である。正答率は、62.9%で期待正答率を下回っている。動物の観察結果と資料に基づいて、動物の生活、体のつくりの多様性と共通点について話し合う等の学習が望まれる。

**3 まとめ**

1分野(物理及び化学的領域)の「身近な物理現象」から6問、「身の回りの物質」から6問、「電流とその利用」から7問、第2分野(生物及び地学的領域)の「植物の生活と種類」から8問、「動物の生活と種類」から5問、「大地の変化」から6問の計38問の構成である。

この38問のうち、正答率が60%以上の問題が12問(身近な物理現象：1問、電流とその利用：2問、植物の生活と種類：2問、動物の生活と種類：5問、大地の変化：2問)、正答率が40%以上60%未満の問題が13問(身近な物理現象：3問、身の回りの物質：3問、電流とその利用：2問、植物の生活と種類：2問、大地の変化：3問)、正答率が40%未満の問題が13問(身近な物理現象：2問、身の回りの物質：3問、電流とその利用：3問、植物の生活と種類：4問、大地の変化：1問)となった。

全体として正答率が60%以上の問題が38問中12問(32%)であり、今後の指導の工夫・改善がさらに望まれる。

さらに今回地方分権研究会で目標とする正答率70%ライン以上の問題は38問中8問(21%)あり、また、表に示したように新たに設けた期待正答率と比較すると、期待正答率を上回ると考えられる問題が6問(電流とその利用：1問、植物の生活と種類：1問、動物の生活と種類：3問、大地の変化：1問)、期待正答率と同程度と考えられる問題が2問(身近な物理現象：1問、植物の生活と種類：1問)、期待正答率を下回ると考えられる問題が30問(身近な物理現象：5問、身の回りの物質：6問、電流とその利用：6問、植物の生活と種類：6問、動物の生活と種類：2問、大地の

変化：5問)であり、全体として期待正答率を上回ると考えられるものと同程度と考えられるもの問題数の合計は、38問中8問(21%)となり、満足できる状況ではない。

区分	問題数 (小問数)	期待正答率を上 回ると考えられ るもの(A)	期待正答率と同 程度と考えられ るもの(B)	小計 (A) + (B)	期待正答率を下 回ると考えられ るもの(C)	領域別 正答率(%)	期待正答率 (%)
身近な物理現象	6	0	1	1	5	45.5	65.0
身の回りの物質	6	0	0	0	6	37.4	63.3
電流とその利用	7	1	0	1	6	48.6	64.3
植物の生活と種類	8	1	1	2	6	49.9	70.0
動物の生活と種類	5	3	0	3	2	72.7	68.0
大地の変化	6	1	0	1	5	55.3	66.7
計	38	6	2	8	30		

「身近な物理現象」(問題 1 2 3)では、出題した6問のうち、1問が正答率60%以上であり、別の1問が期待正答率と同程度と考えられる。しかし、振動数と音の高低の関係についての理解と、2力のつり合い関係にある力を見いだす力を見る2問では、正答率が40%未満であり、音の性質についての観察、実験における楽器等の活用や、力の働きや2力のつり合いについて具体的なイメージとしてとらえさせる工夫が望まれる。

「身の回りの物質」(問題 4 5 6)では、出題した6問全部が正答率60%未満であり、そのうちメスシリンダーを用いた測定の技能、指示された気体を発生させる方法についての理解、酸とアルカリを混合すると互いの性質が打ち消されて中性に近づくことを考察する力を見る3問では、正答率が40%未満である。生徒にとって身近な気体を発生させて捕集しその特性を見いだす実験や、酸性やアルカリ性の水溶液を用いて共通の性質や、混合して中和されることに気付かせる実験を行い、予想や考察等をまとめて表現する学習を充実させることが望まれる。

「電流とその利用」(問題 7 8 17 A)では、出題した7問のうち、2問が正答率60%以上であり、そのうち分岐点のない回路の各点を流れる電流の大きさについての理解をみる1問が期待正答率を上回っている。しかし、回路の各部の電圧を測定したり、オームの法則を適用して電気抵抗を求めたりする技能や、コイルに電流が流れるときのコイルの周辺の磁界の働き方を考察する力を見る3問では、正答率が40%未満である。回路の作成の仕方、電流計などの扱い方に習熟させるとともに、測定値を記録したり、グラフをかいたり、読み取ったりする学習をより一層大切にすることが望まれる。

「植物の生活と種類」(問題 9 10 11 12)では、出題した8問のうち「光合成」に関する2問が正答率60%以上であり、期待正答率も上回っている。葉のどのようなところで光合成が行われるかを考察する力や、光合成の実験をするための条件を考える力は、おおむね良好であると考えられる。しかし、胚珠や茎の維管束の名称、被子植物の分類についての理解は、出題した4問全部で正答率が40%未満である。植物に対する関心を高め、つくりと働きを関連付けてとらえられるようにすることが大切である。また、ルーペや顕微鏡を用いた観察の技能を向上させることも望まれる。

「動物の生活と種類」(問題 13 17 B)では、出題した5問全部が正答率60%以上であり、そのうち3問は期待正答率を上回っている。肉食動物と草食動物の目の位置や周囲の見え方の差についての理解や、脊椎動物の共通点として背骨を持つことを指摘する力は、おおむね良好であると考えられる。体温等の特徴を比較して脊椎動物を分類する力については必ずしも十分ではなく、観察から動物の生活やからだのつくりの多様性と共通な特徴をとらえられるようにすることが望まれる。

「大地の変化」(問題 14 15 16)では、出題した6問のうち「地層」に関する2問が正答率60%以上であり、そのうち観察記録から地層の働き方を考察する力を見る1問は期待正答率を上回っている。一方「火山と地震」に関する4問では正答率が60%に達しておらず、深成岩の働き方を説明する解答形式が論述式の1問は特に正答率が低い。火成岩の組織の観察や鉱物の結晶の働き方を類推させられる実験を実際に行わせたり、地震計で観測した記録を調べさせたりして、火成岩の名称や働き方、地震の2種類の揺れについての理解を深めることが望まれる。

全体的な傾向として、解答形式が論述式である問題の正答率の低さが目立つ。生徒が問題意識をもって、その解決方法を考えて行う観察、実験を重視し、結果や考察等をまとめて表現させる学習の充実に努める必要がある。さらに、観察、実験の結果や日常生活で見られる現象と関連付けた考察に基づく理解を図ることで、基本的な用語等の定着度を高めていく必要もある。また、第2分野の内容の問題と比較すると、第1分野の内容の問題の正答率が低い。視覚で直接確認できない力や電気などを具体的なイメージとしてとらえさせる工夫をするとともに、計算等の数的な処理を苦手とする生徒への適切な支援が必要である。

## 中学2年「英語」正答と正答率

問題番号	領域	問題内容	正答	正答率	期待正答率	4 県正答率		
1	聞くこと	リスニング (発音の流れを聞き取り、正しい応答文を選択)	(1)	2	95.2	80.0	95.3	
			(2)	3	80.6	90.0	79.9	
			(3)	1	74.5	80.0	75.1	
2		リスニング (キーワードを聞き取り、質問の正答(絵)を選択)	(1)	2	96.0	90.0	96.0	
			(2)	1	95.5	90.0	95.0	
			(3)	4	94.1	80.0	93.9	
3		リスニング (キーワードを聞き取り、質問の正答を選択)	(1)	2	93.6	90.0	93.6	
			(2)	3	98.8	80.0	98.7	
			(3)	3	96.7	80.0	96.6	
	(4)		1	87.1	70.0	86.4		
4	読むこと	対話文の読解 (話者の意向を読み取り、正答を選択)	(1)	(例)テレビで	65.1	80.0	67.1	
			(2)	4	26.5	50.0	25.4	
			(3)	4	85.1	80.0	84.7	
			(4)	3	74.8	60.0	74.5	
5		長文の読解 (あらすじなどを読み取り、正答を選択)	(1)	1	85.2	80.0	84.6	
			(2)	2	57.6	80.0	57.6	
			(3)	1	69.8	80.0	69.7	
6		日常会話の理解 (内容を把握し、正しい時制の対話文を完成)	(1)	①	3	68.3	80.0	67.9
				②	2	42.8	80.0	43.2
			(2)	①	4	18.1	50.0	18.4
				②	2	65.7	80.0	65.9
7			日常会話の理解 (流れを読み取り、正しい応答文を選択)	(1)	3	81.0	80.0	81.7
	(2)			1	81.2	70.0	81.2	
	(3)			2	77.1	90.0	78.1	
	(4)			3	78.7	80.0	78.1	
8	書くこと	日常会話の理解 (場面を理解し、正しい整序文を作成)	(1)	Don't use Japanese here.	40.8	50.0	41.7	
			(2)	How do you come to school?	60.8	50.0	62.1	
			(3)	How many CDs does he have?	23.8	50.0	26.6	
9		英作文 (題に即して、3文以上の文を作成)	(1)	<解答例> Our school is Minami Junior High School. It's in Asahi City. We have about 300 students and 20 clubs. We have many good teachers. We like our school very much.	42.4	60.0	41.1	
			(2)	・第1文に Our school is～に続く文が書かれている。 ・「3文以上」のテーマにそっている英文が書かれている。	16.2	50.0	18.1	

## 第2学年「英語」結果と考察

### 1 出題のねらいと内容

「聞くこと」「読むこと」及び「書くこと」の三つの領域について、英語を理解し、英語で表現するなどのコミュニケーション能力をみることをねらいとした。

①では、三つの場面の会話を聞いて、対話の流れを理解し、適切に応答できる能力をみようとした。

②では、二つの英文を聞き、その内容に合う絵を選ばせることにより英語を正確に聞き取る能力をみようとした。

③では、対話文を聞き、必要な部分を正しく聞き取る能力をみようとした。

④では、英文を読み、その話者の意向を読み取り、前後の文脈から対話文に合う内容を選択させることにより、英文を正確に読み取る能力をみようとした。

⑤では、中学生が書いた英作文のあらすじを読み取り、その内容に合うものを選択させることにより、要点を理解する能力をみようとした。

⑥では、対話文（日常会話）の内容を把握し、正しい時制の対話文を完成させることにより、対話の場面に合うよう適切に応答する能力をみようとした。

⑦では、対話文（日常会話）の流れを読み取り、対話文の場面に合うよう適切に応答する能力をみようとした。

⑧では、与えられた英語を用いて、場面を理解し、正しい語順で英文を構成することにより、言語に関する知識・理解と表現力をみようとした。

⑨では、知り合いの外国人に自分の学校を紹介する場面を素材とし、指示された内容について、必要なことを読み手に正しく伝わるように書く能力をみようとした。

### 2 結果と考察

#### ① 三つの場面の会話を聞き取り、対話の流れを理解し、適切に応答できる能力をみる問題

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向
(1)	95.2	4.3	0.5	80.0	95.3	1 (1.7%) 3 (0.6%) 4 (1.9%) その他 (0.1%)
① (2)	80.6	18.8	0.6	90.0	79.9	1 (12.2%) 2 (1.1%) 4 (5.4%) その他 (0.1%)
(3)	74.5	24.7	0.8	80.0	75.1	2 (3.2%) 3 (13.8%) 4 (7.6%) その他 (0.1%)

#### 【考察】

基本的なあいさつの場面などでの会話のやりとりである。

(1)は、自己紹介の場面での会話の流れを聞き取り、応答文を選ぶ問題である。正答率は95.2%で、期待正答率を上回っている。

(2)は、誕生会の場面の会話の流れを聞き取り、応答文を選ぶ問題である。正答率が80.6%となっているが、期待正答率を下回っている。感謝されたことへの応答表現の理解が不十分なこととThat's right.やLet's go.の意味がよく理解されていないためだと考えられる。

(3)は、教室での生徒二人の会話の流れを聞き取り、応答文を選ぶ問題である。正答率が74.5%で、期待正答率を下回っている。疑問詞whose・・・?の応答表現の理解と聞き取りが不十分であるためと考えられる。日常生活で用いられる慣用表現や疑問詞で始まる疑問文について、言語活動の中で繰り返し使用するなどして、より一層習熟を図ることが大切である。

② 二つの英文を聞き、その内容に合う絵を選ばせることにより英語を正確に聞き取る能力をみる問題

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向			
②	(1)	96.0	3.6	0.4	90.0	96.0	1 (1.1%)	3 (1.5%)	4 (1.0%)
	(2)	95.5	4.2	0.3	90.0	95.0	2 (3.0%)	3 (1.0%)	4 (0.2%)
	(3)	94.1	5.6	0.3	80.0	93.9	1 (0.3%)	2 (4.0%)	3 (1.3%)

【考察】

(1)(2)(3)ともキーワードを聞き取り、それに合う正しい絵を選ぶ問題である。

(1)は、日曜日の妹の行動を聞き取り、その内容に合う絵を選ぶ問題である。正答率は96.0%で、期待正答率を上回っているが、発話者の clean her room を聞き取れないための誤答がみられた。

(2)は、絵の中の人物の午後の行動を聞き取り、その内容に合う絵を選ぶ問題である。正答率は95.5%で、期待正答率を上回っているが baseball や play baseball の聞き取りができないための誤答がみられた。

(3)は、母の行動と天候についての文を聞き取り、その内容に合う絵を選ぶ問題である。正答率は94.1%で、期待正答率を上回っている。with her friend や sunny の聞き取りができていないための誤答がみられた。

(1)(2)(3)とも誤答については、話されるそれぞれの文のキーワードにかかる情報を聞き取り、整理することができなかつたためと考えられる。自然な口調の英語会話の中で、複数の語が連続して話される英語を聞き取る力や具体的な内容やキーとなる部分を聞き取る力をA L T等の活用を通じて繰り返し練習することにより、さらに身に付けさせていくことが望まれる。

③ 対話文を聞き、必要な部分を正しく聞き取る能力を見る問題

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向			
③	(1)	93.6	6.1	0.3	90.0	93.6	1 (5.2%)	3 (0.5%)	4 (0.4%)
	(2)	98.8	0.9	0.3	80.0	98.7	1 (0.3%)	2 (0.3%)	4 (0.3%)
	(3)	96.7	3.0	0.3	80.0	96.6	1 (0.7%)	2 (1.1%)	4 (1.2%)
	(4)	87.1	12.5	0.4	70.0	86.4	2 (6.9%)	3 (3.7%)	4 (1.8%)
						その他 (0.1%)			

【考察】

いずれも対話文を聞いてキーワードを聞き取り、問いに対する答えを選ぶ問題である。

(1)は、時刻に関する問題である。正答率は93.6%と期待正答率と同程度であるが、seven thirty という時刻を聞き取れないための誤答がみられた。

(2)は、「何をしていたか」という行動に関する問題である。正答率は98.8%と期待正答率を大きく上回っている。

(3)も、「何をしていたか」という行動に関する問題である。正答率は96.7%と期待正答率を上回る結果となっている。

(4)は、「誰と何をしたか」という人物を問う問題である。正答率は87.1%で、期待正答率を上回っているが、with my father and brother を聞き取れないための誤答がみられた。

いずれも期待正答率を上回っており、大切な部分を聞き取り理解する力が定着しつつあると思われる。



4 英語での対話文を読んでその内容を読み取り、文脈から適切に応答できる能力をみる問題

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向
4	(1)	65.1	23.6	11.3	80.0	67.1 「on TV」と解答 (0.1%) その他 (23.5%)
	(2)	26.5	72.4	1.1	50.0	25.4 1 (48.6%) 2 (12.0%) 3 (10.8%) その他 (1.0%)
	(3)	85.1	14.2	0.7	80.0	84.7 1 (4.7%) 2 (4.3%) 3 (5.1%) その他 (0.1%)
	(4)	74.8	24.4	0.8	60.0	74.5 1 (2.6%) 2 (8.7%) 4 (13.1%)

【考察】

(1)は、前後の文脈から発話の理由を問う問題である。正答率は 65.1%で期待正答率を大きく下回っている。誤答率と無答率を合わせると 34.9%と高くなっている。「日本語を補って」という指示文を見落として英語で on TVと書いているものが少数みられるが、前後の文脈の読み取りが不十分なことと that's great を理解していないためと考えられる。

(2)は、疑問詞(how)に関する問題である。正答率は 20%台とかなり低く、期待正答率を大きく下回っている。特に手段や方法を表す how の用法の理解が不十分なためと考えられる。誤答例として、why (理由) を選択したものは 48.6%と高く、when (時) を選択したもの 12.0%、where (場所) を選択したもの 10.8%となっている。実際の使用場面を想定した言語活動等を通して how を始めとした疑問詞を含む疑問文を適切に運用できるようにすることが望まれる。

(3)は、話者の意向を読み取り相づちを打つ表現を問う問題である。正答率 85.1%で期待正答率を上回っているが、前後の文脈の読解、that's good.「それはすばらしい」と相づちを打つ表現を理解していないための誤答もみられた。

(4)は、対話文の内容の一部を読み取る問題である。正答率は 74.8%で期待正答率を上回っている。ユキとメグの立場を取り違えた誤答もみられたが、ユキの提案部分の読解が不十分なためと考えられる。

授業の中で、実際の使用場面を想定した活動を行わせるなどの工夫を通して、対話の流れを把握して話者の意向を読み取り、その場面に合うよう適切に応答できる力を身に付けさせることが必要である。

5 書かれている概要・要点を理解し、書き手の意向などを読み取る能力をみる問題

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向
5	(1)	85.2	14.1	0.7	80.0	84.6 2 (9.5%) 3 (1.5%) 4 (3.1%)
	(2)	57.6	41.3	1.1	80.0	57.6 1 (20.6%) 3 (13.5%) 4 (7.2%)
	(3)	69.8	28.5	1.7	80.0	69.7 2 (12.9%) 3 (13.3%) 4 (2.3%)

【考察】

(1)は、全体の概要を把握し、正しい題を付ける問題である。正答率は 85.2%と期待正答率を上回っているが、全体の概要を把握しきれず、その一部のみをとらえての誤答がみられた。

(2)は、長文の一部を理解し、正しい内容を読み取る問題である。正答率は 57.6%で期待正答率を大きく下回っている。Sunday と Saturday の曜日をきちんと理解していないこと、3の誤答のように代名詞が誰を指しているのかの理解が不十分で読み取ることができないためと考えられる。

(3)は、長文の内容を読み取り内容に合うものを選ぶ問題である。正答率は 69.8%と期待正答率を下回っている。要点がよく読み取れないためと考えられる。

英文に書かれている登場人物や話がどのように展開していくのかなど、おおまかな流れをつかみながら読み取ったり、中心となる事柄などをとらえて的確に読み取ったりする力を身に付けさせるため、英問英答、読み取りのポイントなどを示した学習シートの活用などの工夫が望まれる。

6 対話の流れに沿って、その場面に合うよう適切に応答する能力をみる問題

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向			
6	(1) ①	68.3	30.6	1.1	80.0	67.9	1 (4.6%)	2 (18.4%)	4 (7.5%)
	②	42.8	56.1	1.1	80.0	43.2	1 (19.7%)	3 (9.8%)	4 (26.5%)
	(2) ①	18.1	80.6	1.3	50.0	18.4	1 (30.4%)	2 (18.5%)	3 (31.6%)
	②	65.7	32.9	1.4	80.0	65.9	1 (13.8%)	3 (6.9%)	4 (12.1%)

【考察】

(1)①は、現在進行形に関する問題である。正答率は 68.3%と期待正答率を下回っている。三人称・現在進行形の質問に対する答え方の理解が不十分なためと考えられる。(1)②は、過去時制に関する問題である。正答率は 42.8%で期待正答率を大きく下回っている。過去時制の質問に対する答え方が十分理解されていないためと考えられる。

(2)①は、習慣や事実を表す現在時制に関する問題である。正答率は 20%を割りかなり低く、期待正答率を大きく下回っている。1 の過去形を選択したもの 30.4%、3 の意図を表す be going to を選択しているものが 31.7%といずれも誤答率が高い。every year の意味とともに時制の理解が不十分なためと考えられる。

(2)②は、三人称・一般動詞の過去疑問形に関する問題である。正答率は 65.7%で期待正答率を下回っている。誤答例で 1 の現在形を選択しているものが 13.8%、3 の現在形を選択しているもの 6.9%、4 の過去進行形を選択しているもの 12.1%と選択にばらつきがみられることから、三人称・一般動詞の過去疑問形の理解が不十分であると考えられる。

全体的に基本的な文法事項の理解が不十分である。基本的な文型・文法事項の定着を図るために十分に口頭練習を行ったり、場面を工夫して現在形や過去形などとの対比をしながら表現の持つ意味を理解させたりするなど、反復練習を通して習熟を図ることが一層望まれる。

7 対話の流れを読み取り、対話文の場面に合うよう適切に応答する能力をみる問題

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向			
7	(1)	81.0	18.0	1.0	80.0	81.7	1 (2.3%)	2 (5.2%)	4 (10.5%)
	(2)	81.2	17.6	1.2	70.0	81.2	2 (9.1%)	3 (4.8%)	4 (3.7%)
	(3)	77.1	21.8	1.1	90.0	78.1	1 (6.8%)	3 (5.3%)	4 (9.7%)
	(4)	78.7	20.1	1.2	80.0	78.1	1 (9.9%)	2 (5.6%)	4 (4.5%)

【考察】

(1)は、電話での応答表現に関する問題である。正答率は 81.0%で期待正答率と同程度と考えられる。誤答に関しては、4 を選択したものが 10.5%と比較的多かった。電話で自分を名乗るときの応答表現の理解が不十分なためと考える。

(2)は、相づちを表す慣用表現に関する問題である。正答率は 81.2%で期待正答率を上回っている。誤答に関しては、2 を選んだものが 9.1%となっている。前の文脈と相づちを表す応答表現をしっかりと理解していなかったためと考えられる。

(3)は、曜日を問う問題である。正答率は 77.1%と期待正答率を下回っている。曜日に関する応答表現の定着が不十分であるためと考えられる。

(4)は、提案するときの表現に関する問題である。正答率は 78.7%と期待正答率と同程度である。

日常生活でよく用いられる慣用表現を場面に応じて適切に使用することができるよう習熟を図るとともに曜日や日付、天気等についても日常の学習活動において繰り返し指導するなど継続的な実践が一層望まれる。

**8** 与えられた英語で語順正しく英文を構成することにより、言語に関する知識・理解と表現力をみる問題

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向
(1)	40.8	54.7	4.5	50.0	41.7	「Japanese don't ~」と解答 (1.6%) その他 (53.1%)
8 (2)	60.8	35.0	4.2	50.0	62.1	「Do you ~」と解答 (24.0%) その他 (11.0%)
(3)	23.8	70.8	5.4	50.0	26.6	「Does he ~」と解答 (28.8%) その他 (42.0%)

**【考察】**

(1)は、否定命令文に関する語順整序の問題である。正答率は40.8%で期待正答率を下回っている。誤答例では、Japanese don't ~の文にした誤りがみられた。後の文脈及び否定命令文の語順を理解していないためと考えられる。また、「その他」が53.1%と全体で大きな割合を示している。

(2)は、方法や手段を問う疑問詞(How)で始まる疑問文に関する語順整序の問題である。正答率は60.8%で期待正答率を上回っているが、Do you ~?のように通常の疑問文の語順にした誤りが24.0%と高くなっている。後の文脈及びHowを使った疑問文の語順の定着が不十分であるためと考えられる。

(3)は、数を問うHow many ?の疑問文に関する語順整序の問題である。正答率は23.8%と期待正答率を大きく下回っている。Does he ~?のように通常の疑問文の語順にした誤りが28.8%もみられた。「その他」の誤答も含めると誤答率が70%を上回る結果となった。後の文脈及びHow many ?の疑問文の語順を理解していないためと考えられる。

いずれも1学年で学習している内容であるが、疑問詞を含む疑問文の応答表現の継続的な指導と日頃の反復練習が望まれる。

**9** 必要なことを読み手に正しく伝わるように書く能力をみる問題

問題番号	正答率	誤答率	無答率	期待正答率	4県正答率	誤答例・誤答傾向
9 (1)	42.4	17.6	40.0	60.0	41.1	「日本語やローマ字混じり」で解答 (0.4%) その他 (17.2%)
(2)	16.2	39.0	44.8	50.0	18.1	2文以下で解答 (14.1%) 同じ文の繰り返し や相反する文 (2.6%) その他 (22.3%)

**【考察】**

(1)は、指示された書き出しに続いて英文を作る問題である。正答率は42.4%で期待正答率を大きく下回っている。誤答率が17.6%となっているが、無答率が40.0%と全体で大きな割合を示している。

(2)は、3文以上という条件に合うように英文を作る問題である。正答率は20%を割り、期待正答率を大きく下回っている。誤答率は39.0%となっているが、(1)同様無答率が44.8%とかなり高くなっている。(1)(2)いずれも条件が与えられて、それに従って英文を作成していくものであるが、日本語を英語で表現する力や語彙力、内容に関しての思考力・作文力に必要な基礎・基本がしっかりと定着していないためと考えられる。

日常の授業において、平易な文を書く活動を取り入れるなど「書くこと」についても配慮した授業実践が一層望まれる。

**3 まとめ**

「聞くこと」から10問、「読むこと」から15問、「書くこと」から5問の計30問の構成である。

この30問のうち、正答率が60%以上のものは22問（聞くこと：10問、読むこと：11問、書くこと：1問）、40%以上60%未満のものが4問（読むこと：2問、書くこと：2問）、40%に至らなかったものが4問（読むこと：2問、書くこと：2問）という結果となった。

全体として、正答率60%以上の問題が30問中22問（73%）であり、おおむね定着が図られているという状況である。なお、昨年度は、正答率60%以上の問題が70%であり、これと比べると多少上回っていると考えられる。

また、今回地方分権研究会で目標とする正答率 70 %ライン以上の問題は 30 問中 17 問あり (57 %), 表に示したように新たに設けた期待正答率と比較すると、期待正答率を上回ると考えられるものが 12 問 (聞くこと: 7 問, 読むこと: 4 問, 書くこと: 1 問), 期待正答率と同程度と考えられるものが 3 問 (聞くこと: 1 問, 読むこと: 2 問), 期待正答率を下回ると考えられるものが 15 問 (聞くこと: 2 問, 読むこと: 9 問, 書くこと: 4 問) であり、全体として期待正答率を上回ると考えられるものと同程度と考えられるもの問題数の合計は 30 問中 15 問 (50%) とおおむね良好であると評価される。

区分	問題数 (小問数)	期待正答率を上 回ると考えられ るもの (A)	期待正答率と同 程度と考えられ るもの (B)	小計 (A) + (B)	期待正答率を下 回ると考えられ るもの (C)	領域別 正答率 (%)	期待正答率 (%)
聞くこと	10	7	1	8	2	91.2	83.0
読むこと	15	4	2	6	9	65.1	74.7
書くこと	5	1	0	1	4	36.8	52.0
計	30	12	3	15	15		

「聞くこと」については、期待正答率を上回ると考えられるものが 10 問中 7 問, 期待正答率と同程度と考えられるもの 1 問, 期待正答率を下回ると考えられるもの 2 問という結果であり、学習の実現状況はおおむね良好と評価できる。「聞くこと」に関する問題 ① ② ③ では、基本的な聞き取りや文章の概要把握で、特に正答率の高いものがあった。これは、日常の学習活動の中で「聞くこと及び話すこと」の言語活動に重点を置いての指導が充実している成果であると考えられる。

「読むこと」については、期待正答率を上回ると考えられるものが 15 問中 4 問, 期待正答率と同程度と考えられるものが 2 問, 期待正答率を下回ると考えられるものが 9 問である。「読むこと」に関する問題 ④ ⑤ ⑥ ⑦ では、正答率がかなり低いものがみられる。文 (長文・対話) の流れや展開の中で、概要や要点を把握する力を身に付けさせる授業の工夫、具体的には、読み取りのポイントを示した学習シートを活用し必要な情報を取り出させたり英問英答により概要を把握させたりするなどの授業の工夫や、基本的な文法事項について繰り返し指導するなど、指導の充実が一層望まれる。

「書くこと」については、期待正答率を上回ると考えられるものが 5 問中 1 問, 期待正答率を下回ると考えられるものが 4 問である。「書くこと」に関する問題 ⑧ ⑨ では、正答率がかなり低いものがみられた。その中でも ⑧ については誤答率が 7 割を越え、⑨ については無答率が 4 割を越えており、誤答率と合わせると 5 割から 8 割とかなり高くなる。数値からみると、依然として「書くこと」の学習への充実した取組が望まれる結果となった。英文を構成する能力、基礎的な語彙や文法事項を用いて自分の考えや気持ちを正しく伝える自己表現力を身に付けさせるための指導の充実がより一層望まれる。

具体的には、十分な口頭練習や使用場面を想定した言語活動を通しての基本的な文型・文法事項の定着を図るための指導、簡単な英語を用いてある程度まとまった内容について書く活動、スキット、SHOW and TELL のような「話すこと」の活動と関連させた「書くこと」の活動を通して表現する能力を高める指導などの一層の工夫が望まれる。また、無答率が高いことから、書きやすいテーマを繰り返し与えたりすることで書くことへの抵抗を少なくするなどの工夫が望まれる。

今回の調査からは、「読むこと」、「書くこと」において良好とはいえない結果となった。このことから、学習指導要領の目標及び内容の 2, ウの「読むこと」、エの「書くこと」のねらいや趣旨を踏まえ、日常の学習の中で、個の習熟の程度に応じた学習形態や指導體制・指導方法を工夫するなどさらなる指導の改善を図ることが望まれる。また、言語運用のための反復練習や練習したことを生かす場の設定、ねらいを明確にした言語活動の工夫・改善が望まれる。

英語科の目標及び内容の 3 の「指導計画と内容の取扱い」に「生徒の実態や地域の実情に応じて、学年毎の目標を適切に定め、3 年間を通して英語の目標の実現を図る」とある。音声によるコミュニケーションを重視し、聞く、話すを中心とする実践的コミュニケーション能力の育成を図るという観点から、各学年において「聞くこと」及び「話すこと」の言語活動が重点的に取り扱われているが、今後は「読むこと」及び「書くこと」についても「聞くこと」「話すこと」と関連を持たせた指導を充実させていく必要がある。また、基礎・基本の定着を目指し、学習指導の方法・形態の工夫改善を図りながら、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の 4 領域にわたる言語活動をバランスよく行うことが大切である。

【参考表1】

各教科の今後の指導改善事項

(調査結果から課題と考えられる事項についての授業での対応・改善例)

〈小学校5年〉

教科	課題	対応・改善例
国語	文章の内容を正確に読み取り、的確にまとめる力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・段落ごとの内容を自分の言葉でまとめ、事象と意見の関係や要旨をとらえて、発表し合う活動を取り入れる。</li> <li>・時数制限などの条件に即して解答する活動を意図的に取り入れる。</li> </ul>
	漢字の書き取りやローマ字の読み書き、文法事項の理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字の意味や用法、語彙力が身に付くよう辞書の利用を習慣化させる。</li> <li>・身の回りの物の記名、パソコン入力等、日常生活と関連付けたローマ字指導を行う。</li> <li>・文法の指導と「読むこと」の指導を関連させ、文法事項を習得する機会を意図的に設定する。</li> </ul>
社会	統計資料の見方や活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的を明確にし活用のポイントを提示しての調べ学習や、一つの資料から複数の事実を導いたり、複数の資料を関連付けて説明したりするなどの多様な学習活動を取り入れる。</li> </ul>
	地図や地形図の読み取り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平面地図（白地図）や地図帳を積極的に活用し、地図記号や四方位の意味や結び付きを考えさせる学習の機会を意図的に設定する。</li> <li>・地形図と断面図の関連を図り、高低の色分けや模型づくり等の作業的な活動を取り入れる。</li> </ul>
算数	計算の意味・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計算の意味を実生活における体験に関連させたり、目的に応じて必要な計算を選んだりする学習活動を取り入れる。</li> </ul>
	数の大きさについての理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・線分図に表す活動や数直線上に位置を示す活動、具体的な数についての作業的・体験的な活動など数の大きさや構成についての感覚を豊かにする算数的活動を積極的に取り入れる。</li> </ul>
	数量の関係の理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に具体物を用いて問題場面を把握する活動や数量の関係を表やグラフに表して共通の決まりを見つけ、言葉や式で表す活動を積極的に取り入れる。</li> <li>・問題場面を図に表したり考えを式や言葉で書くノート指導や多様な考えを比較・検討する場面を充実させる。</li> </ul>
理科	月の動きの理解・考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月の観察の視点や記録の仕方の指導とともに映像や模型を使うなど、月の動きを太陽の動きと関係付けた学習活動を取り入れる。</li> </ul>
	水の温度変化・状態変化の表現・考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・十分な実験・観察時間を確保し、結果を表やグラフにまとめる作業を行うなど、結果考察にじっくり取り組める学習活動を設定する。</li> </ul>
	空気や水の性質の表現・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空気と水の性質の違いが的確にとらえられよう、複数回の観察・実験等比較できる活動や確認するための問いかけを意図的に行う。</li> </ul>
	乾電池のつなぎ方による電流の強さの理解・考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験後の考察場面で、キーワードとなる言葉を入れてまとめさせる活動を取り入れる。</li> </ul>
	植物の発芽の条件の考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比較しようとする要因（空気）と統一すべき要因（水、日光）との区別や条件制御方法等について分かりやすい整理を行った上での観察・実験を行う。</li> </ul>

(注) 以上は取組の主な例であり、各教科ごとの詳細は各教科の結果分析参照。

〈中学校 2 年〉

教科	課 題	対 応・改 善 例
国 語	論理的な文章の内容を的確にとらえ、条件に従って表現する力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 接続語や文末など、文脈の中での語句の使い方に注目して段落相互の関係をとらえる活動、内容を的確に要約・紹介する活動を取り入れる。</li> <li>・ 字数制限や語句の指定など、多様な条件に従った答え方を考える機会を意図的に設定する。</li> </ul>
	資料から課題を見付け自分の考えを書く力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料や文章から気付いたことや疑問点をメモし、それを基に自分の考えを文章にまとめる活動を取り入れる。</li> </ul>
	漢字の書き取り、文法事項の理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既習漢字を使って短作文などを書く活動を取り入れるとともに、国語辞典や漢和辞典の使用の習慣化を図る。</li> <li>・ 文法の指導と「読むこと」の指導を関連させ、文法事項を習得する機会を意図的に設定する。</li> </ul>
社 会	地球上の位置関係、日本の領域・都道府県の位置の知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地球儀や地図、統計資料などを効果的に活用した体験的、作業的活動とともに、知識の確実な定着を図るために繰り返し学習を設定する。</li> </ul>
	地図の見方や活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大縮尺地図を持って現地に行き、地図と現地との対応関係を学ぶ活動や、観察や調査の活動を通して分かったことを地図上に描く活動等を積極的に取り入れる。</li> </ul>
	統計資料の見方や活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料の見方や資料の読み取り方、判断や考察、まとめ等一連のポイントを提示し、資料を分析・整理したことを自分の言葉でまとめる活動を取り入れる。</li> </ul>
数 学	歴史の大きな流れと各時代の特色の理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年表を日常的に活用し、歴史的事象の相互のつながり、歴史的事象と時代背景との関連、他の時代との相違点や共通点を明らかにし、多面的に考察する課題学習や資料を用いた学習活動を取り入れる。</li> </ul>
	文字式の計算と利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数の計算と関連付けながら計算規則を理解させるとともに、問題場面から数量関係を押さえさせるために立式の手がかりとなるような表や図に表す活動を取り入れる。</li> <li>・ 日常生活と結び付け実感を伴って速さや割合を理解させる活動を取り入れる。</li> </ul>
	空間図形の理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 展開図から見取り図に表す（その逆）活動や、模型等から求積に必要な要素や辺等の位置関係に気付かせる活動を多く取り入れる。</li> </ul>
	グラフの利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ グラフをかく活動、グラフから数量関係を読み取る活動を多く取り入れ、グラフを活用することの有用性に気付かせる指導を行う。</li> <li>・ 二つの数量の関係を式や表、グラフと関連付け、変化の関係や法則などの特徴を読み取るなどの数学的活動を多く取り入れる。</li> </ul>

教科	課題	対応・改善例
理科	凸レンズと物体の距離の関係の理解	・光の性質やレンズの働きを応用した身の回りの道具や機器などを用いた活動を取り入れる。
	音の大きさと振幅の関係の理解	・聴覚と視覚でとらえられる音叉やモノコードなどを用いて調べる活動を工夫する。
	2力のつり合いの関係の見方・考え方	・大きさ、向き、作用点の三つの要素を図示し丁寧に確認させる場面を取り入れる。
	液体の体積測定、回路の電圧測定の技能	・個別に測定する場面を確実に設定するとともに、実験結果の記述内容の点検やパフォーマンステストを取り入れた実験技能の評価などを積極的に行う。
	気体を発生させる方法の理解、水溶液の性質の見方・考え方	・観察、実験において予想、検証方法、結果、考察等を文章で表現する学習活動を意図的に設定する。
	測定値の処理の技能	・目的をもった実験を行い、生徒自らが変数を取りグラフを完成させるなど、実験結果の処理を適切に行う中で法則性を発見し、それを表現する授業の展開を工夫する。
	植物の体のつくり・分類の理解	・身近に見られる代表的な植物の花や葉と茎・根の観察を十分に行わせ、その多様性と共通性を生徒自身が発見するような学習活動や観察結果をまとめ考察する中で実感を伴いながら理解を図る学習活動を展開する。
	深成岩のでき方の理解	・野外における火成岩の産状の情報提供や鉱物の結晶のでき方を類推させる実験、模型等の使用によりイメージを豊かにし、具体的に思考させる学習活動を設定する。
電流と磁界についての見方・考え方	・コイルの回りに鉄粉を撒いたり方位磁針を幾つか置いたりしての観察、模型を使って立体的にとらえ理解をうながす実験結果のまとめを行う。	
英語	要点を把握し適切に応答する力	・内容についての英問英答や読み取りのポイントを示した学習シート等を活用した活動を取り入れる。 ・伝言や手紙、会話文など具体的な場面を設定した言語活動を意図的に取り入れる。
	伝えたいことを書く力	・普段から身近な事柄を題材にした「話すこと」や「書くこと」の言語活動を繰り返し行う。 ・聞く話すなどの日常のコミュニケーション活動において、ポイントを英語でまとめるなど、日常の生活で英語で書く活動を多く取り入れる。 ・友人や家族など身近なテーマを設定して書く活動や「手紙を書く」「招待状を書く」「日記を書く」等、書く目的と読み手を設定して書く活動を数多く設定する。 ・スキット（寸劇）づくりや SHOW and TELL などの楽しみながら英語に親しむ活動を取り入れる。
	正確に書く力	・文法・綴りについては、日常会話でも語順やスペルに注意することや、繰り返し書くことで徹底を図る。

(注) 以上は取組の主な例であり、各教科ごとの詳細は各教科の結果分析参照。









土地利用					我が国の農業										
5					6					7					
(4)					(1)	(2)	(3)			(1)	(2)	(3)			
(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	①	②	(1)	(2)	ア	イ	ウ	エ	
44.3	60.2	48.1	38.5	67.7	69.4	42.7	68.5	81.8	59.4	68.8	76.6	91.6	55.3	64.0	
43.8	65.5	46.0	38.5	67.4	64.6	44.4	67.4	80.4	67.1	68.0	74.2	92.9	63.4	65.8	
32.3	47.1	41.1	31.6	62.4	71.9	35.4	62.4	81.0	56.7	57.8	70.0	86.3	49.0	58.2	
34.5	59.0	43.9	36.0	60.4	69.8	42.4	64.0	79.1	54.0	77.0	68.3	85.6	51.8	65.5	
15.4	46.2	53.8	30.8	76.9	69.2	53.8	76.9	92.3	92.3	92.3	100.0	100.0	46.2	100.0	
67.8	75.2	59.9	45.0	73.8	71.8	49.0	71.3	86.1	58.9	65.3	88.1	95.5	57.9	65.8	
41.6	64.4	44.6	39.6	63.4	68.3	52.5	72.3	79.2	65.3	74.3	80.2	95.0	53.5	68.3	
38.4	53.9	43.8	38.2	73.9	66.7	40.6	71.2	87.7	53.4	71.7	80.8	93.8	53.7	63.5	
62.5	67.7	69.8	34.4	64.6	77.1	46.9	70.8	69.8	69.8	67.7	70.8	93.8	54.2	58.3	
53.8	63.6	53.0	48.5	62.9	75.0	37.9	70.5	75.0	55.3	75.0	73.5	87.1	56.1	65.2	
45.4	63.5	51.9	45.5	70.6	71.1	44.3	71.5	79.2	63.8	63.2	79.9	91.4	57.5	63.6	
42.0	66.4	55.3	45.1	65.3	73.6	41.3	70.2	84.0	63.5	57.3	82.5	92.0	59.1	62.0	
51.7	70.3	55.1	47.9	76.9	68.2	45.2	73.0	68.1	64.7	63.8	84.4	92.8	59.3	65.8	
45.2	63.7	45.7	43.2	69.6	70.5	46.1	73.7	83.4	64.2	63.7	77.8	91.0	58.5	61.9	
49.8	68.1	54.2	47.3	76.0	71.6	41.9	73.5	83.8	65.2	61.0	78.2	90.2	57.1	63.2	
38.1	52.5	42.2	39.2	61.4	73.5	41.6	66.4	76.7	61.4	54.3	73.2	89.4	53.7	56.9	
31.1	55.3	33.3	37.1	63.6	61.4	39.4	62.1	76.5	59.1	63.6	72.7	84.8	42.4	56.1	
45.7	66.7	57.2	50.0	68.8	73.9	44.2	71.7	51.4	63.8	74.6	75.4	92.0	55.1	68.8	
33.6	49.8	45.3	38.9	64.0	67.2	40.9	66.0	71.3	58.3	63.2	75.3	87.4	53.8	58.3	
52.0	64.5	57.2	54.1	76.2	78.4	45.6	77.4	88.2	68.5	69.6	82.1	94.8	59.8	71.8	
35.7	59.3	50.4	41.5	61.6	68.0	46.5	69.1	81.3	64.5	59.0	85.2	91.0	59.4	61.7	
35.4	58.5	51.2	35.4	65.9	73.2	43.9	62.2	79.3	59.8	63.4	84.1	89.0	45.1	48.8	
53.4	65.4	60.3	50.8	76.9	70.9	49.0	73.7	87.7	65.0	70.8	81.2	93.7	61.7	68.4	
28.6	50.0	33.3	21.4	64.3	57.1	40.5	61.9	61.9	47.6	45.2	57.1	83.3	42.9	61.9	
40.6	59.7	49.5	43.8	65.5	68.9	43.4	69.1	79.2	60.9	62.3	78.4	91.7	55.6	62.2	
38.8	61.4	52.0	44.7	67.8	69.3	43.5	70.8	74.7	60.5	61.9	78.2	92.1	55.9	60.9	
37.1	61.3	41.9	48.4	66.1	64.5	51.6	74.2	82.3	66.1	66.1	71.0	96.8	71.0	71.0	
36.8	54.7	49.8	43.7	63.2	71.7	42.9	69.2	84.2	65.6	56.3	82.6	91.1	56.7	59.9	
48.1	65.4	40.7	32.1	61.7	71.6	40.7	69.1	80.2	65.4	65.4	77.8	86.4	51.9	53.1	
47.8	56.5	55.1	39.1	65.2	69.6	46.4	68.1	78.3	52.2	69.6	75.4	94.2	37.7	63.8	
35.7	48.8	29.5	29.5	58.1	70.5	41.1	67.4	80.6	46.5	62.0	78.3	89.9	48.8	51.9	
50.0	61.7	44.7	45.7	67.0	62.0	47.8	62.0	80.4	57.6	56.5	81.5	88.0	65.2	69.6	
41.7	53.3	50.0	38.3	58.3	69.1	47.3	69.1	70.9	61.8	72.7	65.5	83.6	47.3	58.2	
31.9	59.4	50.7	40.6	56.5	63.8	42.8	70.3	86.2	65.9	58.7	78.3	94.2	56.5	63.0	
40.6	55.7	47.2	41.5	67.0	71.7	34.0	57.5	74.5	61.3	52.8	76.4	88.7	57.5	62.3	
57.9	74.8	60.4	59.1	73.6	70.4	47.8	72.3	91.2	62.9	74.8	81.1	95.6	56.0	75.5	
30.9	47.3	54.5	47.3	69.1	61.8	36.4	67.3	74.5	61.8	69.1	78.2	94.5	60.0	67.3	
45.0	66.9	50.6	42.0	71.2	72.0	43.0	71.0	80.2	58.7	59.2	80.3	91.3	54.3	59.1	
46.7	75.2	47.6	40.0	71.4	71.4	49.5	71.4	81.0	61.0	64.8	77.1	90.5	56.2	61.9	
29.2	52.2	47.8	41.6	68.1	71.7	50.4	76.1	87.6	54.9	53.1	79.6	95.6	60.2	65.5	
40.5	59.5	53.4	46.6	73.3	76.7	42.2	69.0	72.4	63.8	61.2	84.5	93.1	58.6	68.1	
34.2	71.1	52.6	47.4	86.8	71.1	15.8	73.7	81.6	68.4	68.4	89.5	92.1	50.0	60.5	
48.6	58.6	47.1	35.7	65.7	77.1	45.7	75.7	84.3	52.9	71.4	78.6	88.6	38.6	54.3	
73.9	80.4	43.5	37.0	73.9	56.5	32.6	63.0	73.9	65.2	43.5	80.4	82.6	50.0	45.7	
42.1	84.2	68.4	47.4	78.9	73.7	63.2	42.1	84.2	47.4	47.4	100.0	94.7	52.6	47.4	
35.0	65.0	40.0	38.3	61.7	68.3	38.3	58.3	75.0	60.0	55.0	70.0	88.3	56.7	43.3	
66.7	85.7	66.7	46.0	74.6	76.2	38.1	84.1	81.0	52.4	55.6	79.4	92.1	52.4	58.7	
100.0	80.0	60.0	60.0	60.0	40.0	60.0	80.0	100.0	40.0	80.0	80.0	100.0	80.0	60.0	
41.3	56.7	49.2	40.7	64.7	69.2	43.6	70.0	80.1	62.9	64.2	79.9	90.3	57.5	62.9	
29.6	43.2	45.6	37.9	57.3	73.3	39.8	63.6	81.1	62.6	56.3	74.8	86.9	51.9	60.7	
56.0	74.0	64.0	58.0	84.0	58.0	42.0	74.0	88.0	76.0	60.0	82.0	96.0	64.0	72.0	
44.1	63.2	58.8	47.1	66.2	66.2	51.5	72.1	80.9	57.4	60.3	82.4	88.2	67.6	63.2	
45.0	65.7	47.1	38.6	65.7	75.7	38.6	73.6	63.6	60.0	74.3	83.6	94.3	52.9	59.3	
29.7	39.1	53.1	31.3	56.3	68.8	37.5	73.4	85.9	64.1	73.4	71.9	90.6	59.4	64.1	
28.9	56.6	43.4	41.0	63.9	62.7	37.3	67.5	84.3	55.4	56.6	79.5	88.0	50.6	60.2	
68.4	71.9	56.1	54.4	80.7	77.2	70.2	78.9	93.0	86.0	78.9	89.5	98.2	77.2	80.7	
54.3	62.0	43.5	33.7	65.2	59.8	47.8	69.6	82.6	56.5	63.0	82.6	87.0	58.7	58.7	
43.1	61.2	47.5	40.8	64.6	69.2	42.7	68.5	78.3	59.7	61.9	77.5	90.3	56.8	66.5	
39.9	57.5	44.9	40.8	64.4	69.7	42.8	67.7	79.5	58.4	61.8	79.3	91.2	57.6	67.5	
47.2	74.1	38.9	38.9	66.7	65.7	38.9	69.4	76.9	63.9	62.0	79.6	87.0	55.6	67.6	
45.6	62.2	44.1	40.6	60.6	72.8	41.3	65.3	77.5	60.0	59.7	70.9	86.3	51.9	59.7	
63.2	82.5	70.2	43.9	77.2	75.4	43.9	82.5	80.7	66.7	71.9	78.9	94.7	63.2	80.7	
51.6	74.8	59.7	50.3	69.8	66.7	43.4	73.6	74.2	61.6	72.3	75.5	92.5	60.4	66.7	
49.2	69.2	55.4	30.8	67.7	75.4	53.8	72.3	84.6	58.5	63.1	83.1	95.4	63.1	64.6	
31.0	46.0	43.4	35.4	58.4	61.1	38.1	80.5	77.9	66.4	59.3	78.8	85.8	54.9	75.2	
64.5	74.2	64.5	48.4	80.6	67.7	54.8	74.2	83.9	64.5	54.8	87.1	100.0	77.4	77.4	
45.5	67.0	69.3	43.2	68.2	67.0	47.7	53.4	71.6	63.6	60.2	80.7	92.0	58.0	59.1	
40.5	42.9	26.3	23.7	50.0	57.1	33.3	61.9	69.0	34.2	36.8	52.6	84.2	28.9	55.3	
43.6	62.8	58.4	45.1	74.2	71.2	45.7	72.6	82.6	62.2	62.3	81.4	92.5	56.8	67.3	
45.2	63.5	57.2	47.0	75.7	72.5	46.3	71.5	85.4	63.1	63.8	83.1	93.0	55.7	67.5	
41.1	61.2	62.0	45.7	66.7	66.7	41.1	69.8	78.3	51.2	55.8	74.4	89.9	54.3	61.2	
30.3	51.5	48.5	39.4	66.7	66.7	42.4	69.7	60.6	69.7	36.4	60.6	93.9	51.5	69.7	
35.2	58.3	63.9	39.8	73.1	70.0	51.0	77.0	75.0	65.0	73.0	84.0	93.0	56.0	71.0	
48.5	70.6	66.2	47.1	88.2	70.6	42.6	80.9	82.4	58.8	58.8	86.8	91.2	64.7	69.1	
50.8	65.1	49.2	36.5	66.7	73.0	46.0	74.6	90.5	71.4	61.9	81.0	92.1	68.3	68.3	
46.3	63.0	52.6	48.4	73.5	72.3	47.0	75.2	84.3	66.9	69.9	82.3	93.3	61.4	70.8	
44.8	62.3	51.4	45.2	70.5	71.0	45.1	72.3	81.6	63.8	66.0	80.3	92.1	58.6	66.8	
51.8	67.2	58.6	48.8	71.6	72.9	44.7	71.5	79.8	65.5	71.7	79.1	92.4	58.9	65.8	



















【参考表2】 中学校数学：問題ごとと地域・市町村別結果状況（正答率：％）

地域・市町村	領域 問題	数と式												
		1				2	3			4		5	6	
		(1)	(2)	(3)	(4)		(1)	(2)	(3)	(1)	(2)		(1)	(2)
大河原管内		70.8	54.0	63.0	45.0	32.5	80.3	59.6	46.5	72.9	67.9	14.7	15.9	41.2
白石市		74.1	54.4	66.7	48.2	35.6	77.9	65.6	51.0	75.6	70.3	16.9	24.4	47.7
角田市		72.2	55.9	58.6	38.1	29.3	79.0	57.1	43.8	74.9	70.7	16.6	10.7	37.0
蔵王町		78.6	61.6	71.1	45.9	30.2	81.8	55.3	47.8	70.4	66.7	6.9	11.3	40.3
七ヶ宿町		76.9	69.2	69.2	76.9	38.5	69.2	61.5	38.5	84.6	69.2	15.4	7.7	46.2
大河原町		67.1	51.8	68.0	52.3	36.5	84.2	61.3	52.3	77.0	75.2	20.7	16.2	42.3
村田町		70.2	46.8	62.9	46.8	27.4	83.9	64.5	44.4	71.0	66.1	23.4	16.1	41.1
柴田町		65.4	52.1	56.5	47.6	31.1	80.5	61.5	45.6	71.3	67.2	10.4	15.4	38.2
川崎町		62.1	49.4	63.2	33.3	32.2	74.7	46.0	39.1	64.4	58.8	10.3	14.9	28.7
丸森町		71.6	55.5	61.3	41.9	34.8	83.2	51.6	40.6	67.1	54.2	9.0	12.3	46.5
仙台管内		73.0	57.4	67.3	51.0	33.6	81.4	60.2	52.5	75.2	70.1	19.9	17.6	44.3
塩釜市		72.5	56.4	63.4	44.9	34.5	82.0	57.6	52.3	74.4	69.1	22.5	15.2	41.3
名取市		75.3	65.1	70.2	52.2	33.8	85.2	65.8	53.0	77.6	74.5	21.3	20.5	51.2
多賀城市		69.4	53.9	59.3	48.7	28.7	64.4	53.7	48.0	68.0	60.4	16.7	13.5	35.6
岩沼市		69.6	58.9	71.3	53.7	33.2	80.8	62.6	58.2	76.4	73.4	15.7	22.0	40.7
亘理町		72.4	59.1	67.6	54.5	31.2	81.2	60.0	47.0	75.5	68.5	18.8	14.2	39.4
山元町		69.3	57.8	66.9	50.6	29.5	79.5	51.8	38.6	71.7	64.5	7.8	8.4	35.5
松島町		69.0	41.5	65.5	48.6	39.4	75.4	59.9	49.3	72.5	66.9	16.9	16.9	47.2
七ヶ浜町		70.6	48.0	57.7	44.0	35.9	83.5	54.8	48.0	70.2	63.7	14.5	11.7	43.1
利府町		74.8	61.3	72.9	58.1	39.6	87.7	54.4	53.5	80.3	76.9	29.6	20.4	53.0
大和町		79.9	66.7	68.3	55.4	34.5	83.1	60.6	57.4	79.9	71.5	20.9	29.3	50.2
大郷町		62.9	38.1	71.1	38.1	33.0	82.5	57.7	45.4	67.0	67.0	10.3	11.3	36.1
富谷町		76.1	52.7	70.2	51.4	32.5	87.4	71.0	61.9	78.0	73.3	25.1	18.9	46.7
大衡村		83.3	60.0	80.0	55.0	33.3	93.3	58.3	55.0	80.0	75.0	8.3	10.0	46.7
古川管内		70.8	54.6	61.7	43.9	28.4	78.7	52.9	48.4	67.7	62.9	15.8	16.6	41.6
古川市		71.5	56.6	63.1	50.1	27.7	79.3	54.1	48.5	67.9	64.8	15.4	18.6	40.4
色麻町		67.9	53.6	71.4	39.3	36.9	78.6	58.3	59.5	77.4	78.6	19.0	14.3	56.0
加美町		70.5	57.3	61.9	37.0	28.5	76.5	41.6	44.5	64.4	57.3	14.9	11.7	42.0
松山町		67.5	61.3	58.8	43.8	26.3	75.0	33.8	33.8	52.5	47.5	10.0	10.0	31.3
三本木町		64.4	49.3	47.9	23.3	31.5	74.0	57.5	53.4	63.0	53.4	11.0	9.6	38.4
鹿島台町		66.7	38.0	52.8	38.0	32.4	84.3	56.5	38.9	63.0	54.6	7.4	9.3	33.3
岩出山町		76.4	71.7	66.0	48.1	32.1	78.3	49.1	46.2	67.0	61.3	17.9	30.2	45.3
晴子町		81.2	69.4	69.4	42.4	27.1	84.7	57.6	52.9	72.9	65.9	20.0	14.1	50.6
涌谷町		72.6	56.7	64.0	51.2	26.8	78.7	67.1	57.3	74.4	67.7	28.0	23.8	48.8
田尻町		60.9	31.3	47.8	25.2	21.7	73.0	42.6	40.9	63.5	53.9	6.1	6.1	32.2
小牛田町		74.0	51.5	69.2	45.6	28.4	79.9	60.9	52.1	72.8	71.0	16.8	22.5	46.2
南郷町		66.7	42.6	46.3	48.1	27.8	81.5	53.7	59.3	72.2	70.4	16.7	11.1	31.5
栗館管内		68.7	56.1	62.1	43.0	30.8	81.2	59.8	49.3	70.5	63.8	12.8	12.8	40.5
栗館町		63.6	42.4	55.1	36.4	26.3	69.5	46.6	38.1	53.4	49.2	6.8	3.4	28.8
若柳町		81.9	71.0	73.2	47.8	35.5	84.1	65.2	52.9	77.5	68.8	16.7	15.9	36.2
栗駒町		57.3	48.5	66.0	42.7	39.8	81.6	62.1	50.5	70.9	60.2	5.8	8.7	40.8
高清水町		80.0	80.0	60.0	50.0	16.7	93.3	70.0	70.0	70.0	73.3	23.3	33.3	60.0
一迫町		68.8	75.0	62.5	54.2	28.1	84.4	56.3	52.1	78.1	72.9	11.5	10.4	41.7
瀬峰町		56.8	54.5	65.9	45.5	29.5	81.8	65.9	56.8	77.3	72.7	20.5	20.5	45.5
鶯沢町		70.0	56.7	43.3	36.7	30.0	70.0	60.0	53.3	70.0	66.7	20.0	16.7	46.7
金成町		73.5	43.4	59.0	33.7	27.7	85.5	62.7	42.2	72.3	62.7	14.5	15.7	53.0
志波姫町		62.3	37.7	53.6	37.7	30.4	84.5	58.0	46.4	68.1	60.9	10.1	10.1	37.7
花山村		85.7	85.7	85.7	57.1	28.6	71.4	71.4	71.4	71.4	71.4	42.9	42.9	42.9
迫管内		74.9	63.9	65.5	51.8	28.1	80.8	53.2	47.7	70.2	63.1	13.0	12.7	41.0
迫町		77.3	66.2	71.3	52.8	30.6	83.3	60.2	48.1	76.9	67.6	16.7	13.9	40.7
登米町		64.7	56.9	56.9	21.6	21.6	66.7	43.1	25.5	56.9	47.1	3.9	13.7	37.3
東和町		77.1	45.7	70.0	38.6	27.1	87.1	51.4	51.4	77.1	70.0	4.3	24.3	48.6
中田町		76.2	77.2	56.1	62.4	27.0	78.3	53.4	51.3	69.3	59.8	13.2	10.1	41.3
豊里町		64.3	57.1	59.5	47.6	20.2	82.1	54.8	45.2	71.4	63.1	10.7	14.3	42.9
米山町		74.1	64.8	66.7	54.6	29.6	82.4	54.6	50.9	75.0	69.4	12.0	13.9	48.1
石越町		69.5	50.8	76.3	64.4	30.5	83.1	64.4	55.9	69.5	67.8	13.6	10.2	32.2
南方町		83.5	62.1	68.9	47.6	32.0	78.6	35.0	42.7	54.4	53.4	17.5	5.8	34.0
石巻管内		72.8	54.1	64.0	46.2	32.7	82.2	58.7	49.3	75.0	68.9	20.6	15.8	42.4
石巻市		73.4	54.8	62.6	51.3	33.8	82.8	61.0	51.1	75.7	70.3	22.6	16.4	43.8
河北町		71.8	53.2	66.1	34.7	30.6	83.1	59.7	42.7	63.7	61.3	16.1	17.7	37.9
矢本町		73.9	53.5	70.7	47.1	28.7	83.1	58.6	49.4	80.3	73.2	25.2	13.4	41.1
雄勝町		73.8	59.0	65.6	44.3	39.3	77.0	62.3	57.4	72.1	57.4	16.4	16.4	36.1
河南町		71.8	61.5	59.8	38.5	32.8	81.6	54.0	47.7	75.3	69.5	14.9	20.1	41.4
桃生町		57.9	24.2	45.3	30.5	29.5	69.5	25.3	33.7	60.0	52.6	8.4	9.5	31.6
鳴瀬町		76.6	51.4	65.4	36.4	37.4	87.9	67.3	61.7	84.1	72.9	18.7	15.9	48.6
北上町		84.4	56.3	81.3	50.0	46.9	93.8	62.5	43.8	87.5	87.5	21.9	18.8	59.4
女川町		67.4	65.3	71.6	44.2	27.4	76.8	63.2	38.9	70.5	61.1	12.6	14.7	37.9
社座町		79.5	52.3	68.2	36.4	27.3	84.1	52.3	47.7	68.2	63.6	25.0	9.1	45.5
志津川管内		76.2	59.7	67.9	56.0	33.2	82.1	62.7	56.1	75.1	70.2	23.2	18.8	48.6
気仙沼市		78.6	62.3	71.4	58.4	31.6	84.6	65.6	58.6	78.8	71.6	28.2	22.1	50.0
志津川町		84.4	60.0	60.6	56.9	41.9	83.8	64.4	55.6	76.3	72.5	20.6	20.6	48.1
津山町		82.6	56.5	67.4	52.2	30.4	84.8	56.5	43.5	60.9	71.7	8.7	8.7	30.4
本吉町		59.2	55.8	60.8	45.0	29.2	75.8	49.2	46.7	70.8	65.8	20.8	13.3	50.8
唐桑町		79.0	59.3	80.2	65.4	38.3	86.4	70.4	64.2	71.6	71.6	18.5	16.0	46.9
歌津町		58.5	46.2	52.3	43.1	29.2	61.5	52.3	52.3	63.1	58.5	6.2	6.2	47.7
仙台市管内		76.4	62.2	72.2	56.4	36.7	84.2	68.6	59.1	79.0	74.1	25.9	26.1	50.8
県全体		74.0	58.7	67.8	51.5	33.8	82.2	62.4	53.8	75.4	70.2	21.1	20.2	46.1
4県全体		74.8	60.0	67.7	55.6	34.9	82.7	62.4	55.8	76.8	71.7	24.7	20.9	48.9

数量関係							図形						数と式
7	8	9		10	11		12	13	14		15	16	17
		(1)	(2)		(1)	(2)			(1)	(2)			
69.1	47.2	78.0	71.4	66.4	69.6	47.5	70.3	42.8	46.3	44.0	60.4	22.4	14.6
70.5	54.9	77.9	69.5	71.8	75.4	53.8	66.9	44.9	51.8	50.8	61.3	29.2	17.7
65.7	43.8	79.6	75.7	67.8	70.7	42.9	67.2	43.2	44.7	42.9	57.4	19.2	14.2
71.1	43.4	79.9	61.6	54.7	61.0	47.2	71.1	56.6	35.2	45.9	67.3	17.6	13.8
84.6	69.2	92.3	84.6	69.2	84.6	46.2	84.6	76.9	61.5	30.8	76.9	15.4	23.1
65.3	40.1	77.0	80.2	59.5	65.3	47.3	70.7	38.3	38.3	37.8	60.8	22.1	11.3
71.0	50.0	78.2	70.2	74.2	71.0	45.2	82.3	46.0	39.5	40.3	62.1	23.4	19.4
74.0	47.3	75.7	68.0	66.0	70.4	47.6	69.8	26.9	50.9	39.1	57.1	22.5	13.0
65.5	42.5	71.3	69.0	60.9	60.9	46.0	67.8	49.4	50.6	37.9	54.0	17.2	14.9
64.5	47.7	81.9	72.9	69.0	67.7	44.5	75.5	54.8	50.3	54.8	64.5	20.0	11.6
72.7	51.8	80.8	67.1	69.9	72.2	48.0	71.1	46.4	48.6	48.5	60.9	23.0	17.7
73.5	50.0	83.7	67.8	70.3	71.2	42.4	65.9	54.5	41.7	46.4	63.4	20.1	17.0
77.1	54.7	82.1	77.0	75.1	77.2	54.2	70.6	51.3	52.3	51.3	56.3	29.4	20.1
66.7	46.9	76.7	57.6	65.6	63.7	41.3	67.6	52.4	47.6	46.5	57.6	24.3	17.6
77.1	52.8	77.6	65.7	69.9	71.0	48.4	73.1	49.3	45.3	52.8	60.5	19.9	18.5
69.7	52.4	79.7	70.0	65.5	70.0	45.2	69.7	20.6	40.9	39.4	62.4	21.5	17.0
68.7	48.2	72.9	57.2	54.8	62.0	44.0	65.7	12.7	41.0	41.6	59.6	19.9	11.4
71.8	45.8	82.4	71.8	63.4	73.9	50.0	72.5	15.5	43.7	50.0	60.6	20.4	7.7
67.3	45.2	76.6	76.6	62.9	67.3	46.4	75.4	27.0	52.4	44.0	62.1	22.6	13.3
74.3	53.9	80.6	41.0	71.1	72.9	45.8	73.4	58.3	56.0	43.8	63.0	25.5	19.2
73.5	57.4	84.3	73.1	74.7	80.3	54.2	81.5	63.1	62.2	57.4	69.9	25.3	18.9
63.9	43.3	79.4	67.0	49.5	53.6	42.3	62.9	36.1	43.3	46.4	62.9	18.6	10.3
75.9	57.4	86.2	81.1	80.5	80.5	54.5	73.7	53.5	46.3	55.8	62.3	18.7	22.6
60.0	50.0	86.7	45.0	71.7	81.7	50.0	71.7	35.0	71.7	46.7	55.0	21.7	10.0
68.2	49.2	77.8	66.0	66.6	68.9	46.1	70.7	43.8	46.1	45.0	59.2	17.0	15.7
69.5	49.5	76.5	67.2	66.6	65.0	43.0	68.9	40.5	47.1	38.1	55.2	18.7	14.2
75.0	47.6	77.4	75.0	72.6	69.0	45.2	78.6	45.2	48.8	45.2	64.3	22.6	22.6
63.0	46.3	75.1	48.0	67.3	68.3	43.8	73.0	57.3	44.1	48.4	63.7	15.3	13.5
60.0	42.5	65.0	46.3	50.0	66.3	43.8	67.5	43.8	43.8	43.8	58.8	12.5	7.5
60.3	47.9	79.5	68.5	63.0	69.9	46.6	71.2	12.3	35.6	43.8	57.5	9.6	19.2
72.2	38.9	86.1	68.5	63.0	76.9	48.1	75.0	46.3	42.6	55.6	62.0	8.3	12.0
77.4	50.9	82.1	62.3	66.0	69.8	46.2	73.6	31.1	45.3	50.9	57.5	16.0	18.9
75.3	57.6	87.1	58.8	74.1	78.8	60.0	76.5	57.6	54.1	58.8	68.2	28.2	18.8
68.3	53.7	86.6	79.3	74.4	77.4	54.3	71.3	53.7	46.3	51.2	57.3	16.5	24.4
64.3	43.5	67.0	72.2	56.5	63.5	40.9	65.2	17.4	40.9	36.5	56.5	9.6	5.2
64.5	58.0	78.1	76.9	68.0	72.2	51.5	70.4	52.1	52.1	53.8	63.9	16.6	22.5
70.4	48.1	85.2	79.6	74.1	72.2	48.1	63.0	59.3	42.6	44.4	64.8	29.6	16.7
70.9	48.5	75.5	71.6	66.0	69.1	49.0	71.9	41.2	43.6	49.0	59.6	16.9	14.2
59.3	37.3	67.8	56.8	60.2	63.6	44.9	68.6	37.3	49.2	51.7	61.0	9.3	7.6
76.8	56.5	79.0	78.3	72.5	74.6	55.1	63.0	35.5	31.2	46.4	52.2	18.8	13.8
74.8	46.6	75.7	72.8	63.1	68.9	52.4	81.6	35.9	36.9	43.7	61.2	18.4	10.7
80.0	46.7	80.0	83.3	80.0	83.3	63.3	73.3	56.7	46.7	63.3	63.3	33.3	33.3
69.8	55.2	74.0	64.6	69.8	66.7	40.6	72.9	67.7	49.0	50.0	58.3	16.7	13.5
79.5	56.8	79.5	72.7	61.4	75.0	50.0	81.8	15.9	54.5	47.7	56.8	11.4	9.1
80.0	46.7	80.0	70.0	60.0	76.7	60.0	70.0	40.0	56.7	56.7	66.7	16.7	33.3
65.1	41.0	75.9	80.7	62.7	65.1	48.2	69.9	50.6	45.8	50.6	62.7	22.9	21.7
66.7	46.4	76.8	75.4	65.2	62.3	40.6	73.9	23.2	42.0	44.9	62.3	11.6	7.2
85.7	85.7	71.4	71.4	71.4	71.4	42.9	85.7	100.0	71.4	57.1	85.7	28.6	42.9
66.8	49.0	77.0	62.3	69.0	73.0	44.5	70.2	54.1	44.7	44.9	59.7	19.2	11.3
69.4	54.2	81.0	67.1	70.4	74.5	46.3	76.4	54.2	54.2	44.4	57.4	18.1	14.4
45.1	37.3	62.7	45.1	60.8	60.8	23.5	64.7	25.5	27.5	39.2	64.7	13.7	11.8
72.9	45.7	87.1	57.1	67.1	80.0	57.1	71.4	72.9	41.4	54.3	57.1	15.7	17.1
69.8	42.3	81.0	66.1	62.4	74.6	40.2	68.3	51.9	42.3	50.3	63.5	21.2	7.4
63.1	53.6	77.4	67.9	77.4	67.9	46.4	71.4	73.8	32.1	41.7	64.3	25.0	9.5
67.6	45.4	72.2	74.1	73.1	75.0	51.9	62.0	31.5	50.9	43.5	58.3	26.9	10.2
72.9	66.1	74.6	72.9	69.5	79.7	49.2	69.5	62.7	39.0	39.0	71.2	15.3	20.3
61.2	48.5	68.0	34.0	71.8	66.0	38.8	70.9	62.1	46.6	39.8	47.6	12.6	4.9
70.9	49.4	79.0	71.6	69.7	71.0	45.9	69.5	41.0	47.7	46.7	60.9	21.1	15.3
72.9	51.7	81.9	75.6	71.7	72.3	47.4	68.7	39.2	46.5	48.7	58.3	22.8	16.6
59.7	41.1	76.6	64.5	60.5	61.3	54.0	67.7	36.3	44.4	46.0	58.9	21.0	13.7
69.4	49.7	79.9	72.9	73.2	75.5	43.6	69.4	47.1	55.4	45.5	65.3	18.5	15.3
70.5	47.5	67.2	54.1	59.0	65.6	32.8	75.4	59.0	50.8	54.1	57.4	19.7	6.6
70.1	43.7	75.3	77.6	66.1	69.5	48.3	69.0	29.3	44.8	41.4	58.6	19.5	14.4
65.3	41.1	68.4	31.6	57.9	50.5	33.7	70.5	40.0	31.6	30.5	62.1	9.5	11.6
72.0	56.1	82.2	78.5	75.7	81.3	51.4	65.4	44.9	56.1	50.5	70.1	26.2	26.2
93.8	71.9	100.0	81.3	78.1	84.4	53.1	84.4	68.8	62.5	62.5	84.4	37.5	12.5
66.3	36.8	64.2	65.3	67.4	65.3	33.7	75.8	46.3	44.2	37.9	65.3	17.9	5.3
68.2	50.0	68.2	59.1	59.1	70.5	45.5	70.5	38.6	50.0	50.0	61.4	13.6	9.1
74.6	55.8	83.0	72.5	73.6	75.2	52.6	72.6	49.8	46.9	54.4	62.7	24.8	18.5
76.1	58.6	83.3	71.6	75.3	74.2	54.4	75.4	50.9	54.2	53.9	64.4	24.4	18.8
73.8	60.0	86.9	81.3	71.3	78.1	53.8	71.9	35.0	35.0	64.4	55.6	33.8	23.8
54.3	45.7	80.4	56.5	56.5	71.7	39.1	54.3	32.6	37.0	54.3	58.7	13.0	10.9
75.8	49.2	81.7	77.5	77.5	74.2	46.7	75.0	58.3	42.5	59.2	62.5	23.3	15.8
85.2	60.5	86.4	75.3	80.2	81.5	50.6	67.9	74.1	43.2	55.6	65.4	24.7	13.6
61.5	33.8	70.8	56.9	61.5	73.8	56.9	63.1	43.1	32.3	24.6	64.6	16.9	20.0
77.4	59.0	82.9	76.1	76.2	76.8	52.6	73.5	54.8	53.6	55.1	63.0	29.9	21.3
73.4	53.7	80.7	71.5	71.8	73.4	49.5	71.8	48.9	49.6	50.4	61.5	24.6	18.1
75.8	55.8	81.4	70.4	72.5	73.7	48.8	72.1	50.7	50.5	50.1	61.9	24.9	17.4





【参考表2】 中学校英語：問題ごと地域・市町村別結果状況（正答率：％）

地域・市町村	開くこと															
	1				2				3				4			
	(1)	(2)	(3)	(4)	(1)	(2)	(3)	(4)	(1)	(2)	(3)	(4)	(1)	(2)	(3)	(4)
大河原管内	95.2	81.3	68.8	96.0	95.6	94.3	93.4	98.9	96.8	86.5	62.9	22.0	82.1	72.0		
白石市	96.9	85.1	69.7	96.9	95.9	93.8	95.1	99.2	97.7	89.7	62.2	21.1	86.4	79.9		
角田市	95.0	79.2	69.7	96.7	96.7	95.0	95.0	99.4	97.3	84.9	65.0	24.3	79.5	69.1		
蔵王町	93.7	78.6	62.9	95.0	96.2	95.6	91.8	98.7	98.7	85.5	71.1	18.9	83.6	69.2		
七ヶ宿町	100.0	84.6	76.9	92.3	100.0	100.0	100.0	100.0	92.3	84.6	61.5	38.5	92.3	69.2		
大河原町	95.1	78.6	57.6	93.3	90.8	93.8	91.5	98.2	96.4	83.0	55.8	16.1	77.2	64.3		
村田町	95.2	87.9	64.5	96.8	96.0	92.7	83.1	97.6	95.2	87.9	68.5	28.2	83.1	71.0		
柴田町	95.9	85.8	72.6	96.5	96.8	94.4	94.4	98.8	96.5	89.1	64.0	26.3	82.6	74.6		
川崎町	88.6	60.2	46.6	92.0	95.5	88.6	88.6	97.7	90.9	75.0	56.8	14.8	79.5	68.2		
丸森町	95.5	80.0	67.7	97.4	95.5	96.8	98.1	100.0	98.1	88.4	58.1	19.4	81.3	69.7		
仙台管内	94.9	82.5	72.5	95.6	95.1	94.5	93.7	98.9	96.9	85.6	62.7	26.5	84.9	73.8		
塩尻市	96.2	84.5	71.7	95.7	95.8	94.3	94.9	98.9	97.4	86.0	63.8	23.8	88.3	71.3		
名取市	96.4	88.0	81.0	97.8	96.1	96.4	95.5	99.1	97.2	89.5	66.5	29.8	86.6	78.8		
多賀城市	91.5	74.7	68.6	94.8	93.3	93.0	94.6	98.3	95.0	83.4	54.7	24.0	77.8	68.9		
岩沼市	95.3	83.1	76.2	96.0	96.2	95.3	96.2	98.6	96.5	85.4	66.6	25.6	87.1	74.8		
亘理町	94.2	78.3	62.4	95.1	95.4	95.4	90.5	99.7	97.6	80.7	63.3	29.1	83.8	74.9		
山元町	93.9	76.4	61.2	89.7	90.9	86.1	93.9	96.4	94.5	75.8	43.6	23.6	74.5	63.0		
松島町	92.9	87.9	72.1	95.0	96.4	96.4	85.7	97.9	98.6	85.0	67.1	25.0	82.9	75.7		
七ヶ浜町	96.0	83.5	69.4	94.4	94.4	95.6	94.0	98.8	96.8	88.7	56.9	22.6	86.3	71.8		
利府町	95.4	85.6	70.4	96.5	96.1	97.0	93.5	99.5	98.1	86.8	67.4	29.9	85.9	74.5		
大和町	97.2	90.4	83.9	95.6	95.6	96.4	96.4	99.2	99.2	86.3	65.9	28.9	89.6	77.5		
大郷町	87.6	76.3	47.4	88.7	92.8	88.7	90.7	100.0	95.9	71.1	60.8	14.4	73.2	63.9		
富谷町	95.9	77.0	76.0	95.7	95.1	91.8	90.2	99.6	96.3	86.9	63.3	26.8	87.7	76.0		
大衡村	90.0	83.3	65.0	98.3	91.7	93.3	91.7	100.0	96.7	96.7	66.7	33.3	86.7	75.0		
古川管内	92.7	78.6	66.3	95.0	93.8	91.5	90.9	97.7	94.9	80.7	58.1	23.1	79.8	70.8		
古川市	91.9	77.8	65.5	92.9	92.2	89.0	88.6	96.4	93.3	79.0	59.0	22.9	78.1	68.1		
色麻町	95.2	77.4	77.4	100.0	95.2	95.2	96.4	98.8	97.6	94.0	63.1	26.2	79.8	78.6		
加美町	91.1	75.8	61.2	95.4	95.0	91.5	86.8	98.2	97.5	75.1	43.4	21.7	79.0	72.2		
松山町	90.0	90.0	67.5	95.0	93.8	92.5	95.0	96.3	92.5	85.0	71.3	18.8	80.0	75.0		
三本木町	97.3	84.9	67.1	98.6	94.5	93.2	97.3	95.9	94.5	83.6	57.5	30.1	72.6	71.2		
鹿島台町	89.8	79.6	63.9	98.1	92.6	95.4	93.5	100.0	92.6	77.8	57.4	16.7	79.6	71.3		
岩出山町	93.4	77.4	62.3	94.3	90.6	84.9	88.7	97.2	95.3	80.2	65.1	24.5	75.5	67.0		
鳴子町	95.2	85.7	83.3	95.2	96.4	95.2	94.0	98.8	98.8	91.7	76.2	31.0	91.7	78.6		
涌谷町	93.3	85.4	75.0	95.1	95.7	94.5	94.5	98.2	96.3	89.0	64.0	22.6	85.4	79.3		
田尻町	89.6	66.1	61.7	97.4	93.9	90.4	94.8	100.0	94.8	72.2	51.3	22.6	80.9	61.7		
小牛田町	98.2	79.2	66.7	96.4	95.8	97.0	89.9	99.4	95.2	82.7	61.3	25.6	83.3	73.8		
南郷町	92.6	74.1	51.9	96.3	98.1	92.6	98.1	100.0	94.4	79.6	42.6	16.7	75.9	61.1		
築館管内	92.6	82.1	61.8	94.7	93.4	91.9	94.1	99.2	95.5	79.6	60.0	19.7	82.7	73.2		
築館町	92.4	78.0	60.2	94.9	92.4	89.8	94.9	99.2	91.5	71.2	50.0	16.1	81.4	72.0		
若柳町	94.9	88.3	65.0	96.4	95.6	97.1	93.4	100.0	95.6	78.8	67.2	17.5	87.6	73.7		
栗駒町	86.5	67.3	49.0	88.5	93.3	89.4	92.3	99.0	95.2	75.0	55.8	17.3	81.7	68.3		
高清水町	100.0	93.3	80.0	100.0	100.0	96.7	100.0	100.0	100.0	83.3	80.0	26.7	96.7	80.0		
一迫町	91.7	91.7	63.5	99.0	90.6	84.4	92.7	96.9	95.8	78.1	68.8	22.9	81.3	75.0		
瀬峰町	97.7	90.9	75.0	95.5	97.7	97.7	97.7	100.0	97.7	88.6	75.0	36.4	81.8	84.1		
鷺沢町	96.7	93.3	80.0	93.3	90.0	100.0	93.3	100.0	100.0	90.0	63.3	13.3	93.3	83.3		
金成町	89.0	74.4	65.9	90.2	92.7	91.5	93.9	98.8	95.1	86.6	42.7	19.5	78.0	76.8		
志波姫町	94.2	81.2	46.4	97.1	91.3	91.3	94.2	100.0	97.1	84.1	59.4	17.4	73.9	63.8		
花山村	100.0	71.4	57.1	100.0	100.0	85.7	100.0	100.0	100.0	85.7	42.9	28.6	85.7	42.9		
迫管内	93.6	80.8	70.5	95.0	94.3	93.5	91.8	98.9	95.2	83.4	60.9	24.1	83.6	73.8		
迫町	90.7	79.1	71.6	89.3	89.3	90.7	87.4	96.7	91.6	79.1	59.1	26.5	82.3	72.1		
登米町	96.1	68.6	62.7	98.0	100.0	100.0	92.2	100.0	94.1	84.3	62.7	17.6	78.4	62.7		
東和町	94.3	88.6	80.0	95.7	98.6	94.3	98.6	100.0	98.6	90.0	70.0	22.9	84.3	84.3		
中田町	91.5	80.3	73.4	97.9	96.3	95.7	94.7	100.0	97.9	91.5	65.4	23.4	86.7	75.0		
豊里町	94.0	73.8	65.5	95.2	97.6	85.7	86.9	98.8	92.9	78.6	56.0	20.2	86.9	75.0		
米山町	95.4	80.6	67.6	96.3	94.4	96.3	90.7	99.1	93.5	83.3	51.9	28.7	79.6	73.1		
石越町	98.3	83.1	71.2	96.6	94.9	93.2	89.8	100.0	98.3	79.7	55.9	20.3	86.4	79.7		
南方町	97.1	90.3	67.0	97.1	92.2	95.1	97.1	99.0	98.1	78.6	66.0	25.2	82.5	69.9		
石巻管内	94.8	82.2	71.6	95.9	95.1	93.5	92.4	98.8	96.7	86.1	62.4	25.3	85.2	73.5		
石巻市	96.1	83.3	73.2	95.6	95.7	93.1	92.5	99.0	97.6	86.5	61.9	27.4	86.5	74.7		
河北町	97.6	85.5	70.2	95.2	94.4	93.5	92.7	99.2	96.0	83.1	67.7	24.2	79.0	76.6		
矢本町	94.3	79.0	66.2	96.2	94.3	93.9	89.8	99.0	95.5	85.7	63.1	24.5	85.0	67.2		
雄勝町	93.4	85.2	72.1	91.8	93.4	93.4	93.4	96.7	95.1	82.0	62.3	39.3	85.2	77.0		
河南町	94.3	81.6	69.0	97.7	92.5	95.4	96.0	98.3	95.4	82.8	54.6	18.4	85.6	71.8		
桃生町	84.2	77.9	64.2	93.7	91.6	92.6	84.2	96.8	93.7	81.1	75.8	15.8	84.2	69.5		
鳴瀬町	93.5	84.1	85.0	99.1	97.2	92.5	97.2	99.1	99.1	93.5	68.2	22.4	88.8	74.8		
北上町	100.0	78.1	81.3	100.0	100.0	96.9	96.9	100.0	100.0	100.0	84.4	40.6	93.8	93.8		
女川町	93.7	83.2	72.6	96.8	95.8	92.6	90.5	97.9	92.6	86.3	50.5	11.6	74.7	68.4		
村鹿町	88.6	75.0	56.8	95.5	97.7	97.7	97.7	100.0	97.7	90.9	52.3	36.4	81.8	81.8		
志津川管内	94.8	84.4	73.7	97.2	96.7	94.6	93.4	98.8	97.6	86.1	66.7	25.0	84.9	76.1		
気仙沼市	95.3	85.4	75.7	97.2	96.7	94.9	94.6	98.9	97.7	85.6	66.1	27.2	85.4	76.3		
志津川町	93.8	87.5	71.9	97.5	95.6	92.5	87.5	98.1	98.1	87.5	68.1	25.0	86.3	75.6		
津山町	89.4	76.6	55.3	93.6	93.6	95.7	87.2	97.9	97.9	76.6	51.1	14.9	70.2	53.3		
本吉町	97.5	80.8	74.2	98.3	98.3	95.0	95.8	99.2	98.3	91.7	69.2	23.3	89.2	79.2		
唐桑町	95.1	85.2	76.5	98.8	97.5	96.3	97.5	100.0	96.3	86.4	74.1	19.8	87.7	86.4		
歌津町	92.2	79.7	68.8	95.3	98.4	93.8	92.2	98.4	95.3	82.8	65.6	21.9	76.6	71.9		
仙台市内管内	96.5	79.0	81.5	96.5	96.4	94.8	94.8	98.9	97.2	91.1	69.9	29.6	87.5	77.3		
県全体	95.2	80.6	74.5	96.0	95.5	94.1	93.6	98.8	96.7	87.1	65.1	26.5	85.1	74.8		
4県全体	95.3	79.9	75.1	95.0	95.1	93.9	93.6	98.7	96.6	86.4	67.1	25.4	84.7	74.5		



読むこと								書くこと									
5				6				7				8				9	
(1)	(2)	(3)		(1)		(2)		(1)	(2)	(3)	(4)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	
				①	②	①	②										
82.8	54.3	64.5	63.0	37.2	14.4	61.4	78.5	79.2	74.2	73.2	36.5	48.9	21.2	37.9	12.9		
85.3	60.4	68.4	71.2	39.6	17.5	66.6	84.6	82.0	78.1	78.4	44.5	57.6	29.8	48.3	18.5		
83.7	52.8	65.3	61.7	37.4	13.9	59.6	78.9	77.2	76.3	76.9	40.9	51.6	19.3	37.7	7.7		
83.0	54.1	64.2	67.9	39.6	10.1	67.3	82.4	81.1	72.3	69.8	22.0	40.9	24.5	29.6	5.7		
92.3	69.2	76.9	38.5	38.5	7.7	53.8	92.3	92.3	76.9	84.6	30.8	46.2	30.8	53.8	23.1		
82.1	50.0	58.5	55.8	27.2	11.2	51.8	70.1	72.3	64.7	62.5	25.9	46.9	14.3	31.3	11.2		
86.3	54.0	58.1	54.8	33.9	12.1	60.5	81.5	88.7	77.4	79.0	44.4	48.4	20.2	22.6	4.8		
82.0	52.8	63.1	62.8	38.3	18.3	59.9	79.4	80.5	74.0	72.3	37.8	42.8	17.1	37.5	16.8		
69.3	39.8	64.8	64.8	47.7	11.4	62.5	64.8	60.2	64.8	62.5	25.0	28.4	18.2	28.4	9.1		
80.6	59.4	69.0	58.1	36.8	12.9	64.5	72.9	83.2	78.1	74.2	34.8	57.4	20.6	47.1	19.4		
84.8	56.1	69.1	65.2	41.2	17.4	64.4	81.1	82.1	77.4	78.6	43.8	53.4	23.8	40.4	12.2		
87.0	57.4	68.3	62.3	44.5	16.2	63.0	81.9	83.0	76.2	77.9	37.4	46.6	22.1	36.2	14.9		
87.9	62.9	73.8	66.7	43.9	20.8	69.4	85.0	85.7	81.0	84.3	53.7	63.8	33.5	51.8	18.8		
78.7	51.9	61.7	63.0	33.8	13.9	57.3	74.9	76.3	71.5	73.0	38.8	51.4	14.2	34.0	10.2		
87.8	56.5	70.4	66.1	41.2	18.1	66.1	85.9	84.9	80.7	82.6	50.6	62.4	22.6	47.5	7.5		
83.8	53.2	68.2	65.4	34.9	13.5	60.9	81.0	80.1	78.9	78.3	35.8	39.1	22.0	28.7	9.5		
72.1	41.8	51.5	60.0	35.8	9.7	51.5	77.6	74.5	70.9	66.7	37.0	32.7	15.8	30.9	3.0		
82.1	54.3	59.3	59.3	42.9	22.1	57.9	76.4	79.3	69.3	73.6	55.0	63.6	18.6	40.0	9.3		
85.5	50.4	68.5	64.1	45.6	15.7	58.1	75.8	81.5	74.6	78.6	39.5	43.1	16.1	33.1	4.4		
85.6	56.7	69.9	66.2	39.6	18.3	66.4	82.2	83.8	82.2	79.9	50.5	55.8	25.0	41.0	6.3		
85.9	63.1	81.9	65.9	42.6	16.5	74.3	85.9	85.9	86.7	84.7	44.2	58.6	34.9	51.4	22.9		
72.2	47.4	62.9	60.8	33.0	13.4	56.7	71.1	72.2	69.1	61.9	18.6	23.7	9.3	22.7	9.3		
87.7	57.2	73.4	67.8	46.5	21.1	71.5	81.4	82.8	73.6	79.7	41.4	59.2	25.4	40.4	15.6		
93.3	50.0	70.0	70.0	51.7	21.7	61.7	76.7	85.0	83.3	66.7	41.7	53.3	28.3	41.7	15.0		
80.6	52.2	63.7	60.4	37.7	15.3	58.6	74.9	77.9	75.1	75.9	36.1	46.7	22.8	35.4	13.3		
77.4	52.1	60.3	59.0	35.1	16.0	58.1	72.4	74.0	73.5	71.9	34.3	44.7	24.6	35.3	11.3		
83.3	61.9	81.0	58.3	39.3	11.9	64.3	79.8	77.4	82.1	86.9	48.8	58.3	21.4	46.4	20.2		
81.9	47.3	60.9	60.9	42.7	9.6	60.5	76.5	78.6	69.4	80.1	36.7	45.6	18.1	35.2	12.5		
75.0	62.5	70.0	60.0	28.8	13.8	52.5	85.0	81.3	73.8	77.5	37.5	36.3	32.5	35.0	6.3		
84.9	42.5	61.6	53.4	34.2	20.5	56.2	72.6	75.3	67.1	75.3	63.0	37.0	26.0	34.2	12.3		
76.9	45.4	63.9	70.4	36.1	13.0	65.7	72.2	83.3	81.5	83.3	26.9	50.0	17.6	10.2	3.7		
73.6	52.8	59.4	52.8	40.6	19.8	56.6	75.5	81.1	78.3	72.6	37.7	50.0	31.1	34.0	18.9		
92.9	61.9	78.6	71.4	35.7	19.0	65.5	81.0	94.0	81.0	90.5	44.0	66.7	35.7	48.8	9.5		
90.2	53.0	73.2	67.7	43.3	13.4	64.0	81.7	80.5	85.4	82.3	37.8	48.8	26.2	52.4	37.2		
80.9	51.3	64.3	60.0	34.8	17.4	55.7	67.8	67.8	73.9	62.6	20.0	32.2	11.3	20.9	2.6		
82.7	56.5	63.7	60.1	44.6	19.0	54.8	73.8	84.5	77.4	76.2	42.9	54.2	16.1	40.5	14.9		
81.5	44.4	48.1	48.1	29.6	14.8	40.7	74.1	77.8	64.8	66.7	9.3	48.1	14.8	18.5	3.7		
82.6	52.4	63.9	63.9	37.2	15.9	61.4	77.3	78.2	74.1	75.2	33.3	47.4	20.4	39.9	14.1		
83.1	55.1	59.3	68.6	28.8	13.6	56.8	76.3	78.8	67.8	76.3	29.7	36.4	15.3	34.7	10.2		
89.1	56.2	70.8	69.3	35.0	19.0	63.5	78.8	82.5	77.4	74.5	43.1	58.4	24.8	39.4	10.9		
80.8	54.8	56.7	63.5	36.5	6.7	51.9	70.2	74.0	67.3	70.2	19.2	51.0	6.7	31.7	7.7		
83.3	50.0	70.0	66.7	36.7	20.0	70.0	93.3	83.3	90.0	90.0	46.7	63.3	53.3	80.0	50.0		
80.2	50.0	67.7	61.5	40.6	16.7	64.6	81.3	78.1	76.0	79.2	35.4	34.4	12.5	38.5	8.3		
88.6	63.6	79.5	70.5	38.6	27.3	68.2	86.4	75.0	79.5	81.8	52.3	61.4	43.2	68.2	36.4		
80.0	60.0	76.7	60.0	33.3	23.3	73.3	73.3	80.0	76.7	80.0	46.7	70.0	36.7	60.0	23.3		
78.0	50.0	69.5	48.8	51.2	17.1	65.9	80.5	79.3	78.0	70.7	34.1	51.2	28.0	32.9	19.5		
76.8	36.2	40.6	62.3	34.8	11.6	55.1	66.7	71.0	68.1	69.6	14.5	26.1	7.2	27.5	4.3		
85.7	28.6	42.9	71.4	57.1	28.6	71.4	71.4	100.0	85.7	71.4	28.6	57.1	14.3	42.9	14.3		
82.6	54.9	65.1	65.5	38.8	16.7	65.8	81.0	83.4	77.9	75.5	32.0	50.3	19.4	40.8	10.1		
80.0	52.6	65.1	67.9	40.0	20.5	65.6	80.5	85.1	76.3	75.3	38.6	50.2	27.0	34.9	10.2		
76.5	43.1	58.8	51.0	35.3	13.7	66.7	76.5	86.3	64.7	68.6	29.4	45.1	19.6	39.2	5.9		
91.4	61.4	75.7	61.4	34.3	20.0	67.1	88.6	88.6	87.1	74.3	55.7	64.3	24.3	50.0	12.9		
87.2	56.9	67.0	62.8	39.4	12.2	66.5	77.1	80.9	79.8	79.3	22.3	44.1	20.2	47.3	6.9		
70.2	54.8	59.5	69.0	34.5	16.7	66.7	78.6	78.6	78.6	78.6	21.4	38.1	9.5	31.0	2.4		
83.3	57.4	71.3	78.7	35.2	16.7	66.7	83.3	87.0	72.2	75.9	42.6	46.3	8.3	41.7	24.1		
83.1	55.9	59.3	64.4	49.2	18.6	66.1	79.7	83.1	81.4	71.2	20.3	76.3	20.3	30.5	15.3		
85.4	54.4	59.2	59.2	41.7	15.5	62.1	86.4	79.6	81.6	72.8	25.2	54.4	17.5	48.5	4.9		
84.2	56.0	68.1	83.1	39.0	16.5	82.4	79.6	81.7	78.7	77.4	38.3	54.1	22.3	39.4	13.3		
86.0	56.2	69.5	64.0	42.0	17.7	63.3	82.3	82.9	76.9	79.7	42.2	53.5	25.3	43.2	15.0		
78.2	53.2	66.9	56.5	35.5	17.7	66.9	66.1	76.6	78.2	77.4	31.5	46.8	17.7	35.5	16.9		
81.5	58.3	67.8	65.9	35.4	14.3	60.2	79.0	81.8	76.1	72.3	30.9	56.7	18.5	32.8	3.5		
75.4	54.1	67.2	63.9	36.1	23.0	67.2	77.0	75.4	77.0	75.4	42.6	52.5	23.0	36.1	11.5		
79.3	47.7	67.2	59.8	37.4	12.1	58.6	82.2	81.0	72.4	78.2	33.9	56.9	19.5	43.7	17.2		
86.3	55.8	69.5	51.6	30.5	9.5	56.8	73.7	77.9	72.6	73.7	21.1	50.5	21.1	11.6	12.6		
90.7	61.7	70.1	72.0	38.3	20.6	63.6	81.3	86.0	83.2	83.2	53.3	57.9	30.8	43.9	10.3		
87.5	78.1	78.1	78.1	40.6	15.6	71.9	93.8	87.5	93.8	84.4	43.8	81.3	15.6	46.9	12.5		
85.3	50.5	54.7	56.8	33.7	11.6	60.0	68.4	77.9	71.6	64.2	35.8	50.5	10.5	43.2	23.2		
79.5	59.1	54.5	56.8	40.9	22.7	61.4	72.7	79.5	79.5	72.7	25.0	47.7	11.4	25.0	6.8		
84.9	57.6	71.1	62.7	38.1	15.9	62.1	81.2	85.1	79.7	82.4	40.5	53.9	25.3	41.1	15.1		
85.6	58.2	72.1	62.4	39.2	17.0	61.9	83.0	86.6	79.8	82.8	40.9	56.4	28.3	42.5	18.1		
84.4	57.5	71.9	69.4	43.8	13.8	64.4	76.9	86.9	82.5	85.0	34.4	47.5	20.0	42.5	8.1		
74.5	38.3	55.3	55.3	44.7	25.5	57.4	78.7	63.8	74.5	74.5	19.1	36.2	6.4	2.1	2.1		
86.7	60.8	75.0	64.2	30.8	14.2	65.8	80.8	89.2	83.3	84.2	44.2	58.3	35.0	49.2	18.3		
90.1	63.0	75.3	50.6	25.9	13.6	61.7	84.0	82.7	82.7	87.7	58.0	61.7	22.2	49.4	14.8		
78.1	54.7	59.4	67.2	39.1	9.4	54.7	75.0	78.1	65.6	65.8	39.1	42.2	10.9	28.1	9.4		
87.8	61.4	74.0	75.5	48.4	20.9	70.5	83.7	81.4	78.0	81.0	43.5	75.3	25.7	47.5	21.2		
83.2	57.6	69.8	68.3	42.8	18.1	65.7	81.0	81.2	77.1	78.7	40.8	60.8	23.8	42.4	16.2		
84.6	57.6	69.7	67.9	43.2	18.4	65.9	81.7	81.2	78.1	78.1	41.7	62.1	26.6	41.1	18.1		

【参考表3】 地方分権研究会結果概況

—地方分権研究会参画県全体(岩手、宮城、和歌山、福岡)における状況—

1 正答率段階ベース比較(正答率60%以上段階, 70%以上段階の問題数とその割合)

(1)小学校

	60%以上段階の問題数					70%以上段階の問題数				
	国語	社会	算数	理科	計	国語	社会	算数	理科	計
4県	23 (74.2%)	22 (75.9%)	30 (88.2%)	25 (87.6%)	100 (76.3%)	17 (54.8%)	19 (65.5%)	24 (70.6%)	17 (45.9%)	77 (58.8%)
宮城県	22 (71.0%)	22 (75.9%)	28 (82.4)	24 (84.9%)	96 (73.3%)	17 (54.8%)	18 (62.1%)	20 (58.8%)	16 (49.2%)	71 (54.2%)

(注)表中「4県」とは4県平均の状況(以下全て同様)

(2)中学校

	60%以上段階の問題数					70%以上段階の問題数						
	国語	社会	数学	理科	英語	計	国語	社会	数学	理科	英語	計
4県	25 (80.6%)	11 (33.3%)	14 (51.9%)	12 (31.6%)	22 (73.3%)	84 (52.8%)	17 (54.8%)	5 (15.2%)	10 (37.0%)	8 (21.1%)	17 (56.7%)	57 (35.8%)
宮城県	24 (77.4%)	11 (33.3%)	13 (48.1%)	12 (31.6%)	22 (73.3%)	82 (51.6%)	18 (58.1%)	6 (15.2%)	10 (37.0%)	8 (21.1%)	17 (56.7%)	58 (38.5%)

2 期待正答率ベース比較

(1)小学校

【国語】

領域別

区分	県名	問題数 (小問題)	期待正答率	期待正答率と	小計	期待正答率
			を上回るものと 考えられるもの (A)	同等度と考 えられるもの (B)		を下回るものと 考えられるもの (C)
話すこと・聞くこと	4県	3	3	0	3	0
	宮城県	3	3	0	3	0
書くこと	4県	3	0	2	2	1
	宮城県	3	0	2	2	1
読むこと	4県	10	2	3	5	5
	宮城県	10	2	3	5	5
言語事項	4県	15	5	3	8	7
	宮城県	15	5	2	7	8
計	4県	31	10	8	18	13
	宮城県	31	10	7	17	14

【算数】

領域別

区分	県名	問題数 (小問題)	期待正答率	期待正答率と	小計	期待正答率
			を上回るものと 考えられるもの (A)	同等度と考 えられるもの (B)		を下回るものと 考えられるもの (C)
数と計算	4県	16	5	5	10	6
	宮城県	16	5	4	9	7
量と測定	4県	3	3	0	3	0
	宮城県	3	3	0	3	0
図形	4県	8	3	3	6	2
	宮城県	8	2	3	5	3
数量関係	4県	7	3	2	5	2
	宮城県	7	2	3	5	2
計	4県	34	14	10	24	10
	宮城県	34	12	10	22	12

(2)中学校

【国語】

領域別

区分	県名	問題数 (小問題)	期待正答率	期待正答率と	小計	期待正答率
			を上回るものと 考えられるもの (A)	同等度と考 えられるもの (B)		を下回るものと 考えられるもの (C)
話すこと・聞くこと	4県	3	3	0	3	0
	宮城県	3	3	0	3	0
書くこと	4県	3	0	1	1	2
	宮城県	3	0	1	1	2
読むこと	4県	10	2	3	5	5
	宮城県	10	2	3	5	5
言語事項	4県	15	8	3	11	4
	宮城県	15	8	1	9	6
計	4県	31	13	7	20	11
	宮城県	31	13	5	18	13

【数学】

領域別

区分	県名	問題数 (小問題)	期待正答率	期待正答率と	小計	期待正答率
			を上回るものと 考えられるもの (A)	同等度と考 えられるもの (B)		を下回るものと 考えられるもの (C)
数と式	4県	14	0	6	6	8
	宮城県	14	0	5	5	9
図形	4県	6	0	0	0	6
	宮城県	6	0	0	0	6
数量関係	4県	7	0	4	4	3
	宮城県	7	0	3	3	4
計	4県	27	0	10	10	17
	宮城県	27	0	8	8	19

【英語】

領域別

区分	県名	問題数 (小問題)	期待正答率	期待正答率と	小計	期待正答率
			を上回るものと 考えられるもの (A)	同等度と考 えられるもの (B)		を下回るものと 考えられるもの (C)
聞くこと	4県	10	6	3	9	1
	宮城県	10	7	1	8	2
読むこと	4県	15	2	4	6	9
	宮城県	15	4	2	6	9
書くこと	4県	5	1	0	1	4
	宮城県	5	1	0	1	4
計	4県	30	9	7	16	14
	宮城県	30	12	3	15	15

【社会】

領域別

区分	県名	問題数 (小問題)	期待正答率	期待正答率と	小計	期待正答率
			を上回るものと 考えられるもの (A)	同等度と考 えられるもの (B)		を下回るものと 考えられるもの (C)
地域の人口の安全な生活	4県	6	3	3	6	0
	宮城県	6	2	4	6	0
地域の暮らしの暮らしの暮らし	4県	4	4	0	4	0
	宮城県	4	4	0	4	0
地域の地形・土地利用	4県	9	2	3	5	4
	宮城県	9	2	2	4	5
我が国の産業	4県	10	4	2	6	4
	宮城県	10	4	1	5	5
計	4県	29	13	8	21	8
	宮城県	29	12	7	19	10

【理科】

領域別

区分	県名	問題数 (小問題)	期待正答率	期待正答率と	小計	期待正答率
			を上回るものと 考えられるもの (A)	同等度と考 えられるもの (B)		を下回るものと 考えられるもの (C)
地域と宇宙	4県	11	5	0	5	6
	宮城県	11	5	0	5	6
物質とエネルギー	4県	13	2	4	6	7
	宮城県	13	2	4	6	7
生物とその環境	4県	13	5	4	9	4
	宮城県	13	4	3	7	6
計	4県	37	12	8	20	17
	宮城県	37	11	7	18	19

【社会】

領域別

区分	県名	問題数 (小問題)	期待正答率	期待正答率と	小計	期待正答率
			を上回るものと 考えられるもの (A)	同等度と考 えられるもの (B)		を下回るものと 考えられるもの (C)
朝鮮と日本の地理	4県	10	0	1	1	9
	宮城県	10	0	1	1	9
地域の産業	4県	8	1	2	3	5
	宮城県	8	1	2	3	5
近代までの日本	4県	6	0	2	2	4
	宮城県	6	0	1	1	5
近世の日本	4県	5	0	0	0	5
	宮城県	5	0	0	0	5
近世の日本	4県	4	0	1	1	3
	宮城県	4	0	1	1	3
計	4県	33	1	6	7	26
	宮城県	33	1	5	6	27

【理科】

領域別

区分	県名	問題数 (小問題)	期待正答率	期待正答率と	小計	期待正答率
			を上回るものと 考えられるもの (A)	同等度と考 えられるもの (B)		を下回るものと 考えられるもの (C)
身近な物質	4県	6	0	1	1	5
	宮城県	6	0	1	1	5
身のまわりの物質	4県	6	0	0	0	6
	宮城県	6	0	0	0	6
電流とその利用	4県	7	1	0	1	6
	宮城県	7	1	0	1	6
植物の生活と観察	4県	8	1	1	2	6
	宮城県	8	1	1	2	6
動物の生活と観察	4県	5	3	2	5	0
	宮城県	5	3	0	3	2
大地の変化	4県	6	1	0	1	5
	宮城県	6	1	0	1	5
計	4県	38	6	4	10	28
	宮城県	38	6	2	8	30

(3) (1)(2)累計

校種	教科	問題数 (小問題)	期待正答率を上回るもの(A)		期待正答率と同等度と考えられるもの(B)		期待正答率を下回るもの(C)		期待正答率と同等度以上(A)+(B)	
			4県	宮城県	4県	宮城県	4県	宮城県	4県	宮城県
小学校5年	国語	31	10	10	8	7	13	14	18(58.1%)	17(54.8%)
	社会	29	13	12	8	7	8	10	21(72.4%)	19(65.5%)
	算数	34	14	12	10	10	12	24(70.6%)	22(64.7%)	
	理科	37	12	11	8	7	17	19	20(54.1%)	15(48.6%)
	小計	131	49	45	34	31	48	55	83(63.4%)	78(59.0%)
中学校2年	国語	31	13	13	7	5	11	13	20(64.5%)	18(58.1%)
	社会	33	1	1	8	5	26	27	7(21.2%)	6(18.2%)
	数学	27	0	0	10	8	17	19	10(37.0%)	8(29.6%)
	理科	38	6	6	4	2	28	30	10(26.3%)	8(21.1%)
	英語	30	9	12	7	3	14	15	18(60.0%)	15(50.0%)
計	159	29	32	34	23	98	104	63(39.6%)	55(34.6%)	
計		290	78	77	68	54	144	159	146(50.3%)	131(45.2%)

### Ⅲ 学習意識調査結果

# 小・中学校「学習意識調査」調査票

1 (1)から(3)までのそれぞれについて、あなたの考えに一番近いものをつつ選んで、その番号に○をつけてください。

(1)「勉強は大切だ。」

- 1 そう思う。
- 2 どちらかといえばそう思う。
- 3 どちらかといえばそう思わない。
- 4 そう思わない。
- 5 分らない。

(2)「勉強すれば、私のふだんの生活や社会に出て役立つ。」

- 1 そう思う。
- 2 どちらかといえばそう思う。
- 3 どちらかといえばそう思わない。
- 4 そう思わない。
- 5 分らない。

(3)「ふだんの生活や社会に出て役立つよう、勉強したい。」

- 1 そう思う。
- 2 どちらかといえばそう思う。
- 3 どちらかといえばそう思わない。
- 4 そう思わない。
- 5 分らない。

2 (1)から(4)までのそれぞれについて、あてはまるものを選んで、その番号に○をつけてください。

(1)「学校の授業がどの程度分かりますか。」

- ※自分に一番近いものをつつ選んでください。
- 1 よく分かる。
  - 2 だいたい分かる。
  - 3 分かることと分からないことが半分くらいずつある。
  - 4 分からないことが多い。
  - 5 ほとんど分からない。

(2)「授業の中で分からないことがあつたら、どうすることが多いですか。」

- ※自分にあてはまるものをつつ選んでください。
- 1 その場で先生にたずねる。
  - 2 授業が終わってから先生にたずねに行く。
  - 3 友人にたずねる。
  - 4 家族の人にたずねる。
  - 5 塾や家庭教師の先生にたずねる。
  - 6 自分で調べる。
  - 7 そのままにしておく。

(3)「授業が始まる前に教科書などを出し、先生を持っていきますか。」

- ※自分に一番近いものをつつ選んでください。
- 1 必ずしている。
  - 2 だいたいしている。
  - 3 していないことが多い。
  - 4 全くしていない。

(4)「学校に持っていくものを、前日か、その日の朝に確認しますか。」

- ※自分に一番近いものをつつ選んでください。
- 1 必ず確認する。
  - 2 だいたい確認する。
  - 3 確認していないことが多い。
  - 4 全くしない、または、ほとんど確認しない。

3 (1)から(8)までのそれぞれについて、あてはまるものを選んで、その番号に○をつけてください。  
(1)「学校以外に、1日にだいたいどのくらい勉強しますか。」(土曜日、日曜日は除いてください。)

※下のア、イ両方に答えてください。

※自分に一番近いものをつつ選んでください。

ア	イ
塾で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間を含めてください。	塾で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間を含めてください。
1 全くしない、または、ほとんどしない。	1 全くしない、または、ほとんどしない。
2 30分より少ない。	2 30分より少ない。
3 30分以上、1時間より少ない。	3 30分以上、1時間より少ない。
4 1時間以上、2時間より少ない。	4 1時間以上、2時間より少ない。
5 2時間以上、3時間より少ない。	5 2時間以上、3時間より少ない。
6 3時間以上。	6 3時間以上。

(2)「土曜日、日曜日には、1日にだいたいどのくらい勉強しますか。」

※下のア、イ両方に答えてください。

※自分に一番近いものをつつ選んでください。

ア	イ
塾で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間を含めてください。	塾で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間を含めてください。
1 全くしない、または、ほとんどしない。	1 全くしない、または、ほとんどしない。
2 30分より少ない。	2 30分より少ない。
3 30分以上、1時間より少ない。	3 30分以上、1時間より少ない。
4 1時間以上、2時間より少ない。	4 1時間以上、2時間より少ない。
5 2時間以上、3時間より少ない。	5 2時間以上、3時間より少ない。
6 3時間以上。	6 3時間以上。

(3)「次の各教科について、塾で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしているものがあれば、その内容はどれに近いですか。」

※自分に一番近いものをつつ選んでください。ただし、英語は中学生のみ答えてください。

	学校の勉強より、進んだ内容や、むしろ詳しい内容	学校の勉強でよく分からなかった内容	左の内容のどちらとも言えない	塾で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしていない
国語	1	2	3	4
社会	1	2	3	4
算数・数学	1	2	3	4
理科	1	2	3	4
英語	1	2	3	4

(4) 「学校から宿題が出されていますか。」

※自分にあてはまるものを二つ選んでください。

- 1 ほとんど毎日出ている。 3 週に1回ぐら出ている。
- 2 週に3回ぐら出ている。 4 ほとんど出していない。

(5) 「学校からどんな教科の宿題がよく出されていますか。」

※よく出されているものをすべて選んでください。

- 1 国語
- 2 社会
- 3 算数・数学
- 4 理科
- 5 英語 (中学生のみ)
- 6 その他の教科

(6) 「ふだん家庭でしている勉強は、次のうちどれに近いですか。」

※自分にあてはまるものをすべて選んでください。

- 1 宿題が**出**れはする。
- 2 宿題以外に**予習**や**復習**をする。
- 3 興味があることについて自分で調べたり、たしかめたりする。
- 4 テストがあれば、それにそなえて勉強する。

(7) 「家庭での学習で分らないときよく教えてもらう人はだれですか。」

※自分にあてはまるものを二つ選んでください。

- 1 父や母。
- 2 父母以外の家の人。
- 3 家庭教師や塾の先生。
- 4 だれもない。

(4) (1)から(3)までのそれぞれについて、あてはまるものを選んで、その番号に○をつけてください。

(1) 「学校以外で1日にだいたいどのくらい読書を読みますか。」

(教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます。土曜日、日曜日は除いてください。)

※自分にあてはまるものを二つ選んでください。

- 1 全く、または、ほとんどしない。
- 2 10分より少ない。
- 3 10分以上、30分より少ない。
- 4 30分以上、1時間より少ない。
- 5 1時間以上。

(2) 「土曜日、日曜日には、1日にだいたいどのくらい読書を読みますか。」

(教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます。)

※自分にあてはまるものを二つ選んでください。

- 1 全く、または、ほとんどしない。
- 2 10分より少ない。
- 3 10分以上、30分より少ない。
- 4 30分以上、1時間より少ない。
- 5 1時間以上。

(3) 「世の中のいろいろなるできごとを知ったり、情報を得たりするため、ふだん行っていることは何ですか。」

※自分にあてはまるものをすべて選んでください。

- 1 テレビのニュース番組を見る。
- 2 新聞を読む。
- 3 インターネットを利用する。
- 4 本や雑誌を読む。
- 5 特に何もしない。

## 小・中学校「学習意識調査」結果と考察

### 1 意識調査のねらいと内容

以下の4点について意識調査を実施し、児童生徒の学習に対する意識や実態を把握し、今後の児童生徒の学習指導等に生かす。

- ・ 児童生徒自身が学習に対してどのような意識をもっているかを把握する。
- ・ 学校における児童生徒の学習に関する実態を把握する。
- ・ 家庭における児童生徒の学習に関する実態を把握する。
- ・ 授業以外の学習に対する取組について児童生徒の実態を把握する。

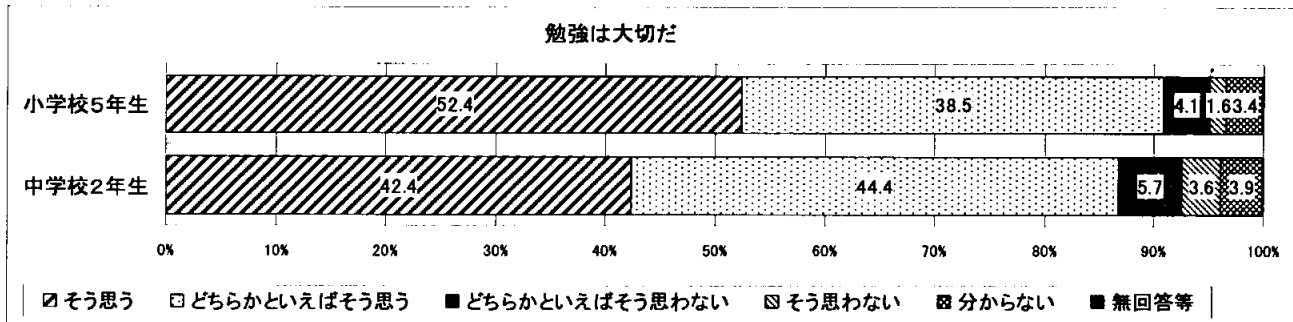
### 2 結果と考察（以下各数表において（ ）内は、前年度＝平成15年度調査である）

#### <第1問> 「学習に対する意識」に係る調査事項

##### (1) 「学習の大切さ」をどの程度考えているかをみる質問

（単位：％）

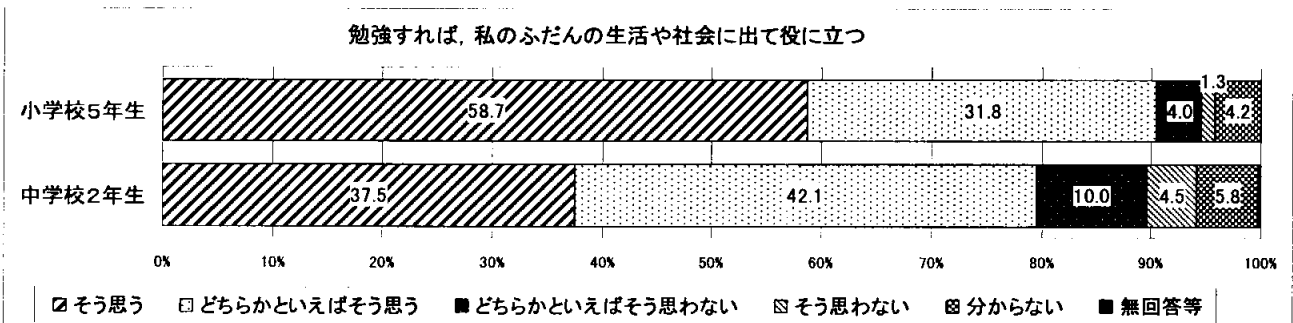
1	勉強は大切だ	小学校5年生	中学校2年生
(1)	1 そう思う	52.4(51.4)	42.4(42.5)
	2 どちらかといえばそう思う	38.5(39.4)	44.4(45.0)
	3 どちらかといえばそう思わない	4.1 (3.9)	5.7 (5.6)
	4 そう思わない	1.6 (1.5)	3.6 (3.2)
	5 分からない	3.4 (3.8)	3.9 (3.6)
	6 無回答等	0.0 (0.0)	0.0 (0.1)



##### (2) 「学習する理由」をどの程度考えているかをみる質問

（単位：％）

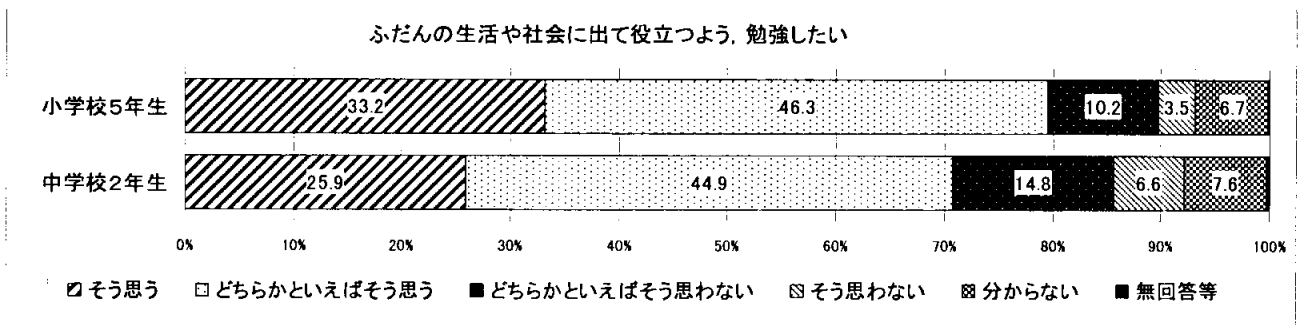
1	勉強すれば、私のふだんの生活や社会に出て役に立つ	小学校5年生	中学校2年生
(2)	1 そう思う	58.7(59.7)	37.5(39.6)
	2 どちらかといえばそう思う	31.8(31.7)	42.1(43.1)
	3 どちらかといえばそう思わない	4.0 (3.2)	10.0 (8.2)
	4 そう思わない	1.3 (1.2)	4.5 (3.7)
	5 分からない	4.2 (4.2)	5.8 (5.3)
	6 無回答等	0.0 (0.0)	0.1 (0.1)



(3) 「学習意欲」がどの程度かをみる質問

(単位：%)

1	ふだんの生活や社会に出て役立つよう、勉強したい	小学校5年生	中学校2年生
(3)	1 そう思う	33.2(31.4)	25.9(26.4)
	2 どちらかといえばそう思う	46.3(47.2)	44.9(46.2)
	3 どちらかといえばそう思わない	10.2(10.6)	14.8(13.9)
	4 そう思わない	3.5 (3.0)	6.6 (6.0)
	5 分からない	6.7 (7.7)	7.6 (7.4)
	6 無回答等	0.1 (0.1)	0.2 (0.1)



【考察】

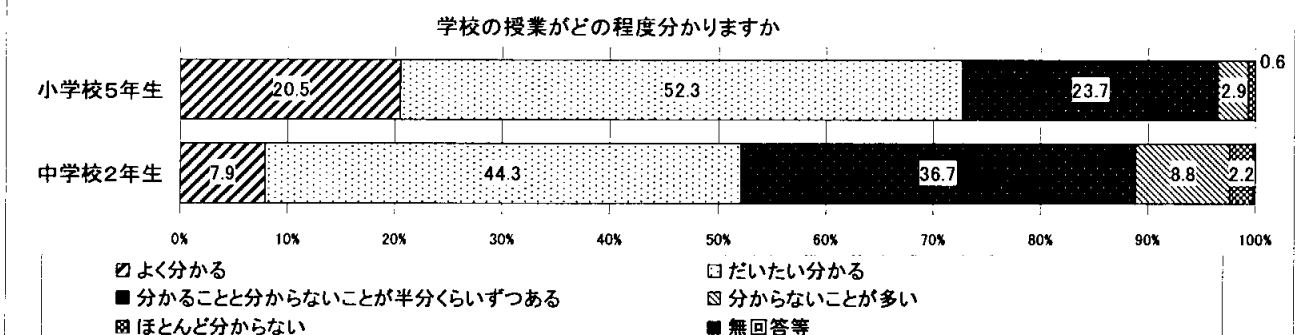
- ① 「勉強は大切だ」の質問では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した小5は90.9%（前年度90.8%）、中2では86.8%（前年度87.5%）の割合になっている。
- ② 「勉強すれば、私のふだんの生活や社会に出て役立つ」の質問では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した小5は90.5%（前年度91.4%）、中2では79.6%（前年度82.7%）の割合になっている。
- ③ 「ふだんの生活や社会に出て役立つよう、勉強したい」の質問では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した小5は79.5%（前年度78.6%）、中2では70.8%（前年度72.6%）の割合になっている。
- ④ 学習に対する意識については、昨年同様肯定的にとらえ、勉強はふだんの生活や社会に出て役立つから大切だと考え、そのために勉強したいという意欲をもっている児童生徒が多い。

<第2問> 「学校での学習状況」に係る調査事項

(1) 「授業の理解」がどの程度かをみる質問

(単位：%)

2	学校の授業がどの程度分かりますか	小学校5年生	中学校2年生
(1)	1 よく分かる	20.5(17.1)	7.9 (6.2)
	2 だいたい分かる	52.3(51.0)	44.3(41.5)
	3 分かることと分からないことが半分くらいずつある	23.7(28.0)	36.7(40.2)
	4 分からないことが多い	2.9 (3.1)	8.8 (9.9)
	5 ほとんど分からない	0.6 (0.8)	2.2 (2.1)
	6 無回答等	0.0 (0.0)	0.1 (0.1)

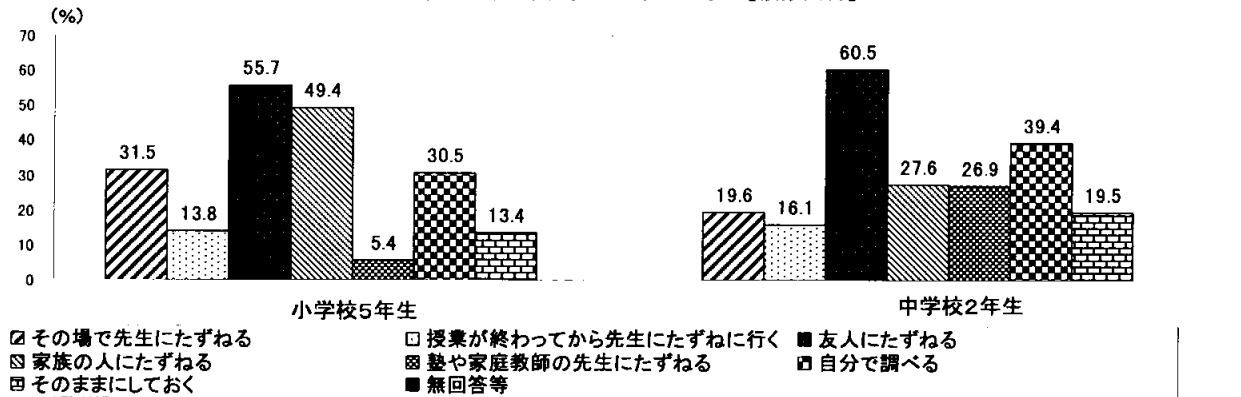


(2) 「分からないことへの対応の仕方」をどうしているかをみる質問

(単位：%)

2	授業の中で分からないことがあったら、どうすることが多いですか【複数回答】	小学校5年生	中学校2年生
(2)	1 その場で先生にたずねる	31.5(33.5)	19.6(23.6)
	2 授業が終わってから先生にたずねに行く	13.8(13.1)	16.1(15.5)
	3 友人にたずねる	55.7(62.2)	60.5(65.2)
	4 家族の人にたずねる	49.4(55.0)	27.6(28.0)
	5 塾や家庭教師の先生にたずねる	5.4 (5.1)	26.9(26.4)
	6 自分で調べる	30.5(31.9)	39.4(44.2)
	7 そのままにしておく	13.4(13.0)	19.5(20.8)
	8 無回答等	0.0 (0.1)	0.0 (0.2)

授業の中で分からないことがあったら、どうすることが多いですか【複数回答】

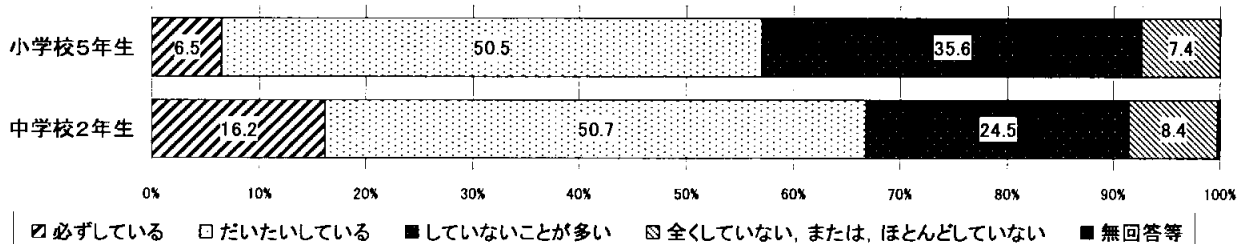


(3) 「学習習慣（授業を受ける構え）」がどの程度身に付いているかをみる質問

(単位：%)

2	授業が始まる前に教科書などを出し、先生を待っていますか	小学校5年生	中学校2年生
(3)	1 必ずしている	6.5 (5.3)	16.2(14.1)
	2 だいたいしている	50.5(48.4)	50.7(50.4)
	3 していないことが多い	35.6(38.6)	24.5(26.5)
	4 全くしていない、または、ほとんどしていない	7.4 (7.7)	8.4 (8.9)
	5 無回答等	0.0 (0.0)	0.2 (0.1)

授業が始まる前に教科書などを出し、先生を待っていますか

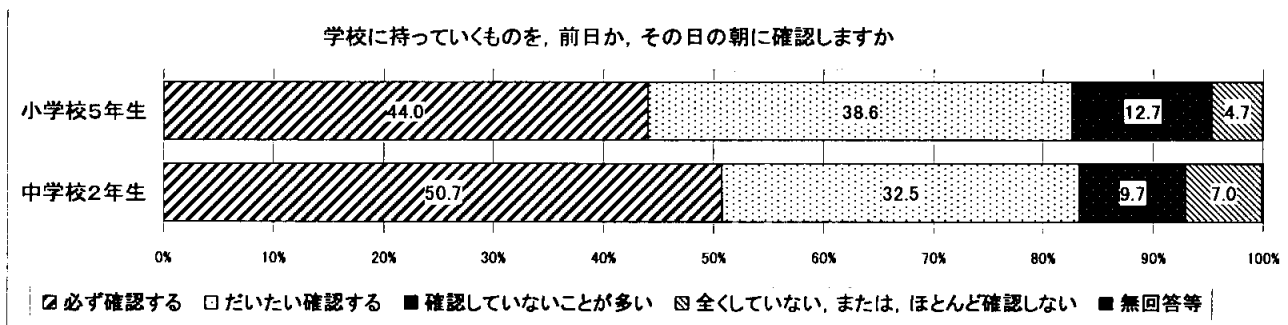




(4) 「学習の姿勢(教材等の準備)」がどの程度身に付いているかをみる質問

(単位：%)

2	学校に持っていくものを、前日か、その日の朝に確認しますか	小学校5年生	中学校2年生
(4)	1 必ず確認する	44.0(40.4)	50.7(49.6)
	2 だいたい確認する	38.6(41.3)	32.5(33.0)
	3 確認していないことが多い	12.7(13.0)	9.7(10.5)
	4 全くしていない、または、ほとんど確認しない	4.7(5.0)	7.0(6.8)
	5 無回答等	0.0(0.3)	0.1(0.1)



【考 察】

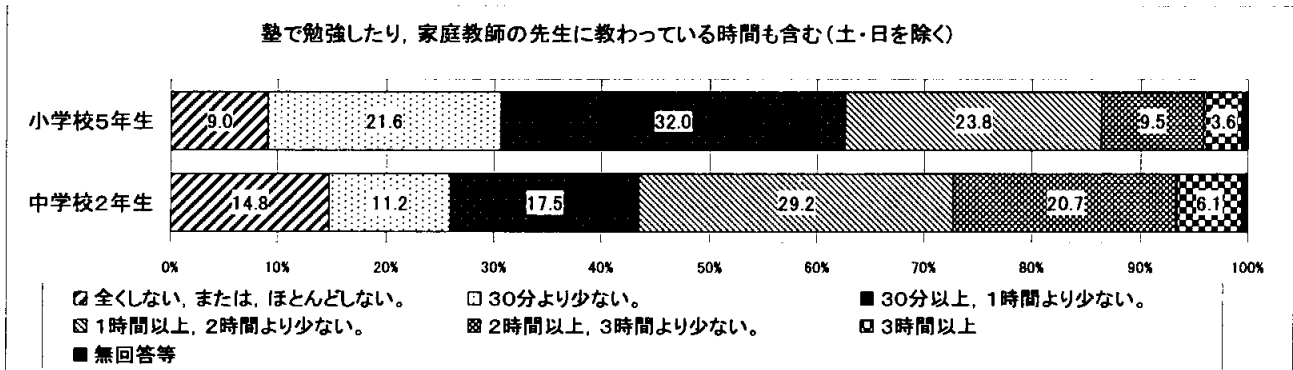
- ① 「学校の授業がどの程度分かりますか」の質問では、「よく分かる」「だいたい分かる」と回答した小5は72.8%（前年度68.1%）、中2では52.2%（前年度47.7%）の割合になっており、いずれも前年度に比べ率が高くなっているが、特に中2では拮抗しており、今後さらに授業理解向上のための各学校での取組が必要である。
- ② 「授業の中で分からないことがあったら、どうすることが多いですか」の質問では、小5は「友人、家族、先生」、中2では「友人、自分、先生」の順になっており、何らかの手だてを取っている児童生徒が多い。また一方で、「そのままにしておく」と回答している児童生徒がいることも分かる。
- ③ 「授業が始まる前に教科書などを出し、先生を待っていますか」の質問では、「必ずしている」「だいたいしている」と回答した小5は57.0%（前年度53.7%）、中2では66.9%（前年度64.5%）の割合になっており、前年度に比べ向上しているが、特に小学校での一層の習慣形成が必要である。
- ④ 「学校に持っていくものを、前日か、その日の朝に確認しますか」の質問では、「必ず確認する」「だいたい確認する」と回答した小5は82.6%（前年度81.7%）、中2も83.2%（前年度82.6%）の割合であり、多くは事前の学習準備を行っている状況にある。

<第3問> 「家庭での学習状況」に係る調査事項

(1) -ア「家庭学習の時間」がどの程度かをみる質問： 土・日除く、塾・家庭教師含む

(単位：%)

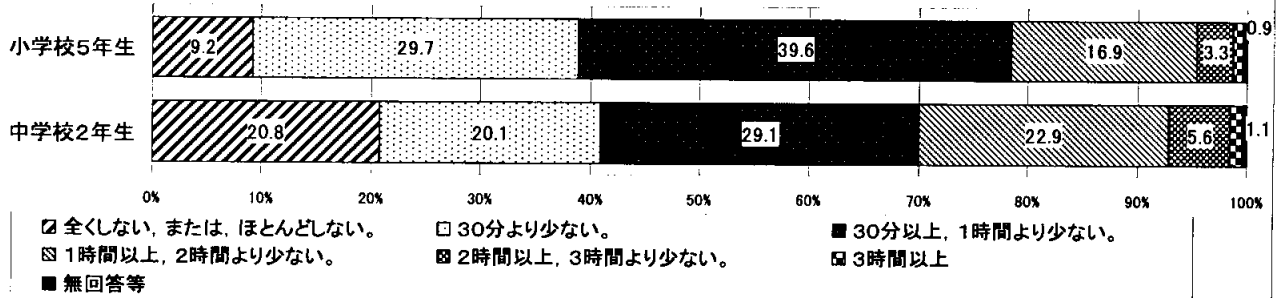
3	学校以外に、1日にだいたいどのくらい勉強しますか	小学校5年生	中学校2年生
(1)	1 全くしない、または、ほとんどしない	9.0(6.9)	14.8(15.6)
ア	2 30分より少ない	21.6(23.2)	11.2(14.0)
	3 30分以上、1時間より少ない	32.0(37.6)	17.5(24.1)
	4 1時間以上、2時間より少ない	23.8(22.6)	29.2(30.4)
	5 2時間以上、3時間より少ない	9.5(7.4)	20.7(13.3)
	6 3時間以上	3.6(2.3)	6.1(2.5)
	7 無回答等	0.5(0.0)	0.5(0.1)



(1) -イ「家庭学習の時間」がどの程度かをみる質問： 土・日除く，塾・家庭教師含まない（単位：％）

3	学校以外に，1日にだいたいどのくらい勉強しますか	小学校5年生	中学校2年生
(1)	1 全くしない，または，ほとんどしない	9.2	20.8
	2 30分より少ない	29.7	20.1
	3 30分以上，1時間より少ない	39.6	29.1
	4 1時間以上，2時間より少ない	16.9	22.9
	5 2時間以上，3時間より少ない	3.3	5.6
	6 3時間以上	0.9	1.1
	7 無回答等	0.4	0.4

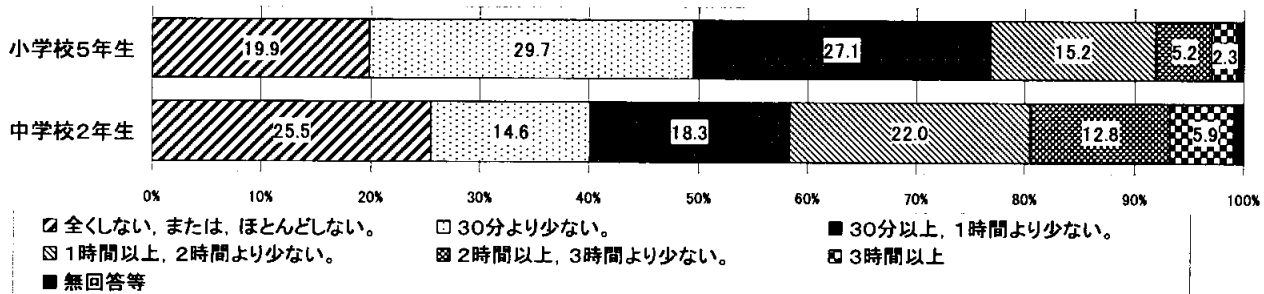
塾で勉強したり，家庭教師の先生に教わっている時間を含まない(土・日を除く)



(2) -ア「家庭学習の時間」がどの程度かをみる質問： 土・日，塾・家庭教師含む（単位：％）

3	学校以外に，1日にだいたいどのくらい勉強しますか	小学校5年生	中学校2年生
(2)	1 全くしない，または，ほとんどしない	19.9	25.5
	2 30分より少ない	29.7	14.6
	3 30分以上，1時間より少ない	27.1	18.3
	4 1時間以上，2時間より少ない	15.2	22.0
	5 2時間以上，3時間より少ない	5.2	12.8
	6 3時間以上	2.3	5.6
	7 無回答等	0.6	0.9

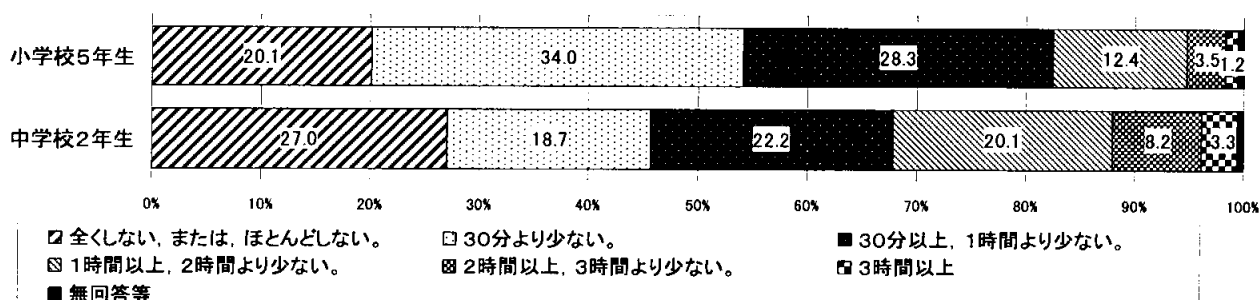
塾で勉強したり，家庭教師の先生に教わっている時間を含む(土・日)



(2) -イ「家庭学習の時間」がどの程度かをみる質問： 土・日、塾・家庭教師含まない (単位：%)

3	学校以外に、1日にだいたいどのくらい勉強しますか	小学校5年生	中学校2年生
(2)	1 全くしない、または、ほとんどしない	20.1	27.0
イ	2 30分より少ない	34.0	18.7
	3 30分以上、1時間より少ない	28.3	22.2
	4 1時間以上、2時間より少ない	12.4	20.1
	5 2時間以上、3時間より少ない	3.5	8.2
	6 3時間以上	1.2	3.3
	7 無回答等	0.5	0.5

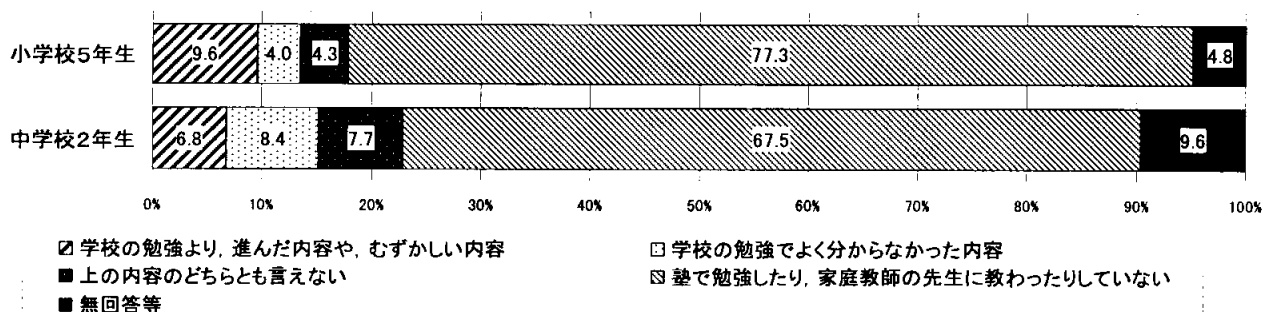
塾で勉強したり、家庭教師の先生に教わっている時間を含まない(土・日)



(3) 「授業以外での学習方法」がどのようなものかをみる質問 (単位：%)

3	国語について、塾で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしているものがあれば、その内容はどれに近いですか	小学校5年生	中学校2年生
国語	1 学校の勉強より、進んだ内容や、むずかしい内容	9.6 (7.9)	6.8 (5.5)
	2 学校の勉強でよく分からなかった内容	4.0 (3.4)	8.4 (8.0)
	3 上の内容のどちらとも言えない	4.3 (4.6)	7.7 (7.5)
	4 塾で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしていない	77.3 (79.8)	67.5 (72.9)
	5 無回答等	4.8 (4.3)	9.6 (6.1)

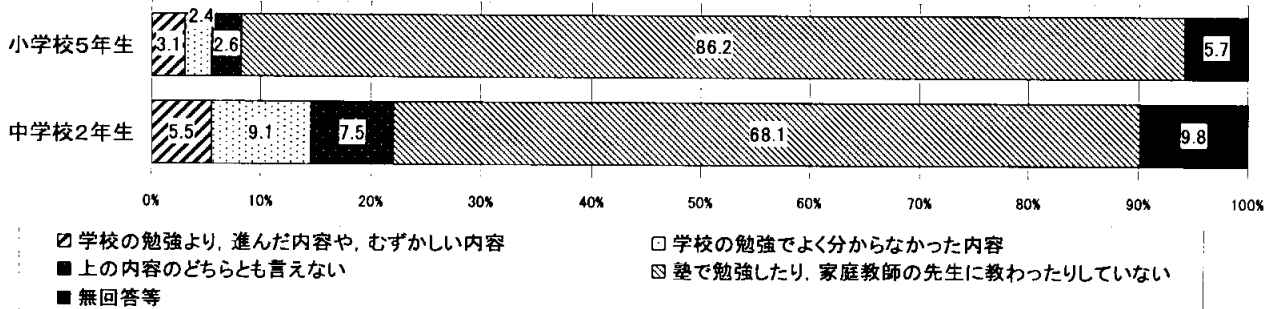
塾で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしているものがあれば、その内容はどれに近いですか(国語)



(単位：%)

3 (3) 社会について、塾で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしているものがあれば、その内容はどれに近いですか		小学校5年生	中学校2年生
1	学校の勉強より、進んだ内容や、むずかしい内容	3.1 (2.4)	5.5 (5.5)
2	学校の勉強でよく分からなかった内容	2.4 (1.9)	9.1 (8.9)
3	上の内容のどちらとも言えない	2.6 (2.8)	7.5 (7.5)
4	塾で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしていない	86.2(88.2)	68.1(72.0)
5	無回答等	5.7 (4.7)	9.8 (6.1)

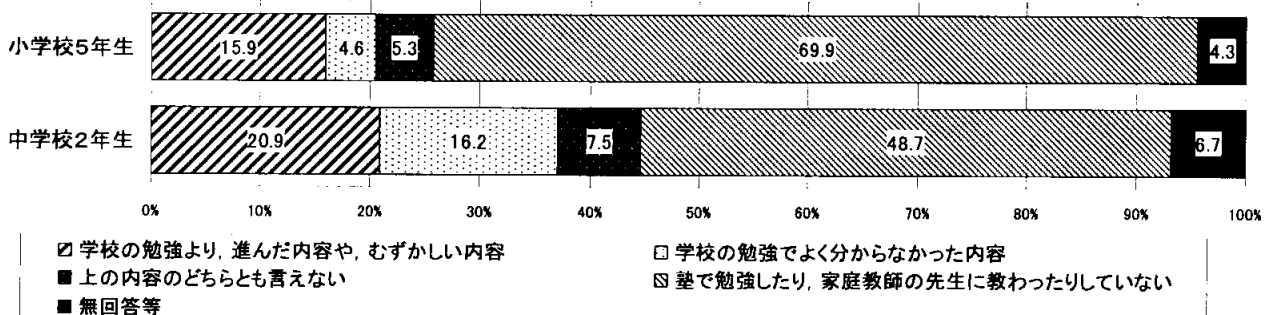
塾で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしているものがあれば、その内容はどれに近いですか(社会)



(単位：%)

3 (3) 算数・数学について、塾で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしているものがあれば、その内容はどれに近いですか		小学校5年生	中学校2年生
1	学校の勉強より、進んだ内容や、むずかしい内容	15.9(14.4)	20.9(19.4)
2	学校の勉強でよく分からなかった内容	4.6 (4.2)	16.2(16.2)
3	上の内容のどちらとも言えない	5.3 (5.5)	7.5 (7.7)
4	塾で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしていない	69.9(71.9)	48.7(52.0)
5	無回答等	4.3 (4.0)	6.7 (4.7)

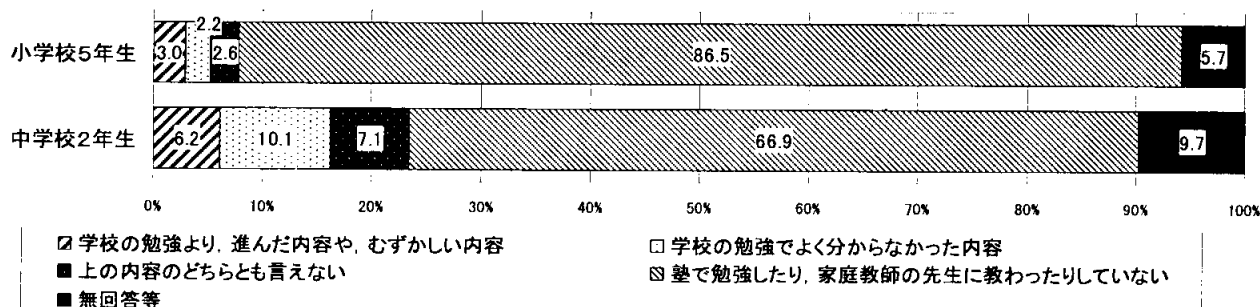
塾で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしているものがあれば、その内容はどれに近いですか(算数・数学)



(単位：%)

3		小学校5年生	中学校2年生
理科	(3)	理科について、塾で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしているものがあれば、その内容はどれに近いですか	
	1	3.0 (2.4)	6.2 (5.5)
	2	2.2 (1.6)	10.1(10.2)
	3	2.6 (2.7)	7.1 (7.1)
	4	86.5(88.5)	66.9(71.1)
	5	5.7 (4.8)	9.7 (6.1)

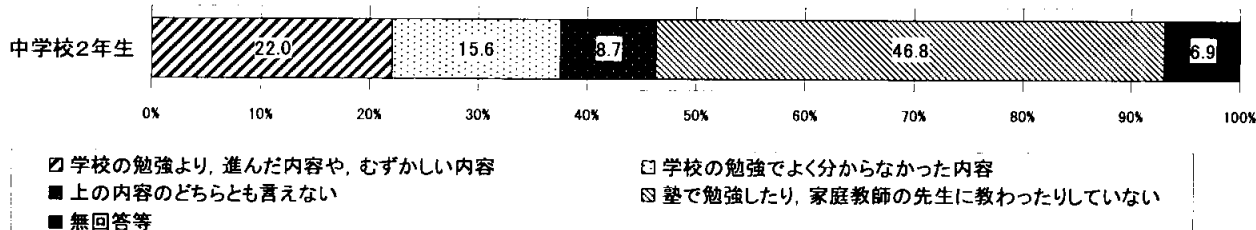
塾で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしているものがあれば、その内容はどれに近いですか(理科)



(単位：%)

3		中学校2年生	
英語	(3)	英語について、塾で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしているものがあれば、その内容はどれに近いですか	
	1	22.0(21.1)	
	2	15.6(15.3)	
	3	8.7 (9.1)	
	4	46.8(50.0)	
	5	6.9 (4.5)	

塾で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしているものがあれば、その内容はどれに近いですか(英語)

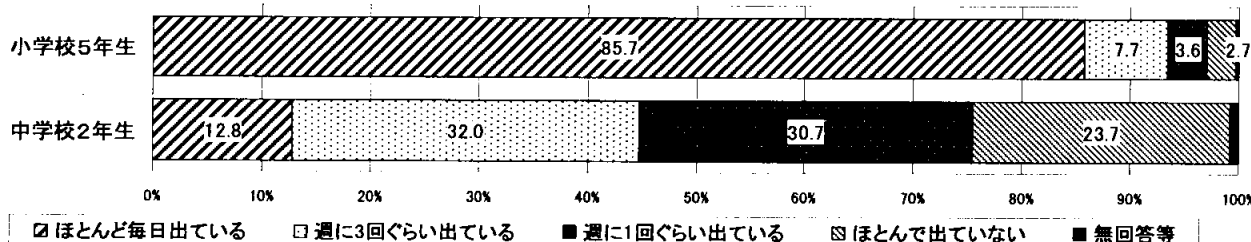


## (4)「学校での宿題」がどの程度かをみる質問

(単位：%)

3		小学校5年生	中学校2年生
(4)	学校から宿題が出されていますか		
	1	85.7(81.5)	12.8(15.6)
	2	7.7(11.3)	32.0(32.1)
	3	3.6 (4.1)	30.7(28.9)
	4	2.7 (3.0)	23.7(22.6)
	5	0.3 (0.1)	0.8 (0.8)

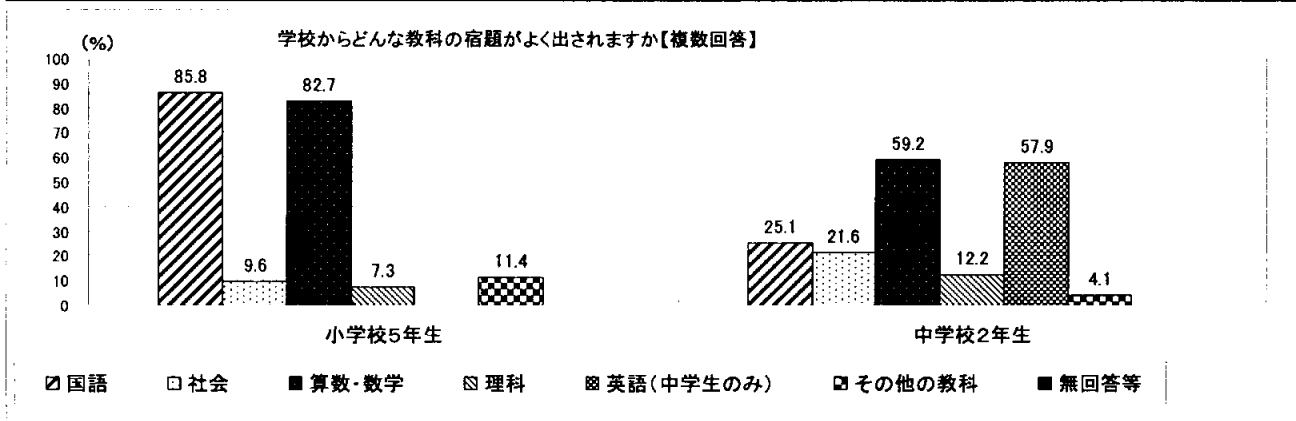
学校から宿題が出されていますか



(5) 「学校での宿題」の教科名をみる質問

(単位：%)

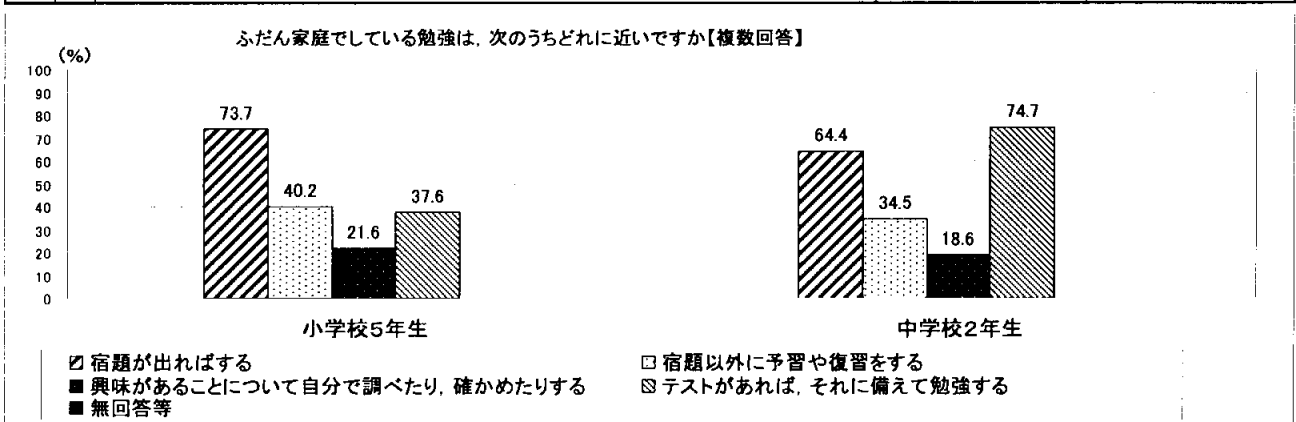
3	学校からどんな教科の宿題がよく出されていますか【複数回答】	小学校5年生	中学校2年生
(5)	1 国語	85.8(87.6)	25.1(24.4)
	2 社会	9.6 (6.7)	21.6(22.3)
	3 算数・数学	82.7(82.4)	59.2(61.2)
	4 理科	7.3 (3.8)	12.2(13.0)
	5 英語(中学生のみ)		57.9(59.2)
	6 その他の教科	11.4 (9.5)	4.1 (3.5)
	7 無回答等	0.0 (0.2)	0.0 (2.7)



(6) 「家庭学習」での学習内容をみる質問

(単位：%)

3	ふだん家庭でしている勉強は、次のうちどれに近いですか【複数回答】	小学校5年生	中学校2年生
(6)	1 宿題が出ればする	73.7(77.6)	64.4(60.2)
	2 宿題以外に予習や復習をする	40.2(38.4)	34.5(33.3)
	3 興味があることについて自分で調べたり、確かめたりする	21.6(21.4)	18.6(17.2)
	4 テストがあれば、それに備えて勉強する	37.6(39.7)	74.7(78.9)
	5 無回答等	0.0 (0.5)	0.0 (1.1)

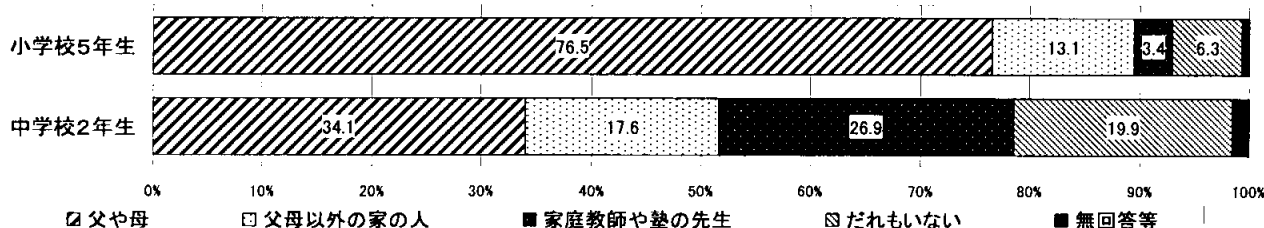


## (7)「家庭学習における環境」の程度をみる質問

(単位：%)

3	家庭での学習で分からないときよく教えてもらう人はだれですか	小学校5年生	中学校2年生
(7)	1 父や母	76.5(75.5)	34.1(32.9)
	2 父母以外の家の人	13.1(14.9)	17.6(18.5)
	3 家庭教師や塾の先生	3.4(3.2)	26.9(26.2)
	4 だれもない	6.3(5.8)	19.9(21.1)
	5 無回答等	0.7(0.6)	1.5(1.3)

家庭での学習で分からないときよく教えてもらう人はだれですか



## 【考 察】

- ① 「学校以外に、1日にだいたいどれくらい勉強しますか」の質問では、土・日を除いて（以下「平日」という）塾で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間を含め、小5は、「1時間未満」が62.6%（前年度67.7%）で、30分より少ないまたはほとんどしないのは30.6%（前年度30.1%）となっている。また、中2では、「1時間未満」は43.5%（前年度53.7%）で、30分より少ないまたはほとんどしないのは26.0%（前年度29.6%）となっており、小中学校とも前年度に比べ、少ない時間の児童生徒の割合が減っている。

なおこれについて、平日塾で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間を含めないと、小5の「1時間未満」は78.5%、30分より少ないまたはほとんどしないのは38.9%、中2では、「1時間未満」70.0%、30分より少ないまたはほとんどしないのは40.9%となっており、塾等での学習を含む数値に比べ少ない時間の児童生徒の割合が高くなっている。土・日においてもこの傾向は同様であり、塾等以外での自主的な学習の促進がさらに求められる。

小中学校とも、前年度よりも数値としてはやや向上し、かつ1時間以上あるいは2時間以上の学習時間を確保している児童生徒の割合は一定程度あるが、今後さらに家庭での学習促進が必要である。

- ② 塾で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりして勉強しているのは、小5は、算数25.8%、国語17.9%、社会8.1%、理科7.8%の割合になっている。国語や算数は、進んだ内容や難しい内容の勉強の割合が高い。中2では、英語46.3%、数学44.6%、国語22.9%、理科23.4%、社会22.1%の割合になっている。英語や数学は、進んだ内容や難しい内容の勉強の割合が高い。これらの傾向は前年度とほぼ同様である。
- ③ 「学校からの宿題が出されていますか」の質問では、「ほとんど毎日出ている」と回答した小5は85.7%（前年度81.5%）、中2では12.8%（前年度15.6%）の割合になっている。また、「週に1回ぐらい出ている」「ほとんど出していない」と回答した小5は6.3%、中2では54.4%の割合になっている。
- ④ 「学校からどんな教科の宿題がよく出されていますか」の質問では、小5は、国語・算数のいずれも80%以上の割合になっている。中2では、数学・英語のいずれも60%程度の割合になっている。社会・理科は、小5より中2の方が割合は高い。

小5は、全ての教科において前回より割合が高くなっている。中2では、国語・その他の教科は前回より割合が高いが社会、数学・理科・英語は前回より割合が低くなっている。

- ⑤ 家庭での学習内容については、小5は「宿題が出ればする」は73.7%、「宿題以外に予習や復習をする」40.2%の順で、中2では「テストがあれば、それに備えて勉強する」74.7%、「宿題が出ればする」64.4%の順である。割合から見て前年度と傾向はほぼ同様である。
- ⑥ 「家庭での学習で分からないときよく教えてもらう人はだれですか」の質問では、「父や母」「父母以外の家の人」と回答した小5は89.6%、中2では51.7%の割合である。「家庭教師や塾の先生」と回答した小5は3.4%、中2では26.9%の割合である。「だれもない」と回答した小5は6.3%、中2では19.9%の割合になっている。この傾向も前年度とほぼ同様である。

- ⑦ 家庭での学習状況については、昨年同様の傾向である。特に、平日の家庭学習について、中2では、塾で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間を含めると、「2時間以上」が昨年より割合が11.0%高くなっている。

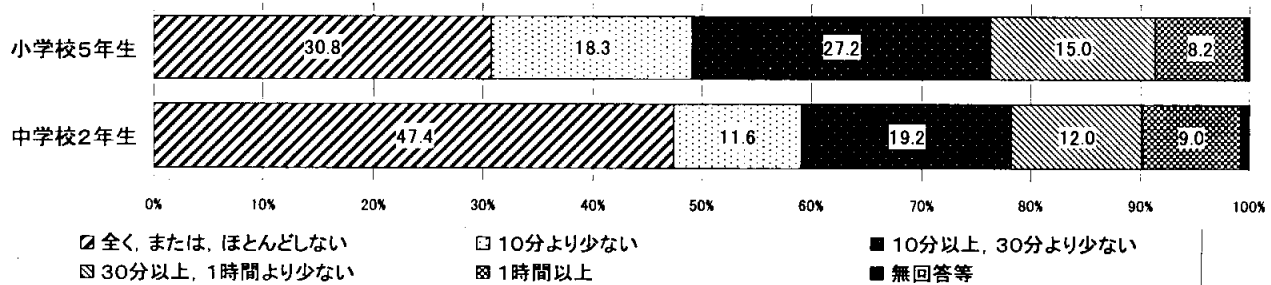
<第4問> 「教科学習以外の取組」に係る調査事項

(1) 平日の「読書時間」がどの程度かをみる質問

(単位：%)

4	学校以外で1日にだいたいどのくらい読書をしますか (土・日を除く)	小学校5年生	中学校2年生
(1)	1 全く、または、ほとんどしない	30.8(31.2)	47.4(49.7)
	2 10分より少ない	18.3(18.5)	11.6(12.0)
	3 10分以上、30分より少ない	27.2(27.2)	19.2(18.2)
	4 30分以上、1時間より少ない	15.0(15.1)	12.0(11.1)
	5 1時間以上	8.2 (7.9)	9.0 (8.2)
	6 無回答等	0.5 (0.1)	0.8 (0.8)

学校以外で1日にだいたいどのくらい読書をしますか(土・日を除く)

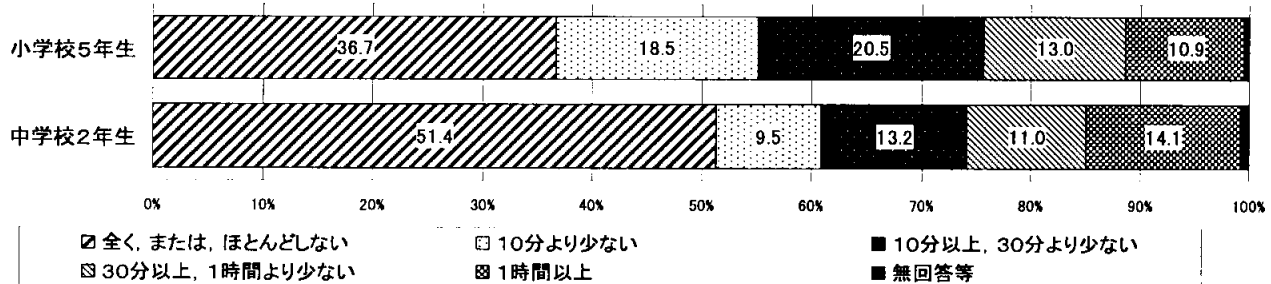


(2) 土・日曜日の「読書時間」がどの程度かをみる質問

(単位：%)

4	土曜日、日曜日には、1日にだいたいどのくらい読書をしますか	小学校5年生	中学校2年生
(2)	1 全く、または、ほとんどしない	36.7	51.4
	2 10分より少ない	18.5	9.5
	3 10分以上、30分より少ない	20.5	13.2
	4 30分以上、1時間より少ない	13.0	11.0
	5 1時間以上	10.9	14.1
	6 無回答等	0.4	0.8

土曜日、日曜日には、1日にだいたいどのくらい読書をしますか



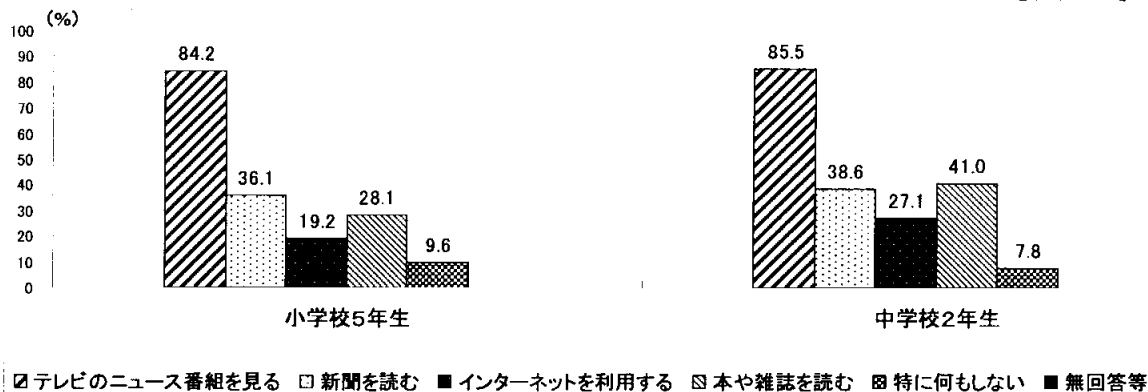


## (3) 「情報を得るための手段」が何であるかをみる質問

(単位：%)

4 (3)	世の中のいろいろなできごとを知ったり、情報を得たりするため、ふだん行っていることは何ですか【複数回答】	小学校5年生	中学校2年生
1	テレビのニュース番組を見る	84.2(80.4)	85.5(83.9)
2	新聞を読む	36.1(35.4)	38.6(34.6)
3	インターネットを利用する	19.2(16.4)	27.1(19.7)
4	本や雑誌を読む	28.1(29.5)	41.0(41.1)
5	特に何もしない	9.6(12.1)	7.8(9.3)
6	無回答等	0.0(0.4)	0.0(0.8)

世の中のいろいろなできごとを知ったり、情報を得たりするため、ふだん行っていることは何ですか【複数回答】



## 【考 察】

- ① 「学校以外で1日にだいたいどのくらい読書をしますか」の質問では、平日の学校以外の読書時間が「30分未満」は、小5は76.3%（前年度76.9%）、中2では78.2%（前年度79.9%）の割合になっている。「全く、または、ほとんどしない」と回答した小5は30.8%（前年度31.2%）、中2では47.4%（前年度49.71%）の割合になっている。いずれも若干の向上は見られるが、家庭での読書不足の傾向が見られ、小5より中2でより顕著である。
- ② 「土曜日、日曜日には1日にだいたいどのくらい読書をしますか」の質問では、「30分未満」は、小5は75.7%、中2では74.1%の割合になっている。平日の読書時間と比較すると、「全く、または、ほとんどしない」及び「1時間以上」についての割合が高くなっているため、土・日の読書時間については、二極化する傾向が見られる。
- ③ 「世の中のいろいろなできごとを知ったり、情報を得たりするため、ふだん行っていることは何ですか」の質問では、「テレビのニュース番組を見る」と回答した児童生徒が圧倒的に多く、小5・中2とも80%以上の割合になっている。
- ④ 情報を得る手段は、小5は「テレビ、新聞、本や雑誌」の順であるが、中2では「テレビ、本や雑誌、新聞」の順になり、本や雑誌の割合が小5より高くなっている。
- ⑤ 「インターネットを利用する」と回答した小5は19.2%（前年度16.4%）、中2では27.1%（前年度19.7%）の割合になっている。
- ⑥ 昨年度の調査結果と比較すると、平日の読書時間については、大きな変化は見られない。情報を得るための手段については、「テレビ」「新聞」「インターネット」が小5・中2ともに高くなっている。また、「特に何もしない」は、小5・中2ともに低くなっており、何らかの方法で情報を得ようとしている児童生徒が増加する傾向が見られる。

## 3 意識調査のまとめ

今回の調査では、昨年度の調査結果と同様に児童生徒の多くは学習することの意義や必要性を理解し、「ふだんの生活や社会に出て役立つように勉強したい」と意欲をもっていることが明らかになった。学校においては、このような児童生徒の学習に対する意識を踏まえ、学習指導を展開していくことが必要である。

学校での学習状況では、「分かることと分からないことが半分くらいずつある」「分からないことが多い」「ほとんど分からない」という児童生徒を合わせると、小5は27.2%、中2では47.7%になることから、児童生徒の授業内容の理解度を高めるために、個に応じたきめ細かな指導の一層の充実を図るなど、授業の工夫・改善が求められる。

家庭での学習状況においては、昨年同様に十分とは言えない状況であり、さらなる児童生徒の学習習慣の定着を図るため、学校と家庭が一体となった取組が必要である。

























古紙配合率100%再生紙を使用しています  
白色顔料7%の再生紙を使用しています



この冊子は、1,200部作成  
し1部当たりの印刷単価  
は233円となっています。